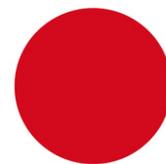


土堂小

の研究



JAPAN HERITAGE

日本遺産

広島県教育委員会指定
「学びの変革」パイロット校
平成27年度
尾道市教科・課題別研究指定校
(コミュニティ・スクール)

研究主題

主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造
—課題発見・解決学習のための授業づくりと学ぶ習慣づくりを通して—

平成27年11月16日(月)
主催 広島県教育委員会
尾道市教育委員会校
尾道市立土堂小学校

尾道市立土堂小学校

ごあいさつ

土堂っ子太鼓の音が、今朝も尾道の町に響き渡っています。

本日、全国各地から多くの先生方のご参加をいただき、このように盛大に教育研究発表会を開催できますことに心から感謝申し上げます。

本校は、平成17年にコミュニティ・スクールの指定を受け、以来、地域とともに歩む学校として、学校運営協議会から示されたミッションステートメントの達成を目指し、教育活動の充実を図ってまいりました。本年度は、①基礎基本を大切にし、確かな学力を育む学校 ②学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校 ③尾道への郷土愛を高める学校 ④地域と保護者が共に育て支える学校－土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する－の4つを目指す学校像として、日々取り組んでまいりました。

また、本年度、広島県教育委員会から「学びの変革」パイロット校、尾道市教育委員会から「教科・課題別研究指定校」の指定を受け、「思考の形成」、「他者視点の取得」、「自己モニターの機能」を視点に、複数の教科で応用できる汎用性の高い授業を探究してまいりました。特に、本年度は「主体的な学び」を研究の中心とし、課題発見・解決学習のための授業づくりと学ぶ習慣づくりについて研究を重ねてまいりました。

本日、これらの実践の一端を発表いたしますが、私たちの取組は試行錯誤の繰り返しで、日々模索しながら歩んでいるところです。皆様からご指導、ご助言をいただき、さらなる改善、発展に向け、一層の努力を重ねてまいります。

終わりにになりましたが、本校の研究推進に温かいご指導、ご支援をいただきました多くの先生方に心から感謝を申しあげ、あいさつといたします。

平成27年11月16日

尾道市立土堂小学校

校長 佐々木 智彦

目 次

ごあいさつ

I	平成 27 年度土堂小学校スクールプラン	1
II	教育研究計画	2
1	研究構想	
2	研究の概要	
(1)	研究主題	
(2)	研究仮説	
(3)	研究主題設定の理由	
(4)	研究のねらい	
(5)	研究内容（研究の方向）	
(6)	検証の指標	
(7)	到達目標	
3	指導・助言者	
4	研究計画	
III	具体的な取組	7
1	各教科の取組	
2	具体事例	
	・シンキングツールを活用した具体的事例（第 6 学年国語科）	
	・学びのステップを意識した具体的事例（第 5 学年総合的な学習の時間）	
IV	基礎・基本定着と学ぶ習慣づくりのための取組	13
1	モジュール授業の原理	
2	モジュール授業の内容	
3	モジュール学習目標	
4	モジュール学年系統表	
V	研究の結果と考察	16
1	意欲	
2	学力検査	
3	思考の形成	
4	主体的な学び	
VI	研究のまとめ	22
1	成果	
2	課題と今後に向けて	

Ⅶ	日 程	23
	会場案内図	25
Ⅷ	全体会	26
	主催者挨拶	
	実践報告	
	分科会	
	講演	
	閉会挨拶	
Ⅸ	公開授業Ⅰ	
	モジュール授業	
	第1学年	33
	第2学年	34
	第3学年	35
	第4学年	35
	第6学年	36
	特別支援学級（知的）	37
	総合的な学習の時間	
	第5学年1組「祝！日本遺産」（前半）	39
X	公開授業Ⅱ	
	国語科	
	第1学年2組「おとうとねずみチロ」	43
	第2学年1組「ニャーゴ」	46
	第3学年1組「モチモチの木」	49
	第6学年1組「ヒロシマのうた」	52
	特別支援学級「まちについて調べてしようかいしょう」「報告します、みんなの生活」	55
	社会科	
	第3学年2組「学校のまわりの店ではたらく人」	61
	第4学年1組「ごみのしよりと利用」	64
	算数科	
	第1学年1組「ひき算（2）」	67
	第2学年2組「かけ算（3）」	70
	第6学年2組「比例と反比例」	73
	総合的な学習の時間	
	第5学年1組「祝！日本遺産」（後半） ※39 ページを参照	

I 平成27年度 土堂小学校スクールプラン

夢と志を抱きグローバル社会を生き抜く子どもの育成

平成27年度 コミュニティ・スクール 土堂小学校スクールプラン

広島県教委指定 「学びの革新」パイロット校

学校教育目標

**志を持ち未来を拓く子どもの育成
「自ら学ぶ」**



ミッションステートメント (学校運営協議会)

- 1 基礎・基本を大切にし、確かな学力と健やかな心身を育む学校
 - 2 学ぶ力、遊ぶ力、伝える力、受容する力を育む学校
 - 3 尾道への郷土愛を高める学校
 - 4 地域と保護者が共に育て支える学校
- 土堂小学校の教育への理解を深め、地域や保護者同士の交流を促進する-

スクールミッション (尾道市教育委員会)

ミッションステートメントに基づく教育活動の充実と発信
グローバル社会を生き抜く力を育成するこれからの小学校教育の創造

知

「自ら学ぶ子」

- 学びのための習慣づくりと基礎・基本の定着
 - ・ 個に応じた指導
 - ・ モジュール授業
 - ・ 検定試験への挑戦
 - ・ 家庭学習の定着
- 主体的な学習の構築
 - ・ 課題発見・解決学習の充実
 - ・ 作品募集への積極的応募
- 尾道への郷土愛の育成
 - ・ 「総合的な学習の時間」におけるカリキュラム開発

徳

「思いやりのある子」

- 「土堂っ子太鼓」の継承
- マナーの定着と奉仕の精神の涵養
 - ・ あいさつの励行
 - ・ 主体的な清掃活動
- 道徳実践力の向上
 - ・ 道徳授業の充実
 - ・ 道徳的環境の整備
- 読書活動の充実
 - ・ 朝読書
 - ・ 推薦指定図書の読破
 - ・ 委員会活動の活性化

体

「根気つよくやりぬくたくましい子」

- 体力の向上
 - ・ 体育授業における運動量の確保
- 保健・安全指導の充実
- 保健・安全管理の徹底
- 食育の充実

体験的な学習・異学年交流の推進

教育のプロとしての自覚と誇りをもつ教師

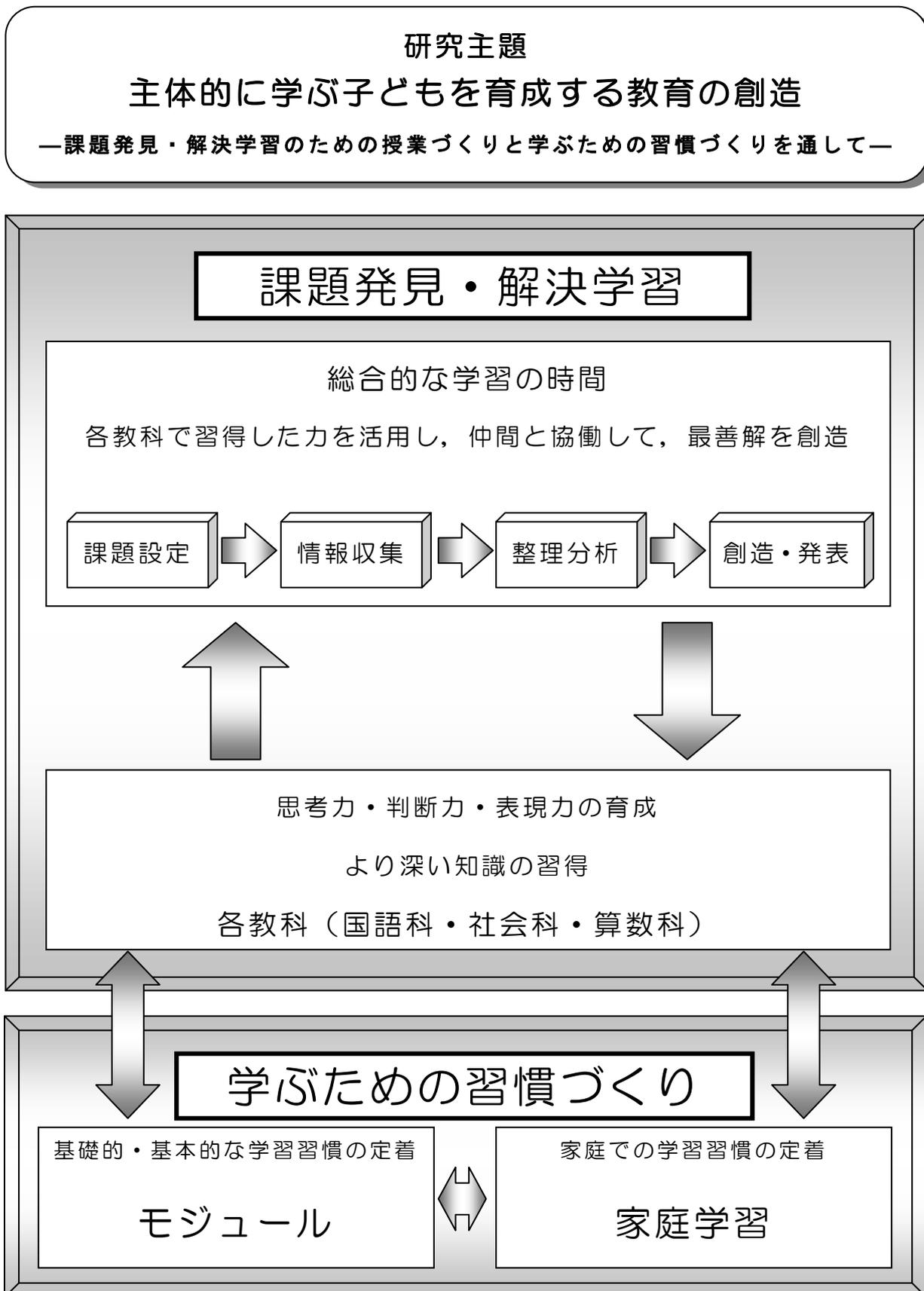
- ・ 「出会い」「きっかけ」「体験」を大切にする教師
- ・ 言葉を大切にする教師
- ・ 傾聴できる教師

家庭・地域との連携

- ・ 学校評議員との連携
- ・ 積極的な情報公開・発信
- ・ 地域行事への積極的な参加

II 教育研究計画

1 研究構想



2 研究の概要

(1) 研究主題・副題

主体的に学ぶ子どもを育成する教育の創造
 ～課題発見・解決学習のための授業づくりと学習習慣づくりを通して～

(2) 研究仮説

基礎的・基本的な学習習慣の定着を図り、国語科・社会科・算数科において、課題発見・解決学習を進め、思考力・判断力・表現力を育成することで、各教科で習得した力を活用し、仲間と協働して、主体的に学ぶ児童を育成することができるであろう。

(3) 研究主題の設定理由

21世紀はグローバル化が一層進み、多様な価値観、自分とは異なる文化や習慣に根付いた人々と、正解のない課題や経験したことのない課題を解決していかなければならない「多文化共生」の時代へと向かっていく。このような時代を生きる子ども達は、自己を確立しつつ、他者を受容し、多様な価値観を持つ人々と共に思考したり、協力・協働したりしながら課題を解決することで、新たな価値を生み出し、社会に貢献していくことがより一層求められていく。

そのため、一人一人が他者の考えや意見を受容したり、尊重したりしながら、よりよい考えや価値を生み出していくための思考力・判断力・表現力を育てていく必要がある。つまり、一人一人の「自分とは異なる他者を認識し、理解する」「他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考する」「他者との協調、協働を図りながら新たな価値を生み出す」といった能力を高めていく必要があると考える。

本校では、これまで、思考力・表現力を高めるため、『思考の形成』『自己モニターの機能』『他者視点の取得』を関連付けるためのシンキングマップを活用した授業づくりを行い、児童一人一人が事実をもとに課題に対する理由付けをもとに考えを比較・分類・関連付け、児童の思考を深めていく授業の創造に努めてきた。これにより、児童は他者とかかわり合いながら学ぶことの楽しさを味わうとともに、他者の発言を聞き、自分なりの考えや意見を述べる姿が増えてきた。また、モジュール授業などで、学習を支える基礎的・基本的な言語の力などを高めることができた。

しかし、児童の実態として、『平成26年度「基礎・基本」定着状況調査』の結果では、「活用問題に課題があること」「理由付けの仕方が事実を抜き出すことに止まっていたり根拠を上げられなかったりする児童もおり、自分の考えを表現することに個人差があること」や「必要な条件を考えながら筋道を立てて考えたことを表現することに抵抗を感じている児童もいること」「知識を活用して課題を解決するために必要となるスキルが身に付いてないことや学習意欲を高めること」が課題として挙げられる。これらは、指導者が、児童の思考力・表現力を高めるため、「複数の情報や事実をもとにして、それらを比較・分類・関連付けたり、発展させたりして学びを深める授業を行うことが十分できていないこと」や「他者の意見を手がかりにして学びを深めていく喜びや充実感を十分に味わせていないこと」などが挙げられ、主体的に学ぶ児童の育成につながる授業づくりを行う必要がある。

そこで、課題発見・解決学習のための授業づくりと学習習慣づくりの二つの柱で研究を行うことにより、主体的に学び、思考力・判断力・表現力を高める児童を育成することができると考え、本研究主題を設定する。

(4) 研究のねらい

- 「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた授業づくりを通して、思考力・表現力を育成する。
- 児童の学習意欲を高める単元計画の工夫や課題設定の工夫を行い、主体的に学ぶ児童を育成する。
- 「自己モニターの機能」を行うため、自分の行動や思考方法そのものを自分で反省・振り返り・修正する場面の工夫を行い、メタ認知を高める。
- 基礎的・基本的な力を付けたり、意欲を高めるためのモジュール授業の工夫を行い、基礎的な知識の定着を図る。

(5) 研究内容（研究の方向）

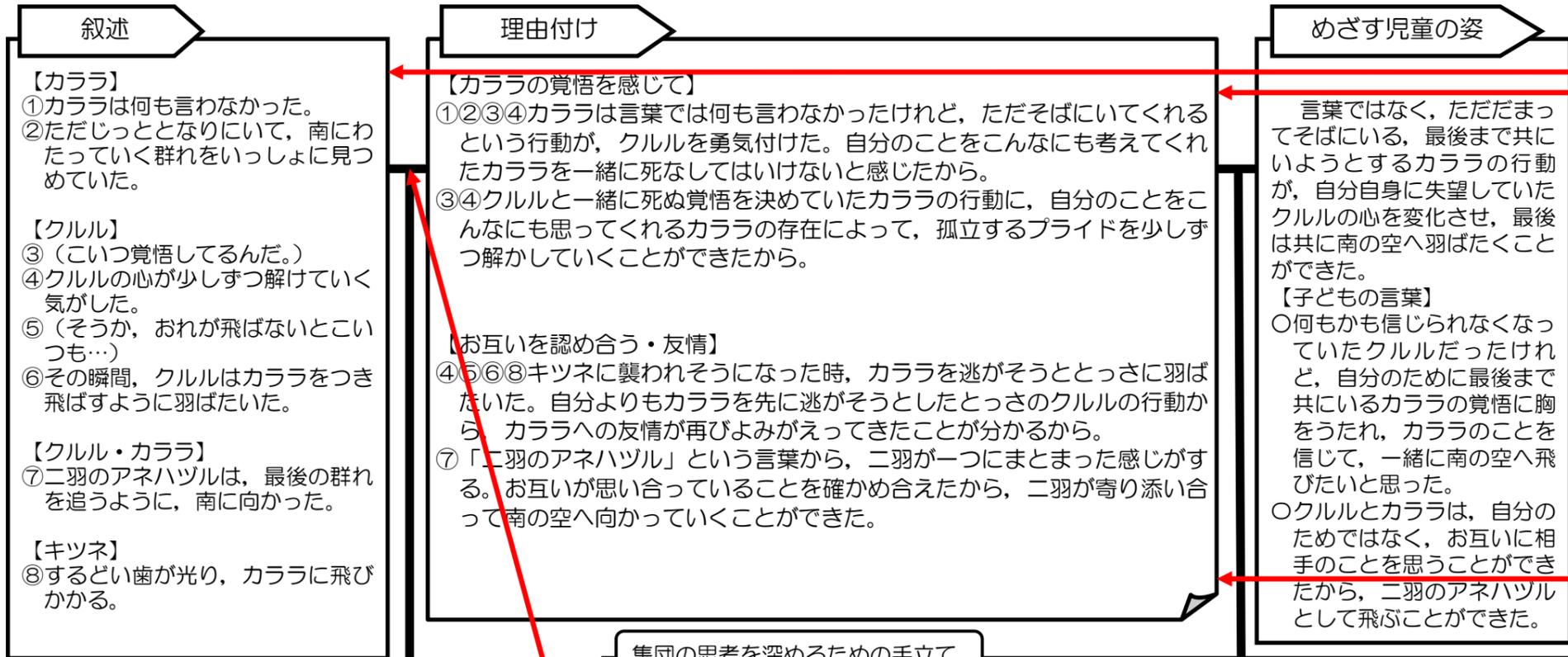
- ①「思考の形成」を行うため、思考のツールを明らかにし、比較・分類・関係付ける授業の工夫を行う。
- ②「他者視点の獲得」「自己モニターの機能」を行うため、他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫、自分の行動や思考方法そのものを自分で反省・振り返り・修正する場面の工夫を行う。

視点	概要	方法
思考の形成	<ul style="list-style-type: none"> ・「叙述・事実」をもとに自分の考えを理由付け、表現する。 ・「既習事項・既習知識」をもとに自分の考えを整理し、理由付け、表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①「叙述・事実」「理由付け」の内容整理を行う。 ②「既習事項・既習知識」の明確化を行う。 ③思考を形成するための個に応じた工夫を行う。 (例) ワークシートの活用 具体物・具体例の提示 問題提示の工夫など
他者視点の取得	<ul style="list-style-type: none"> ・観察したり推測したり他者の気持ち・考え・立場を推し量る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①思考のツールを活用する。 (例) 比較する 分類する 関係付ける 関連付ける 理由付ける 見通す 般化する ②他者とのかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫を行う。 (例) ペアで話し合う グループで話し合う
自己モニターの機能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の学びや学び方を修正したり、自分の学びの成長を実感したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ①目指す児童像を明確にし、自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直し、振り返りの場の設定を行う。 (例) キーワード、友達の学びのよさを振り返りに書く。

○「思考の形成」「他者視点の取得」「自己モニターの機能」を関連付けた土堂小シンキングマップ

6-1 国語科
「風切るつばさ」

(中心の発問) クルルはなぜ再び飛べるようになったのだろう。



思考を形成するための手立て

- ・飛べるようになる前と、飛べるようになった後のグラフの差を比較することで、飛べるようになった時にどんな心情の変化があったのか、自ら問いを持たせる。
- ・クルルの行動や心内語が書かれている叙述に着目させることで、カララとの関係性をとらえやすくする。

集団の思考を深めるための手立て

- ・「⑧キツネが飛びかかったこと」を理由付けに挙げる児童には、「死ぬ覚悟であったクルルだから逃げる必要はないのでは。」と切り返し発問をすることで、「カララを突き飛ばすように羽ばたいた」叙述に着目させる。
- ・カララの「覚悟」とはどのようなものだったかを問い、クルルへの謝罪・救済の思いだけでなく、設定場面のグラフの距離(体の弱いカララにえさをやっていたクルルの二羽の関係)と関連付けながら、クルルに手を差し伸べることができなかった自分への葛藤、自分自身を変えたい思いがあったことに気付かせる。
- ・二羽のグラフが一番近づいた時を問うことで、これまで「クルルとカララ」だったのが「二羽のアネハツル」となっていることに着目させ、二羽の心の距離をとらえやすくする。

【思考の形成】

- 「叙述・事実」「理由付け」の内容整理
- 既習事項・既習知識の明確化

【自己モニターの機能】

- 新しい学びを構築する。自分の考えを修正する。
- 目指す児童像を明確にし、自分の学びや思考、学び方そのものを見つめ直す振り返りの場の設定
(例) キーワードや友達の学びのよさを振り返りに書かせる。

【他者視点の取得】

- 他者とかかわり合わせるための考えの整理

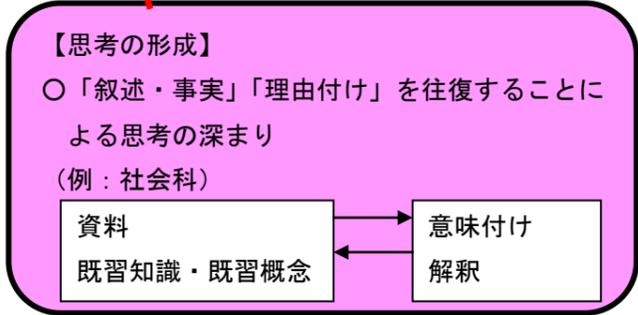
【思考の形成】

- 集団の思考を深めるために切り返しの発問やゆさぶりの発問をする。
- 思考のツールを活用する。
(例) 比較する
分類する
関係付ける
関連付ける
理由付ける
見通す
一般化する

□は対象

【思考の形成】

- 思考を形成するための個に応じた工夫
(例) ワークシートの活用
具体物・具体例の提示など
- 叙述・事実をもとに理由付けさせる。



【他者視点の取得】

- 他者とかかわり合いを意識した共同学習や学習形態の工夫を行う。

(6) 検証の指標

	検証の指標及び方法		達成目標
意欲	○「授業の内容がよく分かる」と考える児童の割合	○児童アンケート及び観察	・肯定的評価 80%以上
学力検査	○広島県「基礎・基本」定着状況調査 ○全国学力・学習状況調査	○学力テスト分析	・学校平均通過率 県平均通過率より+12以上
	○総合学力テスト		・平成26年度平均正答率 83.8%
思考形成の	○自力で考えたり表現したりできる児童の割合 ○理由付けをして考えを深めている児童の割合	○評価問題による見取り	・児童の思考に広がり、深まりが見られる児童 86%以上
の他者視点 取得	○他者との考えの違いや共通点、及びそのよさに気づいた児童の割合	○アンケート調査	・自分と他者との学びを肯定的にとらえる児童 84%以上
学び 主体的な	○主体的な学びのための課題発見・解決学習に取り組んでいる児童の割合	○アンケート調査	・肯定的にとらえる児童 85%以上

(7) 到達目標

【平成27年度】

- ①-1 「基礎・基本定着状況調査」通過率(第5学年)(平均通過率+12%)
「全国学力・学習状況調査」通過率(第6学年)(平均通過率+12%)
「総合学力テスト」正答率(全学年)(平均正答率+12%)
評価問題一思考力・判断力・表現力を問う問題の正答率(80%以上)
- ①-2 「授業の内容がよく分かる。」児童の割合【質問紙】(80%以上)
- ② 自力で考えたり表現したりできる児童の割合【評価問題による見取】
(平成26年度+2%)
理由付けをして考えを深めている児童の割合【学習前後の記述分析】
(平成26年度+2%)
- ③ 他者との考えの違いや共通点、及びそのよさに気付いた児童の割合
【質問紙, 記述分析】
(平成26年度+2%)

3 指導・助言

氏名	所属・職名等	備考
林 武広	広島大学大学院教育学研究科 教授	
黒上 晴夫	関西大学総合情報学部 教授	
木村 博一	広島大学大学院教育学研究科 教授	
河野 智文	福岡教育大学国語教育講座 教授	
岩田 耕司	福岡教育大学数学教育講座 准教授	
村上 大樹	広島県立尾道特別支援学校 教諭	
村上 正子	広島県東部教育事務所 指導主事	
升谷 英子	広島県東部教育事務所 指導主事	

4 研究計画

月 日	研 修 内 容	講 師	
4	2日(木)	研究構想について モジュール授業について	
	21日(火)	全国学力・学習状況調査	
	30日(木)	授業研究(モジュール) 熟議(「学びの革新」アクションプラン)	
5	1日(金)	授業研究(モジュール) 協議会(モジュール)	
6	2日(火)	授業研究(社会科 才谷・算数科 川本)	
	9日(火)	「基礎・基本」定着状況調査	
	10日(水)	授業研究(国語科 隆杉・森口)	河野教授(福岡教育大学)
	19日(金)	授業研究(算数科 中村・舛上)	岩田准教授(福岡教育大学)
7	1日(水)	授業研究(国語科 石倉)	村上教諭(尾道特別支援学校)
	6日(月)	サテライト(総合的な学習の時間)	福田先生(広島県教育センター)
	7日(火)	授業研究(国語科 石津・島本)	村上先生(東部教育事務所)
	8日(水)	授業研究(社会科 谷川・渡邊)	木村教授(広島大学大学院)
	13日(月)	授業研究(総合的な学習の時間 保森)	黒上教授(関西大学)
	15日(水)	1学期の成果と課題	
	22日(水)	教育研究会に向けて	
	23日(木)	指導案の提出について	
	29日(水)	教育研究会単元計画提出	
8	5日(水)	教育研究会指導案提出 紀要【構想・基礎基本の取組】提出	
	19日(水)	研究会モジュール指導案提出 紀要【具体的な取組】提出	
	25日(火)	サテライト(図画工作科) 熟議(育てたい資質・能力)	大和先生(広島県教育センター)
	26日(水)	学力テスト分析 評価問題の作成について 道徳地域公開指導案提出	
9	16日(水)	評価問題の実施・分析	
	25日(金)	紀要【成果と課題】提出	
11	16日(月)	教育研究会	林教授(広島大学) 黒上教授(関西大学) 河野教授(福岡教育大学) 岩田准教授(福岡教育大学) 村上教諭(尾道特別支援学校) 村上指導主事(東部教育事務所) 升谷指導主事(東部教育事務所)
	18日(水)	教育研究会反省(部会)	
	25日(水)	教育研究会反省(全体)	
1	8日(金)	総合学力テスト	
	10日(水)	総合学力テスト分析	
2	3日(水)	全学年検証実施	
3	9日(水)	来年度研究について	

Ⅲ 具体的な取組

<国語科>

第1学年 単元名「ここがいちばんすきなんだ！～すきなところをしょうかいしよう！」学習材「おおきなかぶ」

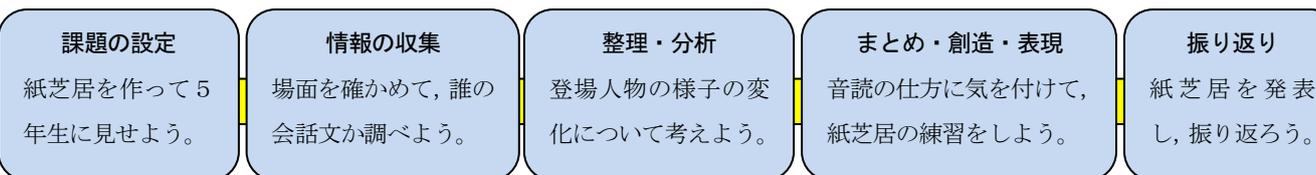


本時の目標 これまでの場面を比べ、一番好きなところを見付けることができる。



「おおきなかぶ」の好きな場面を選ぶ児童が教材文をしっかり読み込み、自分の考えをもって授業に参加することができた。また、場面絵のシールを配り、好きな場面を選びやすくした。児童が想像を広げて読んでいるとはどういう姿のことを言うのか、そのための手立ては何なのか、工夫する必要があった。

第2学年 単元名「紙芝居の発表をしよう～ふたりのどんなところが友だち？」学習材「お手紙」

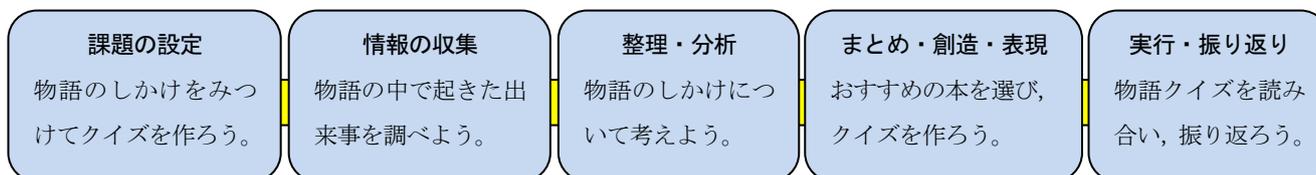


本時の目標 お手紙の内容を知り、幸せな気持ちに変わる二人の様子や気持ちを想像しながら読むことができる。



5年生に紙芝居の発表をするという言語活動を仕組んだ。心理曲線により、意見を言いやすい環境をつくることができた。話合いの場面では、前の場面と比較したり、動作化させたりして考えを深めることができた。思考させるための発問を準備し、立ち止まる場面を設定することで、さらに思考が深まった。

第3学年 単元名「物語クイズを作ってお話を紹介しよう」学習材「ゆうすげ村の小さな旅館」



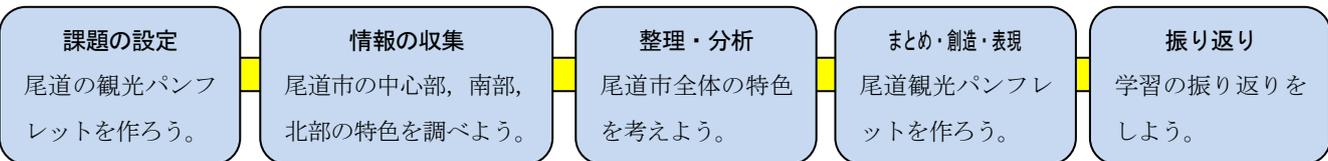
本時の目標 物語全体の出来事の流れを確かめ、語や表現に着目して、物語のしかけを探しながら読むことができる。



物語クイズを作成するという言語活動を仕組んだ。本文の「そういうこと」に着目し、児童に具体的に説明をさせたことで思考が深まった。導入で説明した「しかけ」という言葉が児童に落ちていなかったため、どの場面でもどのように「しかけ」という意味を理解させたらよいか考えることで、児童の思考の流れがスムーズになった。

<社会科>

第3学年 単元名「市の様子～尾道の魅力再発見！」



本時の目標 「道の駅クロスロードみつぎ」で、御調町内でとれた野菜や尾道市の特産品を販売することで、尾道市北部に観光客を呼び込み、地域活性化に努めようとしていることを考えることができる。



市の様子を捉えさせるために、中心部や南部、北部を比較させながら、尾道の魅力を白地図にまとめる単元を計画した。本時では、北部のクロスロードみつぎを通して、児童に北部の特色を捉えさせた。課題を解決するために地図や写真を活用させた。北部の地域活性化の様子など、児童に何を分からせるか、教材研究を深く行い、ぶれないストーリー作りを行う必要があった。

第4学年 単元名「水はどこから～安心！安全！日本の水、再発見の旅」

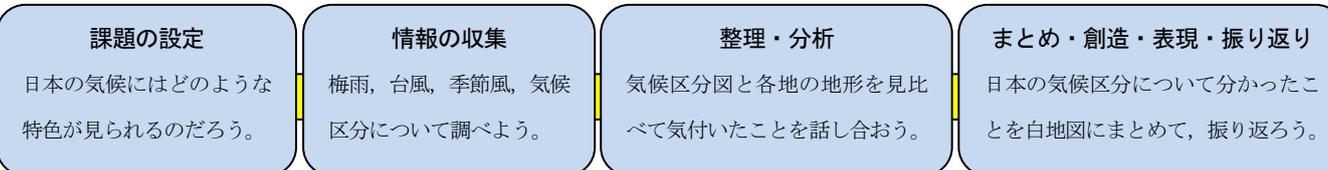


本時の目標 節水の重要性について考え、水資源を保っていくために自分ができることを考えることができる。



自分達の水の使用について調べたり、浄水場を見学したりした後に、これからの水の使い方について考える「活かす」場面の授業を提案した。児童の興味を引く資料を提示し、既習事項や生活経験を活かして児童が主体的に自分の考えを発言する姿が見られた。児童に考えさせるための制約は何か、教材研究を通して、明らかにしていく必要があった。

第5学年 単元名「日本の気候の特色～世界でもめずらしい日本の気候～」



本時の目標 日本の気候区分を白地図にまとめるための学習問題を考えて見通しを立てることができる。



単元の導入で日本の気候について考え、学習問題をつくる授業を提案した。地域の違う3月の写真を4枚比較することで、児童が疑問を抱き、学習問題を考えることができた。学習問題を収束させるために南北の位置だけでなく、地形に着目するような切り返しの発問を考えていく必要があった。

<算数科>

第1学年 単元名「ひきざん（1）『ひきざんの木』を作ろう」

課題の設定

ひき算になるお話をたくさん見つけて、ひき算の木を作ろう。

情報の収集

いろいろなひき算の場面を式に表そう。

整理・分析・まとめ・創造・表現

身の回りの場面を絵本に表そう。

振り返り

学習の振り返りをしよう。

本時の目標 絵を見て話をしたり、ブロックを操作したり、図に表したりする活動を通して、減法が用いられる場面（求残）を理解し、「のこり」を求めようとする。



減法の「求算」「求補」「求差」のうち、「求残」のお話を作り、残りを求める場面を減法としてとらえる授業を提案した。減法につながる言葉をたくさん児童から引き出させた。ブロックを操作し、ワークシートに自分の考えを書かせ、4つの解法を取り上げた。ひき算のブロック図の操作の後が残る工夫をする必要があった。

第2学年 単元名「ひき算のひっ算『ひき算のひっ算マスターできるかな?』

課題の設定

同じ位でひき算ができないとき、筆算はどうすればいいのかな。

情報の収集

いろいろなひき算の場面を式に表そう。

整理・分析・まとめ・創造・表現

同じ位でひき算ができない問題の虫食い算を作ろう。

振り返り

学習の振り返りをしよう。

本時の目標 繰り下がりのある（2位数）－（2位数）の筆算の仕方を考える。



「何が出るかなボックス」を使って、問題の提示の仕方を工夫することで児童が興味をもって、学習に参加することができた。また、児童の発言を全体でしっかり聞かせることにより、授業が深まっていた。比較する視点を児童にもたせ、児童の思考の流れが分かるように構造的に板書を工夫する必要があった。

第6学年 単元名「分数のかけ算～ワックスはぬれるかな～」

課題の設定

(分数) × (分数) ができるようになる。

情報の収集

いろいろな分数のかけ算の問題を解こう。

整理・分析・まとめ・創造・表現

分数のかけ算の計算の仕方や、逆数についてわかったことをまとめよう。

振り返り

身の回りにおける分数のかけ算を計算してみよう。

本時の目標 立式の仕方を理解するとともに、既習事項から課題解決の見通しをもつことができる。



単元の導入の分数のかけ算の計算の仕方を、面積図を使って考える授業を提案した。式を立てるだけでなく、実物の板、数直線、表、面積図を関係付けて思考させた。児童が、図や表、式を関係付けながら説明することができた。また、かける数を分数にする前に、整数で考えさせ、分数をかけるイメージがしやすくなった。

<総合的な学習の時間>

第5学年 単元名「『映画のまち尾道』の謎を解き明かそう！」

課題の設定

なぜ、大林監督は、尾道でたくさんの映画を撮影したのだろう。

情報の収集

ロケ地を見学しよう。
インタビューをしよう。

整理・分析

集めた情報を整理して自分の考えをまとめよう。

まとめ・鑑・観

ロケ地になった理由について討論しよう。

実行

大林監督にインタビューをしよう。

振り返り

総合的な学習の時間に身に付いた力を振り返ろう。

本時の目標 「映画のまち尾道」で学んだことを振り返ることを通して、2学期以降の課題発見・解決学習に意欲と自信をもつことができる。



総合的な学習の時間の目標や評価を『学びの変革』アクション・プランの資質や能力に対応させた授業を提案した。また、フィッシュボーン（シンキングツール）を活用し、児童が自分の考えを友達に伝えたり、全体で話し合ったりすることができた。ねらいを達成するために、どのシンキングツールを選択し、どのように活用するか考える必要があった。

<特別支援教育>

特別支援学級 単元名「インタビューをしてメモをとろう～たんぼぼ新聞」

課題の設定

たんぼぼ新聞を発行しよう。

情報の収集

メモをとるとき留意点を理解しよう。

実行

先生方にインタビューをしよう。

整理・分析

新聞記事にする内容を決めよう。

まとめ・創造・表現・振り返り

インタビューをしたことを振り返ろう。

- 本時の目標**
- A児 メモの取り方や話のまとまりに気を付けて、大事なことをメモに取りながら聞く。聞き取ったメモを基に話を再構成して話す。
 - B児 話の組み立てを意識してメモを取り、必要な質問を考え質問をする。質問の答えを書きとめ、聞き取ったメモを基に話を再構成して話す。
 - C児 話の組み立てを意識してメモを取り、必要な質問を考え質問をする。質問の答えを書きとめ、聞き取ったメモを基に話を再構成して話す。



単元を通して、話す力・聞く力を育てるために、「インタビューをしてメモをとろう～たんぼぼ新聞」という単元を開発した。それぞれの児童の得意なことを生かして、編集長、キャスター、美術担当と役割を分担した。児童が主体的に学習に参加することができた。また、記者会見やニュース番組を通して、メモを取ったり、メモを基に話をしたりすることができた。

シンキングツールを活用した具体的事例

1 国語科 第6学年 単元名「心の距離グラフで交流しよう」
 学習材 人物と人物の関係を考えよう「風切るつばさ」東京書籍6年上

本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、人物と人物との関係を手がかりに、中心人物の心情の変化を読み取ることに課題意識をもち、その学び方を習得・活用することを通して、課題発見・解決力（スキル）や主体性・積極性（意欲・態度）を育成することができると思える。

課題の設定

- 初読の感想を持ち、交流会に向けて付けたい力を明確にし、学習計画を立てる。

〈学習計画〉
 風切るつばさでつける力は？
 人物と人物との関係を手がかりに、人物の心情の変化をとらえる力
 どうやって読む？
 関係性を折れ線グラフで表すと変化がわかりやすい
 クルルとカララの心の距離グラフに表す
 つけた力を自分なりにするには？
 『のどがかわいた』『あいつの年賀状』の心の距離グラフをうまく使って交流しよう

情報の収集

- 物語の設定、登場人物を確認し、構造分析をする。
- 登場人物の人物像を読み取る

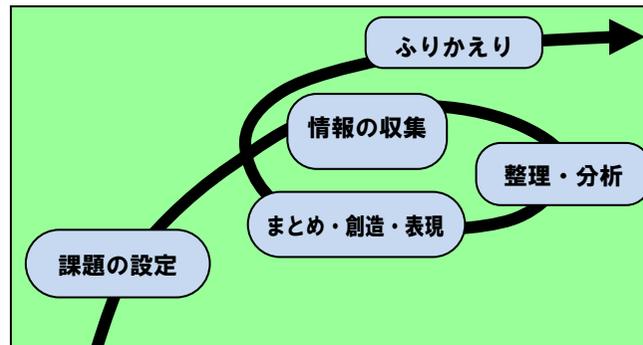


整理・分析

- 人物同士の関係性を考えながら、登場人物の心情の変化を読み取る。



課題発見・解決
 学習のための学びの
 ステップ



ふりかえり

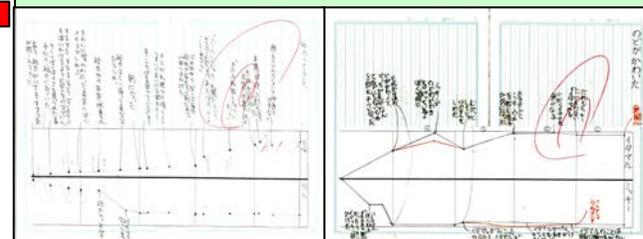
- 「心の距離グラフ」を交流し、身に付いた力と学び方を振り返る。

3つの作品の共通点・相違点をベン図にまとめることで、作品の特徴や、それぞれの「友情」の描かれ方について考えることができた。

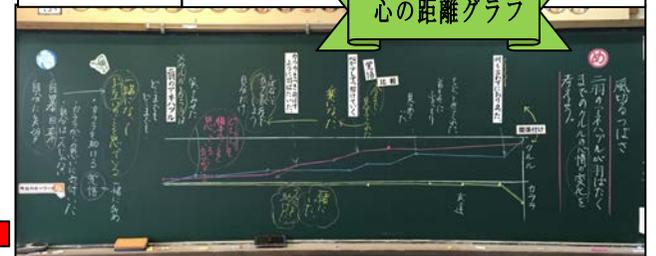
シンキングツール
 ベン図

まとめ・創造・表現

- 『のどがかわいた』、『あいつの年賀状』のグループに分かれ、「心の距離グラフ」を作成する。
- 教材文で学習し身に付いた力を、自分の選んだ作品で活用し、定着を図った。



シンキングツール
 心の距離グラフ



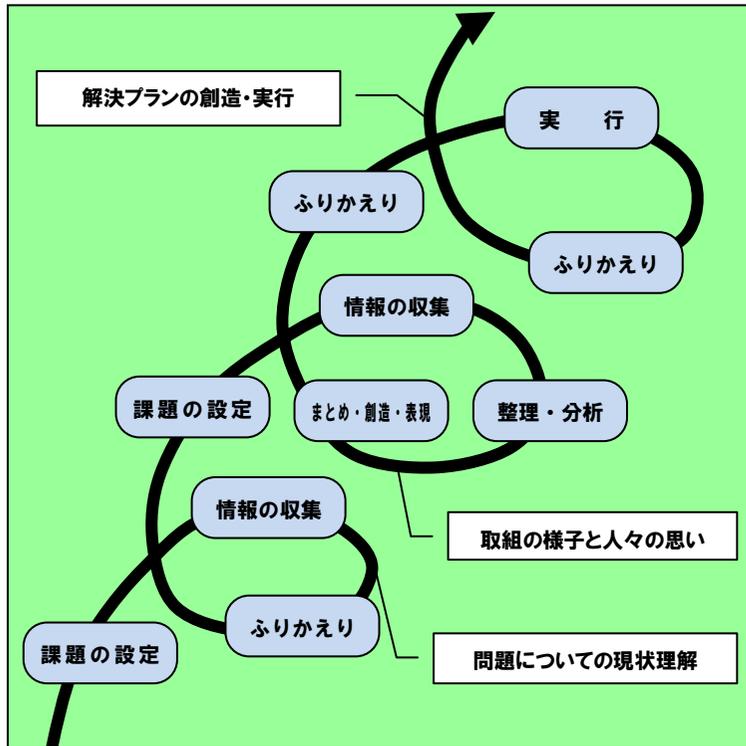
クルルとカララの心の距離が近づいたり離れたりする叙述と折れ線グラフの点を関連付けて表すことで、どの言葉によって心情の変化があったのか読み取ったことを視覚化することができた。

学びのステップを意識した具体的事例

2 総合的な学習の時間

第5学年 単元名「祝！日本遺産～空き家問題を解決しよう～」

課題発見・解決学習のための学びのステップ



本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元においては、地域の空き家問題を題材として取り上げ、空き家問題解決に向けて取り組んでいる地域のあらゆる人々との連携を通して、地域での調査活動や多面的に考えて解決方法を考え、創造する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習の実現を支援する。これらのことを通して、地域の空き家問題の現状と人々の思いについての理解（知識）、課題発見・解決力（スキル）や主体性・積極性（意欲・態度）、尾道市民としてのアイデンティティー（価値観・倫理観）を育成することができる。と考える。

課題の設定

どうして尾道の住みたい街
ランキングが低いのだろう。
尾道を住みたい街にしたい。

- 地域の現状について関心をもち、学習課題を設定する。



情報の収集

- ゲストティーチャーから土堂地区の空き家の現状と取組について話を聞く。
- 空き家の現状について知るために、フィールドワークをする。



まとめ・創造・表現

土堂地区の空き家を減らしたい。ホームページを作って、
ゲストティーチャーに見てもらおう。世界に発信しよう。

- 表現する内容を考え、作成する。
- 不足している情報を調べる。
- 中間発表をし、修正する。

国語科との関連
「資料を生かして考えたことを書こう」

ふりかえり

- 活動を振り返り、自己評価する。

実行

- 全体で話し合っってゲストティーチャーに発表する内容を決める。
- ゲストティーチャーに発表する。
- ホームページを発信する。

ふりかえり

- 収集した内容と活動を振り返り、自己評価する。

整理・分析

- 尾道市民として自分たちができる解決方法は何かという視点で収集した情報を整理・分析する。

国語科との関連
「立場を決めて討論をしよう」

ふりかえり

- 単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。

課題の設定

尾道のよさを生かしながら
土堂地区の空き家問題を
解決する方法を考えよう。

- 学習計画を立てる。
- 解決方法を考え、話し合う。
- 依頼文を書き、準備をする。

情報の収集

- 空き家再生に取り組んでいる人や地域に住む人、観光客などから話を聞く。
- 空き家再生の体験をする。

シンキングツール
座標軸



IV 基礎・基本定着のための取組

モジュール授業

1 モジュール授業の原理

モジュール授業では、児童に「基礎的・基本的な知識・技能」を習得させるための「読み・書き・計算」を中心とした徹底反復学習を行っている。高速で音読したり単純な計算を繰り返したりする徹底反復学習を行うことにより、脳の活性化が図られる。その結果、児童の学習能力が高まると考える。そのため、児童が集中して徹底反復学習に取り組むことができるように「スピード・テンポ・タイミング・個へのアプローチ」をキーワードとして指導の工夫を行っている。スピード感を保ちつつ、テンポ・タイミング良く教材を提示するツールとして、電子黒板等の情報機器を活用している。

2 モジュール授業の内容

モジュール授業は、国語科・算数科・その他の教科等の内容を、それぞれ 15 分間のユニットとして指導している。主な指導内容として、次に示すものがあげられる。

国語科	<p>(音読) 名文やリズムのある作品を音読することで、基礎となる音読する力や読解を助ける力を身に付けさせる。</p> <p>(辞書引き) 語彙能力の向上を図るために、辞書引き月間(9月)を設定して、集中して辞書引きに取り組んでいる。発達段階を考慮し、低学年ではルビ入りの国語辞典を使用している。</p> <p>(漢字の前倒し学習) 漢字習得率の向上を図るため、年度初めに新出漢字を前倒しして指導し、その後、漢字の反復学習を実施する。</p> <p>(聞き取り) 文学的文章や説明的文章等を聞き取り、正しく聞き取る力やメモを取り、聞き取ったことをまとめる力を身に付けさせる。</p>	<p>(フラッシュ)</p> <p>各教科・各学年に応じた内容を練習し、基礎的・基本的な知識・技能を身に付けさせる。また、当該学年だけでなく、前学年までの内容を繰り返し練習したり、確認したりすることで定着率を高める。</p> <p>【国語科】 文法、ローマ字、言語事項など</p> <p>【算数科】 計算、図形など</p> <p>【社会科】 地図記号、都道府県、歴史、世界の国々など</p> <p>【理科】 実験器具、理科用語など</p>
算数科	<p>(ます計算) ます計算に取り組むことで、算数科の基礎となる計算力の向上を図る。</p> <p>(そろばん) 低学年において、数感覚を養ったり、数と計算の意味について理解させたりするために、そろばんを指導している。</p>	
その他の教科	<p>(カルタ) 都道府県や歴史など各学年に応じた内容を練習し、教科における基礎的・基本的な知識を身に付けさせる。</p> <p>(タイピング) 情報機器活用能力向上を図るために、第2学年からタッチタイピングを指導している。</p>	

3 モジュール授業の学習目標

年度初めに各学年の音読・算数・その他の分野におけるめざす姿や数値を設定した。目標を意識しながら、児童の実態に合わせて指導を進めていくことができる考える。

	低学年	中学年	高学年
音読	<ul style="list-style-type: none"> 正しい姿勢，口形 はっきりと，正しく読む 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等) 	<ul style="list-style-type: none"> 正しい口形，伝わる声 内容を考えて読む (強弱・抑揚・間 等)
算数 計算	<ul style="list-style-type: none"> そろばんに慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 数量関係 量のイメージ 	<ul style="list-style-type: none"> 単位換算 算数用語の定義 数量関係 量のイメージ
その他	<ul style="list-style-type: none"> 英語に慣れ親しむ 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底 	<ul style="list-style-type: none"> 社会・理科の重要用語の徹底

【1年】

10ます足し算	10ます引き算	50ます足し算	100ます足し算
10秒	10秒	1分	3分

【2年】

100ます足し算	100ます引き算	10ますかけ算	100ますかけ算
2分	2分30秒	15秒	2分

【3年】

100ますかけ算	A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算
2分	1分30分	3分	3分	5分

【4年】

A型50問わり算	A型100問わり算	B型50問わり算	B型100問わり算	C型100問わり算
2分	3分	3分	4分30秒	5分

【5年】

C型100問わり算
4分

【6年】

C型100問わり算
3分

4 モジュール学年系統表

児童の実態に応じたモジュール教材の改善・開発を行った。作成した教材を一つのフォルダに集めて共有化し，どの学年の指導者も，当該学年だけでなくその他の学年の内容を確認したり，活用したりできるようにしている。そうすることで，新出した内容だけでなく，既習事項の内容を確認することができたり，計画的・系統的に進めたりすることができる考える。

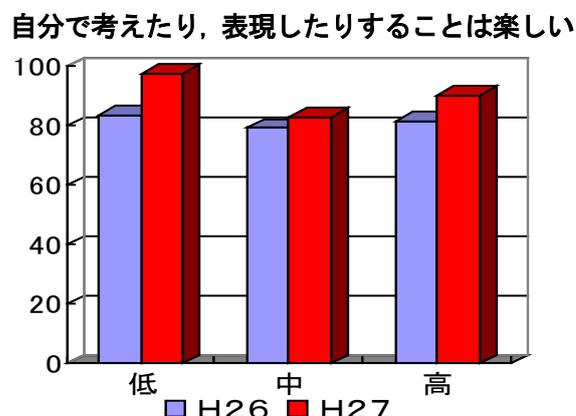
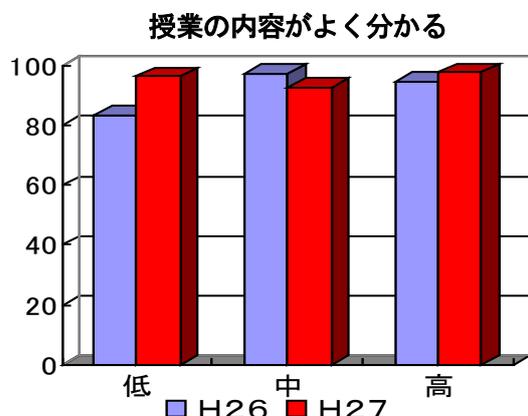
例【6年】

	国語的内容	算数的内容	社会・理科
4月	【漢字】 ・全漢字 ・リズム漢字 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【フラッシュ】 ・慣用句・敬語	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・対称, 倍数, 約数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
5月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・文字と式 ・逆数 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
6月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・文字と式 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
7月	【フラッシュ】 ・慣用句, 敬語, 熟語の構成 【音読】 ・雨ニモマケズ ・平家物語 ・論語 ・春暁 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・割合 ・図形の面積 ・逆数	(社)【フラッシュ】 ・歴史(人物, 事件) ・世界遺産 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
9月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・速さ ・体積 ・比	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
10月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比 ・体積 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
11月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・比 ・単位換算	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
12月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 【音読】 ・平家物語 ・論語 ・春暁 ・徒然草 ・孫子 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・比例, 反比例 ・文字と式 ・速さ	(社)【フラッシュ】 ・歴史(戦争～戦後) ・日本国憲法 ・権利と義務 ・国会, 内閣, 裁判所の働き 【歴史カルタ】 (理)【フラッシュ】 ・道具 ・実験用語 ・体のつくり
1月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・文字と式	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
2月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分, 約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合 ・図形	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし
3月	【フラッシュ】 ・和語, 漢語, 外来語の由来 ・数え方 【音読】 ・名言(聖徳太子, クラーク) 【聞き取り】 ・説明文	【プリント】 ・100問わり算 ・通分 ・約数 ・分数のかけ算, わり算 【フラッシュ】 ・単位換算 ・比 ・割合	(社)【フラッシュ】 ・地理(中1教材) ・歴史(縄文～平成) (理)【フラッシュ】 ・電気とわたしたちの暮らし

V 研究の結果と考察（中間）

「(6) 検証の指標」をもとに中間検証を行った。

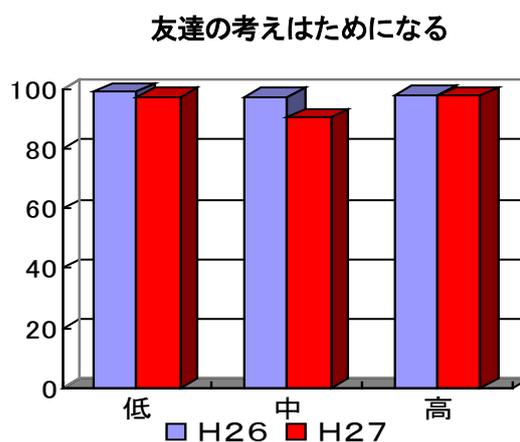
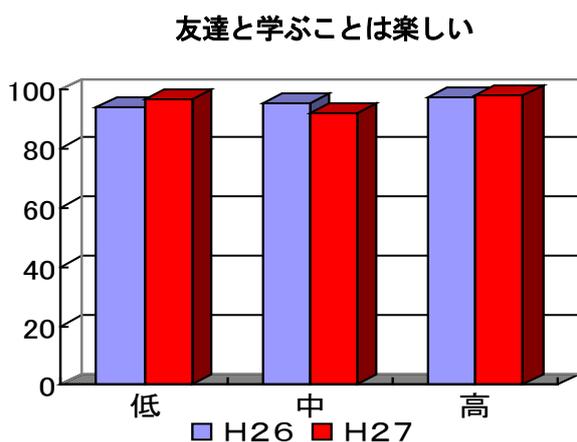
1 意欲（児童アンケート及び観察）



「授業の内容がよく分かる」と肯定的に答えている児童は低学年 94.4%、中学年 92.8%、高学年 97.6%で、目標値 80%を上回る。

「自分で考えたり、表現したりすることは楽しい」と答えている児童は、低学年 97.5%、中学年 83.1%、高学年 90.4%で目標値 80%を上回る。さらに、昨年度の低学年 83.5%、中学年 79.2%、高学年 81.6%をどの学年も上回っている。

授業の内容がよく分かり、自分で考えたり、表現したりすることは楽しいと答える児童の割合が昨年度と比較して概ね向上したのは、継続して3年目となるシンキングマップを活用した授業づくりと、主体的な学びを目指して今年度から取り組んだ課題発見・解決学習の成果が考えられる。



「友達と学ぶことは楽しい」と肯定的に答えている児童は低学年 96.2%、中学年 91.6%、高学年 97.6%で、目標値 80%を大幅に上回る。

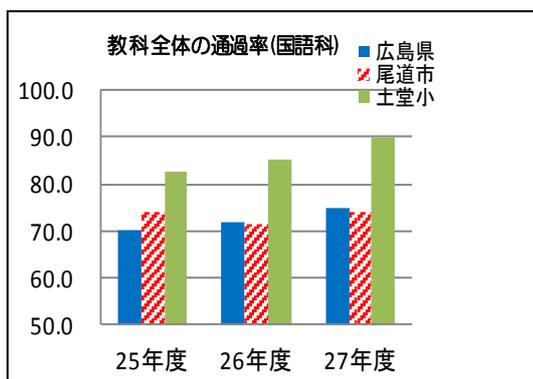
「友達の考えはためになる」と肯定的に答えている児童は低学年 97.5%、中学年 90.4%、高学年 97.6%である。他者との学びを肯定的にとらえる児童は、目標値 82%を大きく上回る。他者視点の取得や自己モニターの機能を関連付けた授業づくりによって、他の児童の考えに有用性を感じる児童が多く、その結果、友達との学びを楽しく感じる児童が多いと考える。しかしながら、昨年度と比較すると「友達の考えはためになる」と肯定的に答える児童の割合が若干減少している。

2 学力検査

(1) 広島県「基礎・基本」定着状況調査(通過率) —第5学年—

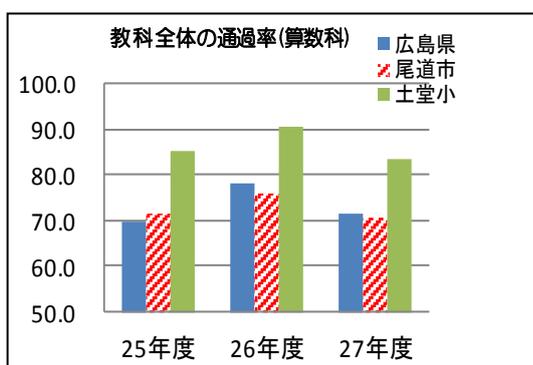
教科全体の通過率(国語科) (%)

	25年度	26年度	27年度
広島県	70.1	71.8	74.7
尾道市	73.9	71.2	73.9
土堂小	82.6	85.1	89.8
県との差	+12.5	+13.3	+15.1



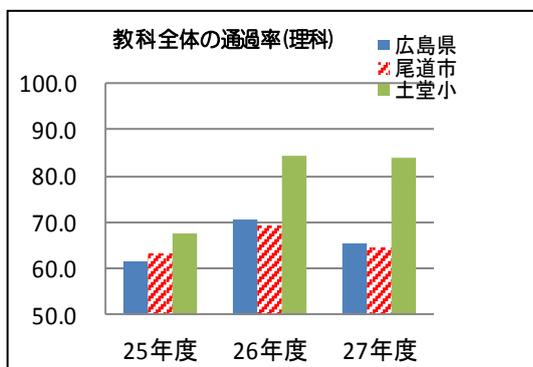
教科全体の通過率(算数科) (%)

	25年度	26年度	27年度
広島県	69.8	78.0	71.6
尾道市	71.5	76.1	70.8
土堂小	85.3	90.7	83.5
県との差	+15.5	+12.7	+11.9



教科全体の通過率(理科) (%)

	25年度	26年度	27年度
広島県	61.3	70.6	65.3
尾道市	63.3	69.2	64.5
土堂小	67.6	84.2	83.8
県との差	+6.3	+13.6	+18.5

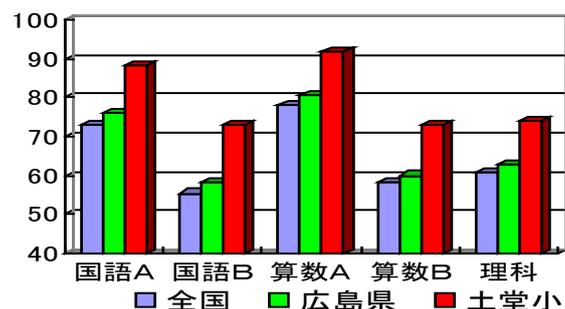


「基礎・基本」定着状況調査について		
3教科ともに広島県の通過率よりも高く、基礎的・基本的な学習内容は定着していると捉えている。		
教科	課題	今後の取組
国語	資料から情報を読み取り、その情報を活用して、文章を書くこと。	示されている条件を読み、それをもとに文章を書く活動に取り組む。
算数	図形の性質を理解することや三角形の作図、折れ線グラフと棒グラフの特徴や傾向を読み取ること。	問題から読み取ったことや考えたことを図や表、式、言葉で表現し、説明するなどの指導の工夫を行う。
理科	空気の温まり方やその動きについて、学習したことと、生活の中での出来事と結び付いていないこと。	学習したことが、日常生活や4年生「鉄道のレール」など)に関連しているということに気付かせる指導を行う。

(2) 全国学力・学習状況調査(通過率) —第6学年—

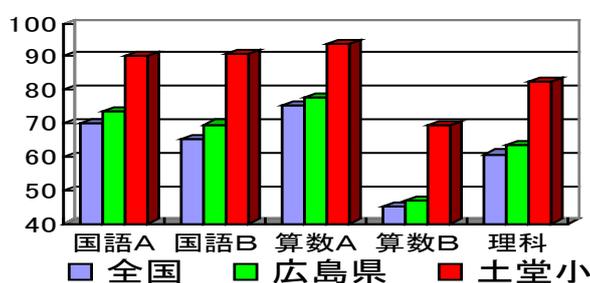
	26年度				25年度
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	72.9	55.5	78.1	58.2	60.9
広島県	75.9	58.3	80.7	60.1	62.9
土堂小	88.3	72.9	91.9	73.1	73.9
全国との差	+15.4	+17.4	+13.8	+14.9	+13.0

平成26年度 全国学力・学習状況調査



	27年度				
	国語A	国語B	算数A	算数B	理科
全国	70.0	65.4	75.2	45.0	60.8
広島県	73.8	69.7	77.7	46.7	63.2
土堂小	90.1	90.6	93.6	69.6	82.5
全国との差	+20.1	+25.2	+18.4	+24.6	+21.7

平成27年度 全国学力・学習状況調査



全国学力・学習状況調査について

主として「知識」に関する問題(国語A・算数A)、主として「活用」に関する問題(国語B・算数B)、全てにおいて全国の平均通過率よりも高く、「知識・活用」とともに定着が図られていると捉えている。

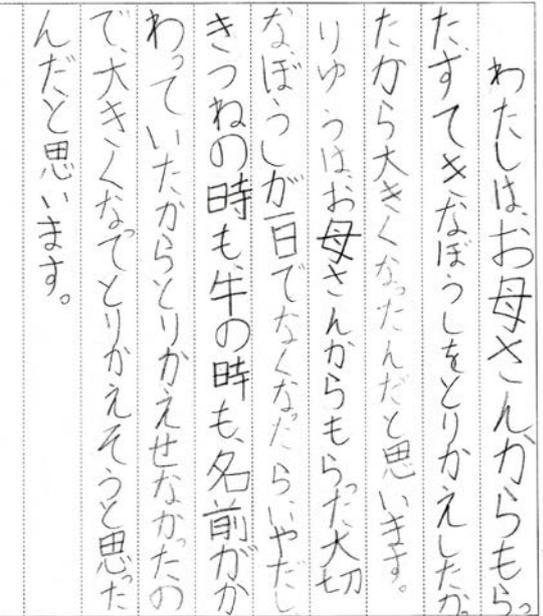
教科	課題	今後の取組
国語	目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり、複数の内容を関係付けたりしながら、自分の考えを書くこと。	コラム、随筆、投書などをはじめとする、様々な形態の文章に触れさせることや、読み手に伝えたいことの中心を明確にした上で、自分で調べた内容や関係者に取材した事柄の中から、取捨選択し、伝えたいことが読み手に伝わるように整理して、記事を書く指導を行う。
算数	基準量、比較量、割合の関係を正しくとらえること。	示された情報から基準量と比較量、割合の関係を正しくとらえ、基準量を正しく求めることができるように指導する。例えば、増量前の量を口として、20%増量した後の量が480mlであることを数直線に表すことが考えられる。図や数直線に表すことを通して、比較量である増量後の量は、基準量となる増量前の量の120%に当たる。というように数量の関係を整理してとらえた上で基準量を求めることができるようにする。
理科	予想が一致した場合に、得られる結果を見通して実験を構想できたり、水の温まり方を考察するために、実験結果をもとに自分の考えを改善したりすること。	実験結果を見通して、児童自ら実験を計画できるようにする指導を行う。 生活科から意図的に生活経験をさせたり、3年生以上では、器具に触れ操作体験を通して理解させたりする。また、観察する視点を明確にして、継続した観察活動を行う。

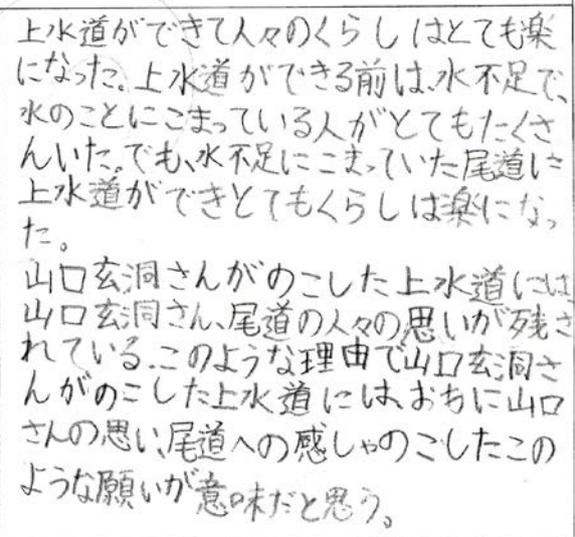
3 思考の形成

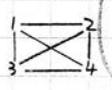
【自分で考えたり、表現したりできる児童の割合及び記述分析】

学年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	平均
割合 (%)	94.4	88.4	98.1	83.9	93.9	89.9	91.4

【評価問題】

<p>第2学年 国語科「名前を見てちょうだい」</p> <p>【評価問題】 えっちゃんは、どうして大きくなったのでしょうか。</p> <p>【評価基準】 帽子が食べられたことに対して、腹を立てていることを読み取り、表現している。</p> <p>【分析】 結論先行型で文章を書き、教材文から解釈したことを理由付けして自分の考えを説明することができるようになった。</p>	<p>【児童の解答例】</p> 
--	---

<p>第4学年 社会科「きょう土をひらく」</p> <p>【評価問題】 上水道ができて人々の暮らしはどのように変わりましたか。また山口玄洞が残した上水道は、私達にとってどのようなものでしょうか。考えを書きましょう。</p> <p>【評価基準】 上水道ができた後の尾道市や人々の暮らしの変化、上水道の価値のどちらかについて説明している。</p> <p>【分析】 山口玄洞が残した上水道と人々の暮らしの変化から上水道の価値を書き、さらに自分なりの解釈を説明することができるようになった。</p>	<p>【児童の解答例】</p> 
---	--

第6学年 算数科「ならべ方と組み合わせ方」	【児童の解答例】
<p>【評価問題】</p> <p>4チームでバスケットボールの試合をします。1試合を8分とします。どのチームとも1回ずつ試合をすると、全部で何分かかるでしょうか。入れかえの時間を考えないものとします。</p>	<p>まず、全部で何試合になるかを求めます。</p>  <p>この図は、1と2、2と1のように重なりがなくなるように、試合する相手どうしを線で結んだものです。線の数は全部で6本なので、試合は全部で6試合になります。</p>
<p>【評価基準】</p> <p>試合の数を求め、その時間を計算しながら説明している。</p>	<p>最後に、全部の試合を終えるまでにかかる時間を求めます。</p>
<p>【分析】</p> <p>自分の考えた順番や図について説明することができた。図と式と言葉を使いながら、自分の考えを順序立てて説明することができるようになった。</p>	<p>1試合に8分かかり、その試合が6回あるので、$8 \times 6 = 48$で48分になります。</p> <p>だから、どのチームとも1回ずつ試合をすると、48分かかります。</p> <p style="text-align: right;">A. 48分</p>

9月末に全学年で研究教科である国語科，社会科，算数科の評価問題を作成・実施し，記述分析を行った。自力で考えたり，表現したりすることのできる児童の割合は上記の通りで，概ね目標値84%を上回った。4月に教科ごとに児童の課題としていた国語科「物語全体を読み，考えを書くこと」，社会科「既習の知識や概念を使って考えを書くこと」，算数科「図や表，式，言葉を使って考えを書くこと」への改善が図られつつある。

4 主体的な学びについて

主体的な学びにおける児童の実態を把握するために，次のアンケートを行った。

「授業では，学級やグループの中で自分たちで課題を立てて，その解決に向けて情報を集め，話し合いながら整理して，発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う。」

単位は%	1	2	肯定的	否定的	3	4
全国（4月）	32.3	42.6	74.9	25.1	20.6	4.4
6年（4月）	37.0	56.5	93.5	6.5	6.5	0
5年（9月）	31.6	57.9	89.5	6.5	6.5	0
4年（9月）	24.1	54.6	78.7	21.3	12.2	9.1
3年（9月）	35.8	39.6	75.4	24.6	20.8	3.8

アンケートを実施した3年生以上の全ての学年で肯定的評価が全国平均74.9%を上回った。来年度以降も継続して児童の実態を調査し，分析していきたい。

今年度開発した授業単元一覧

教科	学年	単元名
国語科	1	「ここがいちばんすきなんだ！～すきなところをしょうかいしよう！～」 「気持ちを込めて音読発表会～2年生みたいに 読みたいな～」
	2	「紙芝居の発表をしよう～ふたりのどんなところが友だち？～」 「すきなお話をしょうかいします！」
	3	「物語クイズを作ってお話を紹介しよう」 「「チェンジカード」で紹介しよう」
	5	「意見と理由を聞き取ろう～共通点や相違点に目を着けよう～」 「立場を決めて討論をしよう～土堂地区の空き家問題の解決方法を話し合おう～」
	6	「心の距離グラフで交流しよう」 「初めて知る「戦争」, 考える「平和」を伝えよう」
社会科	3	「市の様子～尾道の魅力再発見！～」 「店ではたらく人～もしも商店街に「土堂っ子スーパー」を出店するなら？～」
	4	「水はどこから～安心！安全！日本の水, 再発見の旅～」 「ごみのしゅりと利用～ごみが資源であるために～」
	5	「日本の気候の特色～世界でもめずらしい日本の気候～」
算数科	1	「ひき算（1）『ひきざんの木』を作ろう」 「ひき算（2）忍法『ひきざんの術』発見！」
	2	「ひき算のひっ算『ひき算のひっ算マスターできるかな？』」 「かけ算（3）かけ算を つかって 考えよう」
	6	「分数のかけ算～ワックスはぬれるかな～」 「比例と反比例 どんな関係かな？」
総合的な学習の時間	5	「『映画のまち尾道』の謎を解き明かそう！」 「祝！日本遺産～土堂地区の空き家問題を解決しよう～」
特別支援教育	特別支援	「インタビューをしてメモをとろう～たんぽぽ新聞～」 「くらしの中で調べたことを発表しよう」

VI 研究のまとめ（中間）

1 成果

成果① 課題発見・解決学習のための授業づくりと学ぶ習慣づくり

主体的に学ぶ児童を育成するために、課題発見・解決学習のための授業づくりを行った。教育研究会の提案を含め、国語科10、社会科3、算数科6、総合的な学習の時間2、特別支援教育2の単元開発を行った。単元計画を作成する際に、単元のゴールを明確にし、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・創造・表現」「ふりかえり」の学びのステップを意識した単元構成を行った。その結果、3年生以上で実施した課題発見・解決学習に関するアンケート結果から全ての学年において肯定的評価が全国平均を上回った。このことから主体的な学びに一定の成果が出たと考える。

また、学習習慣の確立のため、今年度も継続してモジュール授業の取組を行った。その中でも昨年度から始めた国語科の「聞き取り」の学習効果は大きいと考える。教師の話聞いてメモをとり、メモをもとにクイズに答えたり、自分の考えを100字から120字でまとめたりする活動は、インプットしたことをアウトプットする思考の習慣につながり、これにより活用力を問うタイプⅡやB問題において大きな成果をあげたと考える。

成果② シンキングツールとシンキングマップ

児童の思考を促すためのシンキングツールの活用や教師の教材分析のためのシンキングマップの取組も成果の一つと考える。シンキングツールは、児童の思考を可視化するため、児童相互の意見交流が活発となった。児童の意識アンケートでは、「友達と学ぶことは楽しい」や「友達の考えはためになる」と肯定的に回答した児童の割合は、昨年度同様、高い数値を示した。また、3年前から継続しているシンキングマップの作成により、教師が教材を分析し、めざす児童の姿を明確にした授業実践を行うことができた。シンキングマップを通じた指導案検討や協議会により、「事実」「理由付け」「主張」を明確にした授業研究を行うことができた。

2 課題と今後に向けて

課題と今後に向けて① 課題発見・解決学習のための授業づくりと学ぶ習慣づくり

課題発見・解決学習と言っても、まだまだ教師主導によるものが多い。今年度の授業実践を整理・分析し、効果的だった授業を明らかにして、来年度につなげたい。

課題と今後に向けて② シンキングツールとシンキングマップ

児童の思考を促すためのシンキングツールの活用については、まだまだ児童が自分達で使いこなせるまで至っていない。今後も児童によるシンキングツールの活用を継続し、児童自らがシンキングツールを選択し、活用できるように高めていきたい。

全体会

VII 日 程

8:40 9:10 9:40 9:50 10:35 10:50 11:10 12:00 13:00 14:30 14:45 15:00 16:20 16:30

受付	公開授業Ⅰ 総合的な学習の時間 モジュール授業	移動	公開授業Ⅱ 国語科 社会科 算数科	移動	児童発表	実践報告 開会行事	昼食・休憩	分科会	移動	講評	講演	閉会行事
----	-------------------------------	----	----------------------------	----	------	--------------	-------	-----	----	----	----	------

公開授業Ⅰ（モジュール授業・総合的な学習の時間）（9:10～9:40）

内 容	公開学年	授業者	会 場
モジュール授業 ・音読，暗唱，漢字，聞き取り ・ます計算，そろばん ・歴史 など	1年1組	中村 恵	1年1組 教室
	1年2組	石津 誠	1年2組 教室
	2年1組	隆杉 佳代	2年1組 教室
	2年2組	舛上 敏成	2年2組 教室
	3年1組	森口 結香	3年1組 教室
	3年2組	谷川 友弥	3年2組 教室
	4年1組	渡邊 翠大	4年1組 教室
	6年1組	島本佳代子	6年1組 教室
	6年2組	川本美紀子	6年2組 教室
	特別支援学級（知的）	石倉さゆり	たんぼぼ 学級教室
総合的な学習の時間 祝！日本遺産～土堂地区の空き家問題を解決しよう～	5年1組	保森 智彦 才谷 瑛一	5年1組 教室

公開授業Ⅱ(国語科・社会科・算数科・総合的な学習の時間)

(9:50～10:35)

公開学年	教科名	単元・題材名	授業者	会場
1年1組	算数科	ひき算(2) 忍法「ひきざんの術」発見!	中村 恵	1年1組 教室
1年2組	国語科	おとうとねずみ チロ 気持ちを込めて音読発表会～2年生みたいに 読みたいな～	石津 誠	1年2組 教室
2年1組	国語科	ニャーゴ すきなお話ししましょうかいします!	隆杉 佳代	2年1組 教室
2年2組	算数科	かけ算(3) かけ算を つかって 考えよう	舛上 敏成	2年2組 教室
3年1組	国語科	モチモチの木 「チェンジカード」で紹介しよう	森口 結香	3年1組 教室
3年2組	社会科	学校のまわりの店ではたらく人 もしも商店街に「土堂っ子スーパー」を出店するなら?	谷川 友弥	3年2組 教室
4年1組	社会科	ごみのしよりと利用 ごみが資源であるために	渡邊 翠大	4年1組 教室
5年1組	総合的な 学習の時間	祝!日本遺産(後半) ～土堂地区の空き家問題を解決しよう～	保森 智彦 才谷 瑛一	5年1組 教室
6年1組	国語科	ヒロシマのうた 初めて知る「戦争」, 考える「平和」を伝えよう	島本 佳代子	6年1組 教室
6年2組	算数科	比例と反比例 どんな関係かな?	川本 美紀子	6年2組 教室
特別支援 学級	国語科	3年「町について調べてみましょう」 4年「報告します, みんなの生活」 ～くらしの中で調べたことを発表しよう～	石倉 さゆり	たんぽぽ 学級教室

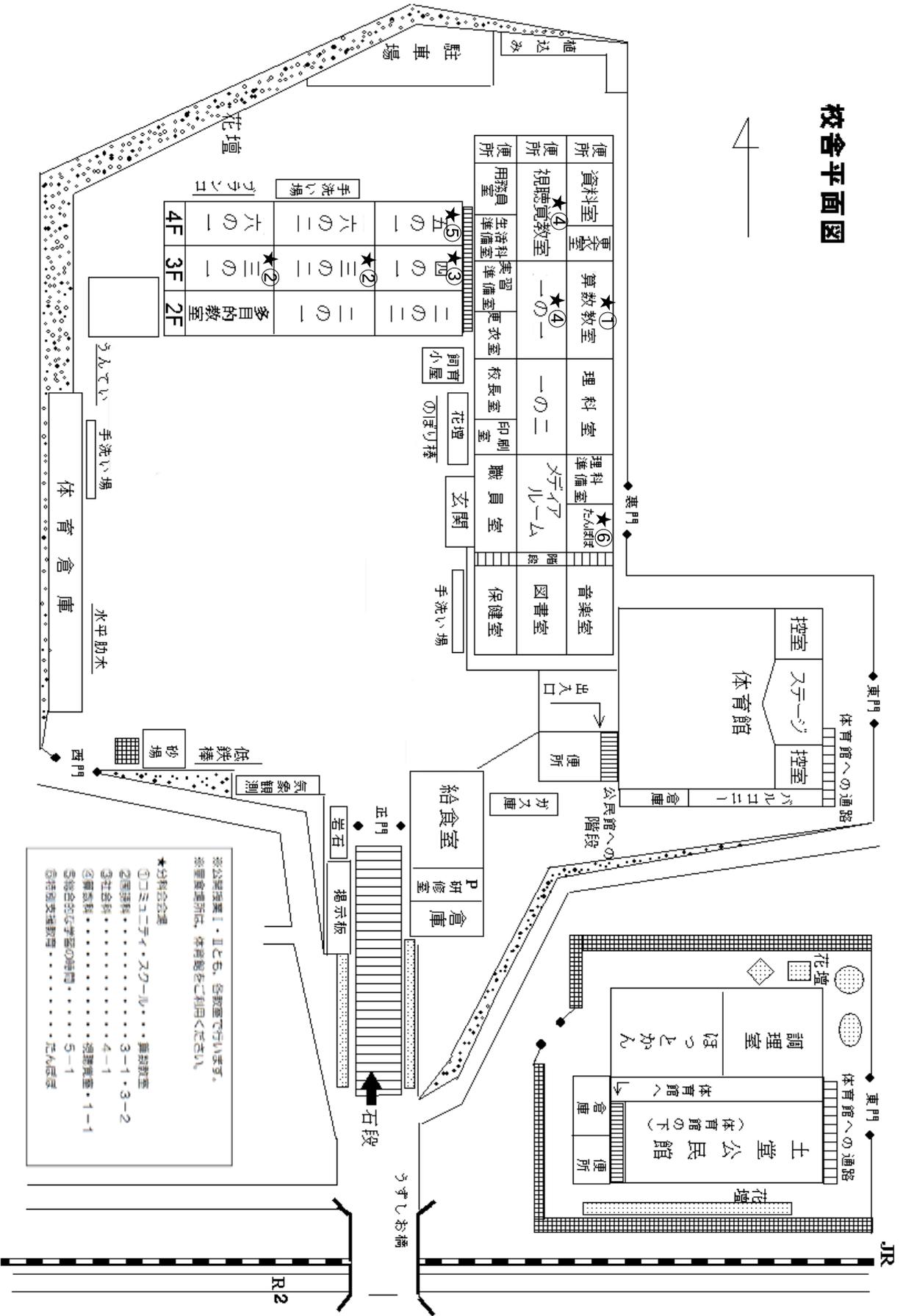
児童発表

(10:50～11:10)

○土堂っ子太鼓「絆」(6年生児童)

地域に伝わるベッチャー太鼓をアレンジ, 児童の教え合いにより継承し, 今年度 24 周年を迎えました。

校舎平面図



※公開授業Ⅰ・Ⅱとも、各教室で行います。
 ※児童館等は、体育館をご利用ください。

★資料室
 ①コンピュータ・スクリーン・・・算数教室
 ②理科・・・3-1・3-2
 ③社会科・・・4-1
 ④音楽科・・・強要室・1-1
 ⑤総合的な学習の時間・・・5-1
 ⑥特別支援教育・・・たんぽぽ

VIII 全体会

開会行事

(11:10～11:30)

主催者挨拶

尾道市立土堂小学校 校長 佐々木 智彦

来賓祝辞

広島県東部教育事務所 所長 小原 博文

尾 道 市 教 育 委 員 会

尾道市立土堂小学校 研究主任 才谷 瑛一

分科会

(13:00～14:30)

分科会名	協議テーマ・指導講話内容等	指導・助言者
コミュニティ・スクール	「ミッションステートメントの具現化をめざして」	広島大学大学院 教授 林 武広 先生
国語科	「主体的に学ぶための授業づくり」 「文学的文章の授業の在り方」	福岡教育大学 国語教育講座 教授 河野 智文 先生 尾道市教育委員会 指導主事 大矢 純一 先生
社会科	「主体的に学ぶための授業づくり」 「地域教材の授業の在り方」	広島県東部教育事務所 指導主事 升谷 英子 先生 尾道市教育委員会 指導主事 千鶴 哲弘 先生
算数科	「主体的に学ぶための授業づくり」 「思考力・表現力を高める算数科授業の在り方」	福岡教育大学 数学教育講座 准教授 岩田 耕司 先生
総合的な学習の時間	「総合的な学習の時間の授業の在り方」	関西大学 総合情報学部 教授 黒上 晴夫 先生 広島県東部教育事務所 指導主事 村上 正子 先生
特別支援教育	「主体的に学ぶための授業づくり」 「特別支援教育の授業の在り方」	広島県尾道特別支援学校 特別支援教育コーディネーター 村上 大樹 先生

講評

(14:45～14:55)

広島県東部教育事務所 指導主事 村上 正子 様

講演

(15:00~16:20)

「整理・分析とシンキングツール」

関西大学 総合情報学部 教授 黒上 晴夫 先生

目
程

目
全
体
会

☒
公
開
授
業
Ⅰ
(モ
ジ
ュ
ー
ル)

☒
公
開
授
業
Ⅱ
(国
語
・
社
会)

☒
公
開
授
業
Ⅲ
(算
数
・
総
合)

MEMO

閉会行事

(16:20～16:30)

閉会挨拶

尾道市立土堂小学校 教頭 加登谷 州章

MEMO

公開授業 I

モジュール授業

総合的な学習の時間

学年	内容（教科）	指導者	教室		
1年1組	計算・時計フラッシュ，ます計算（算数科） 音読，聞き取り（国語科）	中村 恵	1年1組		
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して，計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 正しく計算できるようになってきたが，時間がかかる児童もいる。</p> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算 ・時計 <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○全員が集中して取り組めるよう，テンポよくフラッシュを提示したり，答える形態を工夫したりする。 ○個のめあてをもたせて，ます計算に取り組ませる。</p> </div> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり，集中して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく音読することはできるが，正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・わたしまん ・詩「木」 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○口を大きく動かして，はっきりと発音することを意識させる。 ○最後まで集中して聞くことができるように，題材や質問を吟味しておく。</p> </div> </td> </tr> </table>		<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して，計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 正しく計算できるようになってきたが，時間がかかる児童もいる。</p> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算 ・時計 <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○全員が集中して取り組めるよう，テンポよくフラッシュを提示したり，答える形態を工夫したりする。 ○個のめあてをもたせて，ます計算に取り組ませる。</p> </div>	<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり，集中して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく音読することはできるが，正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・わたしまん ・詩「木」 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○口を大きく動かして，はっきりと発音することを意識させる。 ○最後まで集中して聞くことができるように，題材や質問を吟味しておく。</p> </div>		
<p>算数科</p> <p>【ねらい】 最後まで集中して，計算やフラッシュに取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 正しく計算できるようになってきたが，時間がかかる児童もいる。</p> <p>1 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計算 ・時計 <p>2 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○全員が集中して取り組めるよう，テンポよくフラッシュを提示したり，答える形態を工夫したりする。 ○個のめあてをもたせて，ます計算に取り組ませる。</p> </div>	<p>国語科</p> <p>【ねらい】 正しい姿勢・口形で音読したり，集中して聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 テンポよく音読することはできるが，正しい姿勢や集中は持続しにくい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・わたしまん ・詩「木」 <p>2 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○口を大きく動かして，はっきりと発音することを意識させる。 ○最後まで集中して聞くことができるように，題材や質問を吟味しておく。</p> </div>				

学年	内容（教科）	指導者	教室		
1年2組	音読，漢字・カタカナフラッシュ（国語科） そろばん，計算フラッシュ，ます計算（算数科）	石津 誠	1年2組		
<table border="1"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>国語科</p> <p>【ねらい】 はっきりとした発音で，集中して音読しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが，口を大きく動かして読むことが難しい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・やだくん ・かぞえうた <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・カタカナ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○音読は，口を大きく動かし，はっきり発音することを意識させる。 ○フラッシュは，全体と個人で行い，全員が答えているか確認して進める。</p> </div> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>算数科</p> <p>【ねらい】 集中してそろばんや計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自分の記録を目指し熱心に取り組んでいるが，途中で集中が途切れてしまう児童もいる。</p> <p>1 そろばん</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 ・引き算 <p>3 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○そろばんは，正しい指で玉を動かさせる。 ○フラッシュはテンポ良く提示し，ます計算は時間を区切ることで，集中して取り組ませる。</p> </div> </td> </tr> </table>		<p>国語科</p> <p>【ねらい】 はっきりとした発音で，集中して音読しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが，口を大きく動かして読むことが難しい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・やだくん ・かぞえうた <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・カタカナ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○音読は，口を大きく動かし，はっきり発音することを意識させる。 ○フラッシュは，全体と個人で行い，全員が答えているか確認して進める。</p> </div>	<p>算数科</p> <p>【ねらい】 集中してそろばんや計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自分の記録を目指し熱心に取り組んでいるが，途中で集中が途切れてしまう児童もいる。</p> <p>1 そろばん</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 ・引き算 <p>3 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○そろばんは，正しい指で玉を動かさせる。 ○フラッシュはテンポ良く提示し，ます計算は時間を区切ることで，集中して取り組ませる。</p> </div>		
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 はっきりとした発音で，集中して音読しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが，口を大きく動かして読むことが難しい。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・やだくん ・かぞえうた <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・漢字 ・カタカナ <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○音読は，口を大きく動かし，はっきり発音することを意識させる。 ○フラッシュは，全体と個人で行い，全員が答えているか確認して進める。</p> </div>	<p>算数科</p> <p>【ねらい】 集中してそろばんや計算に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自分の記録を目指し熱心に取り組んでいるが，途中で集中が途切れてしまう児童もいる。</p> <p>1 そろばん</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 ・引き算 <p>3 ます計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10 ます ・30 ます <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○そろばんは，正しい指で玉を動かさせる。 ○フラッシュはテンポ良く提示し，ます計算は時間を区切ることで，集中して取り組ませる。</p> </div>				

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年1組	音読, 主語と述語フラッシュ (国語科) まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科)	隆杉 佳代	2年1組
国語科	<p>【ねらい】 口形や発音, 姿勢に気を付けて集中して取り組む態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 大きな声で読むことができるが, 正しくはっきりと発音することに課題がある。</p>	算数科	<p>【ねらい】 最後まで集中して取り組むとともに, 単位換算や掛け算の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 自己目標を立て計算に取り組むことができるが, 単位換算を苦手とする児童がいる。</p>
<p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・早口言葉 ・竹 ・俳句 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主語と述語 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズムよく集中して音読するために, 全体・グループ・個人など形態を工夫する。 ○全員が集中して取り組むことができるよう, テンポ良くフラッシュを提示する。 	<p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長さ ・かさ ・掛け算 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○時間や正答数等の目標を立て, 目標を意識して取り組ませる。 ○単位換算・掛け算の問題に意欲的に取り組むよう, 全体や個で答える場を設定する。

学年	内容 (教科)	指導者	教室
2年2組	まず計算, 時刻・掛け算フラッシュ (算数科) 聞き取り, 反対の意味の言葉フラッシュ (国語科)	舛上 敏成	2年2組
算数科	<p>【ねらい】 集中して計算に取り組み, 時刻や掛け算の既習事項の定着を図る。</p> <p>【児童の実態】 既習事項をフラッシュで答える際に, つまづく児童がいる。</p>	国語科	<p>【ねらい】 説明的文章から大事なことを落とさないように集中して聞く態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 メモを取って話を聞こうとしているが, 話のあらましや要点を落とすことがある。</p>
<p>1 まず計算</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掛け算 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・時刻 ・掛け算 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の目標の時間や問題数を意識して取り組ませる。 ○途切れることなく集中して取り組めるように, テンポよく問題を提示する。 	<p>1 聞き取り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・説明的文章 <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の意味の言葉 	<p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○話のあらましをつかめるよう, 2回文章を聞かせる。1回目には, メモを取らずに聞かせる。 ○フラッシュでは, 正しくはっきりと言わせる。

学年	内容（教科）	指導者	教室
3年1組	音読，リズム国語辞典フラッシュ，聞き取り（国語科） 50問割り算，大きな数フラッシュ（算数科）	森口 結香	3年1組
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり，集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 声の大きさ，速さに気を付けて音読することはできるが，抑揚をつけて音読することが難しい児童もいる。</p> <p>1 音読 ・五十音 ・早口言葉 ・蜘蛛の糸</p> <p>2 フラッシュ ・リズム国語辞典</p> <p>3 聞き取り ・文学的文章</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○声の抑揚や伝える声を意識して音読させる。 ○大事なことを選んでメモするようにさせる。</p>		<p>算数科</p> <p>【ねらい】 自分の目標に向かって集中して問題に取り組もうとする態度を育てる。 【児童の実態】 自己の目標を持ち，意欲的に取り組むが，計算の速さや正確性に欠ける児童もいる。</p> <p>1 50問割り算 ・あまりのない割り算 ・あまりのある割り算</p> <p>2 フラッシュ ・大きな数</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○これまでのタイムを振り返らせ，意欲的に問題に取り組ませる。 ○形態を変えたり，テンポよくフラッシュを提示する。</p>	

学年	内容（教科）	指導者	教室
3年2組	音読，慣用句・ローマ字・リズム国語辞典フラッシュ（国語科） 地図記号プリント，地図記号・八方位フラッシュ（社会科）	谷川 友弥	3年2組
<p>国語科</p> <p>【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり，語句の理解を深めようとする態度を育てる。 【児童の実態】 声の大きさ，速さに気を付けて音読することはできるが，抑揚や伝える声を意識することは不十分である。</p> <p>1 音読 ・五十音 ・俳句 ・蜘蛛の糸 ・枕草子</p> <p>2 フラッシュ ・慣用句 ・ローマ字 ・リズム国語辞典</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○声の抑揚や伝える声を意識させて音読させる。 ○テンポよくフラッシュを提示し，集中して取り組ませる。</p>		<p>社会科</p> <p>【ねらい】 目標をもって学習に取り組み，地図記号や八方位への理解を深めようとする態度を育てる。 【児童の実態】 地図記号は定着してきているが，八方位を答えるのに時間を要する児童がいる。</p> <p>1 地図記号プリント</p> <p>2 フラッシュ ・地図記号 ・八方位</p> <p style="text-align: center;">留意点</p> <p>○前回のタイムを振り返らせることで，意欲的に取り組ませる。 ○テンポよくフラッシュを提示し，集中して取り組ませる。</p>	

学年	内容 (教科)	指導者	教室
4年1組	音読, 聞き取り (国語科) いろいろな四角形・角度フラッシュ, 割り算 (算数科)	渡邊 翠大	4年1組
国語科 【ねらい】 はっきりと伝わる声で音読したり, 集中して必要な情報を聞き取ったりする態度を育てる。 【児童の実態】 大きな声で音読することはできるが, 全体でそろえて読んだり, 自分の考えをまとめたりすることが難しい児童もいる。		算数科 【ねらい】 最後まで集中してフラッシュや計算問題に取り組み, 自分のめあてを達成しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 フラッシュ問題に全員意欲的に取り組める。しかし, 計算練習では時間内に終わられる児童が6割程度で, クラス内に個人差が見られる。	
1 音読 ・五十音 ・落葉松 2 聞き取り ・文学的文章		留意点 ○集中して音読するため, 集団, グループ, 個と音読形態を工夫する。 ○聞き取りやすい声で問題文を読む。 ○大事な言葉をメモさせる。	留意点 ○テンポ良く問題を出す。 ○前回の記録を確認させ, めあてを意識させる。 ○終わった児童は他の問題に取り組ませる。
1 フラッシュ ・いろいろな四角形 ・角度 2 割り算 ・1桁, 2桁でわるわり算の筆算			

学年	内容 (教科)	指導者	教室
6年1組	音読, 接尾語・対義語フラッシュ, 聞き取り (国語科) 月の満ち欠け・星座・実験用具フラッシュ, プリント (理科)	島本 佳代子	6年1組
国語科 【ねらい】 主体的に学習に参加し, 語彙力を高め, 構成を考えて意見文を書こうとする態度を育てる。 【児童の実態】 意欲的に話の内容を聞いてメモを取ることができるが, 語彙力の定着には個人差がある。		理科 【ねらい】 主体的に天体分野の学習や実験用具の扱い方について理解しようとする態度を育てる。 【児童の実態】 進んで星座や月や太陽の動きを覚えようとしているが, 月の満ち欠けと太陽・地球・月の位置関係を関連付けて考えることに課題がある。	
1 音読 ・日本国憲法前文 ・論語 2 フラッシュ ・接尾語 ・対義語 3 聞き取り ・新聞記事		留意点 ○読みの形態や古典の読み方を工夫して音読させる。 ○集中して取り組ませるために, 個人やグループで言わせる。 ○尾括型・字数制限を付けて自分の意見を書かせる。	留意点 ○フラッシュで太陽と月, 地球の位置関係を確認し, プリントでさらなる定着を図る。 ○プリントが終わった児童から, 裏の問題に取り組ませる。
1 フラッシュ ・月の満ち欠け ・星座 2 プリント ・月の満ち欠け ・星座 3 実験用具フラッシュ			

学年	内容（教科）	指導者	教室
6年2組	100問割り算，約数倍数・割合・比フラッシュ（算数科） 歴史カルタ，世界遺産・歴史・権利と義務フラッシュ（社会科）	川本 美紀子	6年2組
<p>算数科</p> <p>【ねらい】 主体的に学習に参加し，集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 分数の乗法と除法の計算，数量関係の問題につまずく児童が多い。</p> <p>1 100問割り算</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・約数，倍数 ・割合 ・比 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○100問割り算は，時間を計り，前回の記録更新を目指させる。 ○フラッシュは，テンポよく提示し，しっかり声を出させる。 		<p>社会科</p> <p>【ねらい】 主体的に歴史的な出来事や人物の働きを理解しようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 進んで歴史人物を覚えているが，歴史人物の業績や歴史的な出来事の知識は純分に定着していない。</p> <p>1 歴史カルタ</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界遺産 ・歴史 ・権利と義務 <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○歴史カルタは，人物名，3ヒントの順に進む。 ○フラッシュは，テンポよく提示し，しっかり声を出させる。 	

学年	内容（教科）	指導者	教室
特別支援学級	計算聞き取り，計算フラッシュ（算数科） 音読，慣用句，ことわざフラッシュ（国語科）	石倉 さゆり	たんぽぽ
<p>算数科</p> <p>【ねらい】 主体的に学習に参加し，集中して計算に取り組もうとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 計算はできるが，集中して聞き続けたり，見続けたたりすることは不十分である。</p> <p>1 聞き取り</p> <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・足し算 (繰り上がりあり) ・引き算 (繰り下がりあり) <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○聴き取りで集中させる。 ○テンポ良く答えさせる。 		<p>国語科</p> <p>【ねらい】 リズムよく音読をし，言葉の意味や文章の理解を深めようとする態度を育てる。</p> <p>【児童の実態】 音読は意欲的に取り組むことができるが，言葉が不明瞭で，リズムの良くないことがある。</p> <p>1 音読</p> <ul style="list-style-type: none"> ・五十音 ・俳句 ・百人一首 ・雨ニモマケズ <p>2 フラッシュ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・慣用句 ・ことわざ <p>留意点</p> <ul style="list-style-type: none"> ○リズム良く読ませる。 ○はっきり読ませる。 ○文の構成を理解させながら聞かせる。 	

MEMO

第5学年1組(40名) 総合的な学習の時間「映画のまち尾道 パートⅡ」

祝! 日本遺産~土堂地区の空き家問題を解決しよう~

指導者 保森 智彦(T1), 才谷 瑛一(T2)

1 単元について

- 本校における総合的な学習の時間の目標及び本単元で育てたい資質・能力は以下の通りである。

郷土を素材とした活動や体験を通して、課題を自ら見出し、仲間と協力して探究活動に取り組む態度を育てるとともに、郷土への愛着を深め、郷土のよさを守ろうとする態度を育てる。本単元では、課題発見・解決力(スキル)、主体性・積極性(意欲・態度)、尾道市民としてのアイデンティティー(価値観・倫理観)の資質・能力を育てる。

(1) 単元観

本単元は、地域の空き家問題を取り上げ、児童自ら課題を発見し、解決方法を考えて実行することで、地域貢献を図る探究的な学習を行うことを通して、児童の課題発見・解決力(スキル)と、主体性・積極性(意欲・態度)、尾道市民としてのアイデンティティー(価値観・倫理観)を育てることをねらいとしている。

本教材は、土堂地区の空き家問題を取り上げることで児童の関心を高め、1学期の単元「映画のまち尾道」で学習した尾道の風景のよさや尾道市民の心の豊かさを既習として、地域というフィールドを存分に活用しながら問題解決に向けて探究するために適した教材である。児童は地域の一員として問題解決に参画することで、尾道市民としてのアイデンティティーを高め、自己の生き方を考える際においても適した教材である。

また、本単元は国語科の「話す・聞く」学習や「書く」学習との関連も考慮し、児童が主体となって話し合い、収集した資料を基にまとめて表現する言語活動を行い、教科学習における探究的な学習を進めることもねらいとしている。

(2) 児童観

課題発見・解決学習の実態

質問紙調査※の結果、以下の実態が見られた。

課題設定では、「自分で課題を決めている」と回答した児童が約62%であった。また、課題設定時の難しさとしては「調べたいことが多くて選べない」が約56%、「調べたいことが思いつかない」が約44%であり、学級を二分する結果となった。

情報収集では、これまでに経験した情報収集の方法は一人平均2.8個で、収集を経験しているが方法として自覚していない児童もいる。

整理・分析では、これまでに経験した整理・分析の方法は一人平均0.8個で、整理・分析の経験自体が不足していると推察される。

まとめ・創造・表現では、調べたり分かたりしたことを伝える活動でこれまでに経験した方法は一人平均1.5個で、表現方法が固定化しており、経験の不足や、創造したり実行したりする活動の不足などもあげられる。

さらに昨年度までの解決学習の課題から、体験活動の不足や課題解決プロセスのパターン化、教師による支援過多、教科との関連もあげられる。

※第4期中核教員研修(平成27年6月12日)

(3) 指導観

本単元の課題発見・解決学習では、特に以下の点を重点に取り組む。

課題設定では、学習課題を自ら発見させるため、市のランキングを知ったり、地域の人から市の現状について話を聞いたりする活動を設定する。

情報収集では、実際に地域に出掛けて空き家を調べたり、問題解決に取り組んでいる地域の人から話を聞いたりするなど多様な方法で情報収集させる。

整理・分析では、シンキングツールを用いて情報を整理し分析する場を設定して、その方法を学ばせる。また、国語科の「話す・聞く」や「書く」学習と関連を図り、教科での課題発見・解決学習につなぐ。

まとめ・創造・表現では、整理・分析した情報を基に空き家問題解決プランを創造させる。中間発表の場を設定することで、推敲や修正して、伝えたい事柄を整理にして分かりやすく表現する力を育てる。

実行では、解決プランを発信する場を設定することで、学習したことを表現する喜びや地域の一員として問題解決に参画しようとする意識を高める。

振り返りでは、単元全体を通して学び方に視点をあてて解決のプロセスを振り返らせたり、教科との関連を想起させたりして自己肯定感の向上を図る。

(4) 単元でめざす児童の姿

- 地域の空き家問題の現状と取組、課題の概要を知り、解決に取り組む人々の思いや生き方を知る。(知識)
- 探究的な学習を通して、自ら課題を見付け、自ら解決方法を考え、めあてをもって情報収集、整理・分析、自己評価するなど、問題を解決する方法を身に付ける。(スキル)
- 土堂地区の空き家問題の解決方法を考えることを通して、地域の役に立ちたいという思いをもって、主体的、協同的に課題を解決したり、自己の生き方を考えて実践したりしようとする。(意欲・態度)
- 地域の空き家問題の解決に向けて解決方法を創造し実行することで、地域の一員としての自覚をもち、尾道の昔ながらの風景やそこに住む人々の生き方を大切にする。(価値観・倫理観)

2 単元の評価規準

	知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観
単元 の 評 価 規 準	<p>地域には昔ながらの風景が多くあり、その景観を大切にしている人々の取組や思いがあることに気付いている。</p> <p>地域の空き家問題の現状や取組、今後の課題について概要を知っている。</p> <p>地域の問題解決に取り組む人々の思いや生き方の大体を知っている。</p>	<p>学習課題を解決するための方法を考えている。</p> <p>地域の問題を解決するために、目的や相手に応じて、調査方法、記録の仕方などに留意しながら調べたり表現したりしている。</p> <p>自分の学習や活動を振り返り、修正したり自己評価したりしている。</p> <p>教科との関連を図りながら問題解決をしている。</p>	<p>地域の問題を解決するために、自分にできる方法を主体的に考えている。</p> <p>他の人の意見も取り入れて自分の考えをよりよくしようとしている。</p> <p>これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。</p>	<p>地域の問題解決に向けて取り組むことの大切さを感じている。</p> <p>地域の一員としての自覚をもち、地域の風景や人々の生き方のよさや大切さを感じている。</p>

3 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元においては、地域の空き家問題を題材として取り上げ、空き家問題解決に向けて取り組んでいる地域のあらゆる人々との連携を通して、地域での調査活動や多面的に考えて解決方法を考え、創造する活動を中心とした単元を構成することで、児童の主体的な課題発見・解決学習の実現を支援する。これらのことを通して、地域の空き家問題の現状と人々の思いについての理解（知識）、課題発見・解決力（スキル）や主体性・積極性（意欲・態度）、尾道市民としてのアイデンティティー（価値観・倫理観）を育成することができると思う。

4 指導計画（全32時間）

次	学習活動	資質・能力の評価 (評価方法)	教科の課題発見・解決学習
(問題 について の 現 状 理 解)	<p>課題の設定</p> <p>尾道のランキング※を知り、地域の現状について関心をもち、学習課題を設定する(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土堂小学校の周辺が日本遺産に登録された ・行ってよかった日本の展望スポット第4位 ・おすすめのサイクリングコース第1位(日経) ・世界で最も美しいサイクリングロードベスト7 ・でも！全国住みたい街ランキングは第70位！ 	<p>尾道のランキングを通して地域の現状に関心をもっている。【意・態】(ワークシート)</p>	
	<p>どうして尾道の住みたい街ランキングが低いのか調べよう。 尾道を住みたい街にしよう。</p>		
	<p>情報の収集</p> <p>尾道の現状について市役所の人に話を聞く。(1)</p> <p>現地に行って見学する。(2)</p>	<p>学習課題に対して関心をもち、進んで学習計画を立てている。【意・態】(ワークシート)</p> <p>大切なことを落とさないように、適切にメモを取っている。【スキル】(ワークシート)</p>	
	<p>ふりかえり</p> <p>収集した内容と活動を振り返り、自己評価する。(1)</p>	<p>スキルや意欲に関するコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【スキル】(ワークシート)</p>	
	<p>課題の設定</p> <p>尾道のよさを生かしながら土堂地区の空き家問題を解決する方法を考えよう。</p>		
	<p>学習計画を立てる。(1)</p> <p>解決方法を考え、話し合う。(1)</p> <p>依頼文を書き、準備をする。(1)</p>	<p>目的を明確にもち、それを解決するため方法を考えたり、伝えたいことを整理して質問文を書いたりしている。【スキル】(ワークシート)</p>	

<p>二 (取組の様子と人々の思い)</p>	<p>情報の収集 空き家再生に取り組んでいる人や地域に住む人、観光客などから話を聞く。(4)</p> <p>空き家再生の体験をする。(2)</p> <p>ふりかえり 収集した内容をまとめ、自己評価する。(1)</p> <p>整理・分析 尾道市民として自分たちができる解決方法は何かという視点で収集した情報を整理・分析する。(1) (本時17/32)</p> <p>まとめ・創造・表現</p>	<p>大切なことを落とさないように、適切にメモを取っている。【スキル】(ワークシート) 地域の一人として取り組むことの素晴らしさを感じている。【価・倫】(ワークシート, 行動観察) 問題の難しさや解決の可能性に気付いている。【知識】(ワークシート)</p> <p>スキルや価値観などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【スキル】(ワークシート)</p> <p>収集した情報を整理し、自分たちにできることの視点で分析している。【スキル】(ワークシート)</p>	<p>国語科 「立場を決めて討論しよう」(9)</p>
<p>土堂地区の空き家を減らしたい。 ホームページを作って、市役所やNPOなどの人に見てもらおう。そして、世界へ発信しよう。</p>			
<p>三 (解決プランの創造・実行)</p>	<p>表現する内容を考え、作成する。(3) (例) 「空き家の現状、取組の内容、生活の不便さ、町や人のよさ」をまとめ、全国の人に発信する。不足している情報を調べる。(2) 中間発表会を行う。(2)</p> <p>内容を修正する。(2)</p> <p>ふりかえり 活動を振り返り、自己評価する。(1)</p> <p>実行 全体で話し合っってゲストティーチャー(市役所やNPOなどの人)に発表する内容を決める。(1)</p> <p>ゲストティーチャーに発表する。(2) ホームページを発信する。(1)</p>	<p>整理した情報を効果的に用いて、プランを完成させている。【スキル】(成果物) 問題を解決するために自分でアイデアを出し、解決しようとしている。【意・態】(成果物, 行動観察) 自分の意見や知識と比べながら発表を聞いて感想を述べたり書いたりしている。【スキル】(ワークシート, 行動観察) 他の人の意見も取り入れて改善案を考えている。【意・態】(ワークシート, 行動観察)</p> <p>スキルや意欲などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を書いている。【スキル】(ワークシート)</p> <p>自分の立場を明確にし、根拠を明らかにして考えを表現している。【スキル】(ワークシート, 行動観察) 地域の一人として地域の活性化について考えることの大切さに気づき、自分にできることを考えている。【価・倫】(ワークシート, 行動観察)</p>	<p>国語科 「資料を生かして考えたことを書こう」(4)</p>
<p>四 (振り返り)</p>	<p>ふりかえり 単元で身に付いた力と学び方を振り返り、自分の生き方を考える。(1)</p>	<p>スキルや意欲、価値観、知識などのコンピテンシーに基づいて自己評価し、次の目標を考えている。【スキル】(ワークシート) これからの自分の生き方について考え、生活に生かしたいことを考えている。【意・態】(ワークシート)</p>	

※「行ってよかった日本の展望スポット2014(トリップアドバイザー)・・・全国第4位 尾道千光寺
「おすすめのサイクリングコース」(日経プラスワン・何でもランキング, 2010)・・・全国第1位
「世界で最も美しいサイクリングロード」(アメリカ・CNN)・・・ベスト7
「全国住みたい街ランキング2014」(SBIライフリビング株式会社)・・・第70位
(引用: ゆうこうダイジェストNo. 1, 平谷祐宏後援会)

5 本時の展開

(1) 本時の目標

収集した情報の中から、自分たちができることは何かという視点で情報を整理したり、新しい方法を創造したりすることができる。【スキル】

(2) 観点別評価規準

自分たちができることを考え、明確にして整理している。【スキル】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）		評価規準 (評価方法)
	T1	T2	資質・能力（★）
1 これまでの学習を想起する。 2 めあてを設定する。 3 個人で学習をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> 空き家再生にむけた取組や人々の思いを想起させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の感想や本時のめあてを板書する。 	
	たくさんの人に土堂地区に住んでもらえるよう、自分たちができる方法を考えよ		
4 グループで交流し整理する。 5 全体で交流し合ってまとめる。 6 方法を決める。 7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> シンキングツール（座標軸）を板書する。 ループリック作りを支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 収集した情報を基に、自分たちが今できること、大人になってできそうなこと、その他などの視点で整理することを伝える。 	
4 グループで交流し整理する。 5 全体で交流し合ってまとめる。 6 方法を決める。 7 振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 付箋紙に解決方法と名前を書かせる,ワークシートに貼らせる。 ◆ 質問しながら思いを引き出す。 グループで交流し,まとめさせる。 ◆ 時間不足のグループを支援する。 交流した内容や気付いたことを発表させる。 古い物も大切に生かして空き家問題を解決しようとしていることの素晴らしさに気付かせる。 リーフレットやホームページなど可能な方法を出させる。 ループリックを基に振り返らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 付箋紙に解決方法と名前を書かせ,ワークシートに貼らせる。 ◆ 質問しながら思いを引き出す。 グループで交流し,まとめさせる。 ◆ 時間不足のグループを支援する。 交流した内容や気付いたことを発表させ,座標軸等で板書する。 大人になってからできることを考えていることの素晴らしさに気付かせる。 児童から出た意見を板書する。 ループリックを基に振り返らせる。 	★ 自分たちにできることを考え,内容と方法などを整理している。【スキル】(ワークシート)
8 個人で解決プランを考える。 9 新たな学習課題を発見する。 10 国語の学習課題につなげる。	<ul style="list-style-type: none"> 個人でワークシートに原案を書かせる。 書いていて困ったことを出させ,まとめ方を勉強するための方法を考えさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 個人でワークシートに原案を書かせる。 国語の教科書が使えないか問いかける。 	
国語で「資料のまとめ方」を学習して,総合に生かそう。			

公開授業Ⅱ

国語科・社会科・算数科

総合的な学習の時間

第1学年2組(18名) 国語科「おとうとねずみ チロ」

気持ちを込めて音読発表会 ～2年生みたいに 読みたいな～

指導者 石津 誠

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
ア 語のまとまりや言葉の響きなどに気をつけて音読すること。

(1) 単元観

本単元では、チロの様子を想像して台詞の読み方を工夫した音読発表会をする活動を通して、登場人物の気持ちを想像して台詞の読み方を考えることで、場面の様子を捉え豊かに想像を広げながら読むことをねらいとしている。

本教材は、チョコキが来ないのではないかと心配する場面、おばあちゃんにお願いをしに行く場面、チョコキが届きお礼を言いに行く場面と進んでいく物語である。兄弟の中で最も幼いチロが、誰の助けも借りずに心配事を乗り越え、おばあちゃんと心を通わせていくというストーリーは、1年生の児童にとって身近で同化しやすい。また、自分のチョコキが来ないのではないかと心配している様子やおばあちゃんにお願いをしに行く様子、チョコキのお礼を言う様子など、場面ごとに様子が異なっている。そのため、チロや場面の様子を場面ごとに捉えていく必要がある。

本教材では、チロが困難に出会い、自分で行動を起こし解決していく。字が書けなかったことなど、幼いころの自分の経験を思い起こして物語を読んでいく。その中でチロの行動に即して、心配なことがある気持ちや、自分で行動して解決して安心した気持ちなど、様々な気持ちがあることにも気付かせることができる物語である。

(2) 児童観

本学級の児童は、読み聞かせて聞いた本や、1学期の学習で本の紹介に使った本を何度も読んでいる様子が多く見られる。様々な本を選んで読んでいるとは言いがたい。

思考力・表現力の実態

思考力については、少しずつ想像を膨らませながら読むことができるようになってきている。5月教材「とんこととん」では、叙述を捉えることはできていたが、想像を膨らませて読むには至っていなかった。7月教材「おおきなかぶ」の学習では、登場人物になりきって動作化することで、想像を膨らませて登場人物の様子を捉えることができた。

登場人物が言ったことを想像して吹き出しに書いた際には、16名の児童が叙述に合うように書くことができた。一方で、ペアや全体で話し合う際には、意欲的に取り組むが、友達の意見のよさに気付き、取り入れようとする児童は少ない。

(3) 指導観

これまで、運動会の練習や生活科の学習で交流したことのある2年生と活動することで、学習意欲を高める。2年生の音読発表会を聞き、2年生の音読を目指したい気持ちをもって取り組みませたい。同時に、工夫したらよいポイントについても教えてもらうことで、自分でもできそうだという見通しをもたせるようにする。さらに、中間・最後の発表を2年生に聞いてもらい評価をもらうことで、自分の音読が変わったことに気付かせ、満足感を感じられるようにしていきたい。

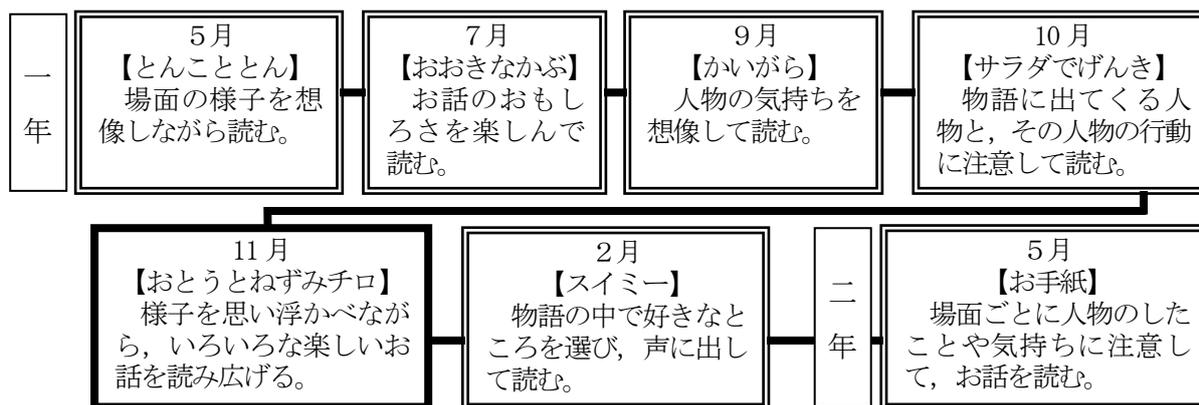
物語全体を捉えて読む際には、挿絵の並び替えを行う。挿絵とチロの様子や行動などの叙述を結び付けて並べていくことで、時間的な順序を考えながら、内容の大体を読むことができるようにする。

各場面を読み取っていく際には、チロに同化していくために、お面を付けて動作化して読ませる。そこから想像を広げ、チロが心の中で思ったことを考えられるようにしていきたい。そして、音読発表会に向けて、考えた気持ちが表れるよう、読み方の工夫を考えていきたい。

2 単元でめざす児童の姿

- 場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の様子やチロの気持ちを想像しながら読んでいる。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	場面の様子を想像しながら、お話を楽しんで読もうとしている。	チロになりきって音読したり、動作化したり、ふき出しに書いたりしながら、場面の様子やチロの気持ちを豊かに想像して読んでいる。	長音、拗音、促音、撥音などの表記ができ、助詞の「は」、「へ」、「を」を文の中で正しく使っている。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、音読発表会をするという活動を通して、登場人物の様子を想像して、台詞を言ったときの思いを考えることを通して、自分の言葉で説明するという表現力（スキル）を育成することができると考える。

6 指導計画（全8時間）

次	学習活動	評価規準（評価方法）	資質・能力の評価（評価方法）
一	課題の設定 2年生の音読発表を聞き、音読の工夫のポイントについて知る。（1）	音読発表会することに興味をもち、熱心に音読を聞いている。 【関・意・態】（行動観察）	
二	情報の収集 挿絵を並び替えて全文を読み、初発の感想を交流する。（1）	叙述と挿絵を結び付けながら、挿絵を並び替えている。 【読む】（ワークシート）	
	整理・分析 手紙が届く場面のチロの様子を読み取り、音読の仕方を考える。（1）	不安になっていくチロの様子や気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】（ワークシート・行動観察）	場面の様子について想像したことを、自分の言葉で表現している。（ワークシート）
	おばあちゃんに呼びかける場面のチロの様子を読み取り、音読の仕方を考える。（1）（本時4/8）	丘のてっぺんの木から呼びかけるチロの様子や気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】（ワークシート・行動観察）	
	おばあちゃんが編んだチョッキが届く場面のチロの様子を読み取り、音読の仕方を考える。（1）	チロのおばあちゃんへの感謝の気持ちを想像し、表現している。 【読む・言語】（ワークシート・行動観察）	
三	まとめ・創造・表現 音読の中間発表を行い、さらに工夫すると良い点を考え、練習する。（2）	音読の仕方を工夫して読み、友達の見解を取り入れて、改善点を探している。 【読む】（ワークシート・行動観察）	場面や人物の様子について読み取ったことが伝わるように、音読の仕方を工夫して発表している。（発表）
	実行・ふりかえり 音読発表会をする。（1）	これまでに学習したことを生かして、音読発表をしようとしている。 【関・意・態】（行動観察）	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

丘の上の木に立って、おばあちゃんに呼びかける場面のチロの様子を想像しながら読むことができる。

(2) 観点別評価規準

叙述や叙述をもとに想像を広げた、チロが思ったことをまとめている。

【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★)
1 全文を音読する。 2 本時のめあてを確認する。 3 動作化してチロの気持ちを想像する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時に、手紙が届く場面の音読の仕方を工夫したことを想起させて読む。 ・ 音読の様子を録画しておき、授業の最後の音読と比較できるようにする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「ぼくにもチョコッキ、あんでね。」といったときのチロの思いや様子を想像して読もう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思いついた「いいこと」の内容を、その後のチロの行動から考える。 ・ お面を付けてペアで動作化し合う。それをもとに、チロが心の中で思ったことを考えさせる。 	
4 おばあちゃんに言葉を伝えたあとのチロの様子を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「ぼくにもチョコッキ、あんでね。」と言ってから、チョコッキが届くまでのチロの思いを考えさせる。 ・ シールを貼り、その下に心の中で思ったことを書かせる。 ◆ 安心した気持ちには赤のシール、不安な気持ちには青のシールを貼らせ、いろいろな気持ちがあることを視覚的に明示する。 ・ 前時のシールの色と本時を比較し、チロの様子が変わっていることに気付かせる。 ・ 全体交流では、安心や不安など、様々な気持ちがあることに気付かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 叙述や想像を広げたことから、チロが心の中で思ったことをまとめている。 <p>【読む】(ワークシート)</p>
5 読み方の工夫を考え、音読発表し合う。 6 本時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 赤・青のシールを貼らせたり、叙述や想像を膨らませたことからチロの様子を書かせたりする。 ◆ 書けないときには、気持ちを込めて読ませたことから、工夫に気付かせる。 ・ 音読の様子を録画し、授業の最初の音読と比較する。 ・ 自分の意見が変わったときは、積極的に書くように指示する。 ・ 友達の良い意見に気付いたときは、それを書くようにする。 ◆ ワークシート中の考えから選ばせ、それを書かせるようにする。 	<p>★ 考えた工夫が伝わるように、音読で表現している。(観察)</p>

すきなお話をしようかします！

指導者 隆杉 佳代

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年及び第2学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) ウ 場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。
- オ 文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめ、発表し合うこと。

(1) 単元観

本単元では、好きな本を紹介するブックスタンドを作成する活動を通して、場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読み、自分が好きな場面を選んでその理由を書くことで、話の面白さを相手に伝える力を付けることをねらいとしている。

本教材「ニャーゴ」は、子ねずみを食べようとするねこのたまと、ねこの恐ろしさを知らない三匹の子ねずみが登場人物となっている。ねことねずみは普通であれば、「食う—食われる」の関係にある。しかし、先生の話聞いていなかった子ねずみ達は、ねこの恐ろしさを知らない。ねこが「ニャーゴ」と言って食べようとしているにも関わらず、挨拶だと勘違いし、無邪気にそして親切に接する。その優しさが天敵であるたまの心に変化を与え、ねこは子ねずみを食うことができなかった。優しさや思いやりの心は、相手に伝わるのだと感じさせてくれる作品である。

この物語は5つの場面からなり、場所や人物の言動の変化を手がかりに展開をとらえることができる。登場人物の行動や会話などの叙述に着目させ、場面の様子を想像しながら読んでいく。そして、話の展開に合わせて配置された挿絵から、登場人物の様子や気持ちを想像して読むことができる。

(2) 児童観

本学級の児童は、登場人物の様子や気持ちを想像し、音読に表現することが好きな児童が多い。1学期には、お面を付けて動作化しながら音読発表会をしたり、紙芝居を作って場面の様子を想像して発表したりする活動をしてきた。

読書することが好きな児童は、20名である。しかし、自分が好きな本の説明をしたり、なぜその本が好きなのか説明したりすることは難しい。

思考力・表現力の実態

6月教材「お手紙」では、紙芝居を作成するために、時、場所に注目して場面分けを行った。分かりやすい言葉があれば場面を分けることができるが、叙述をもとに内容を考えて場面分けをすることは難しい。

また、出来事の順序に気を付け、場面の様子や登場人物の気持ちを想像して読むことはできる。しかし、理由を問うと叙述を根拠に自分の考えを説明することができる児童は13名である。叙述を根拠に自分の考えを説明することに課題がある。

(3) 指導観

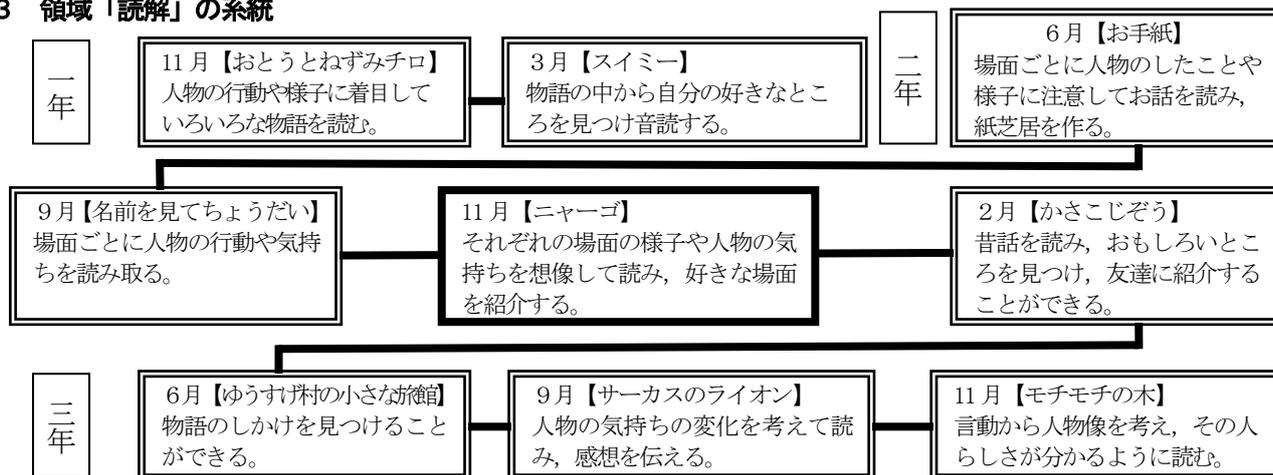
「好きなお話を紹介しよう」という言語活動を設定し、一人一人が自分の好きな本のブックスタンドを作成する。ブックスタンドには、本の名前、作者、主な登場人物、好きな場面とその理由等を書いてまとめていく。しかし、ブックスタンドに書く内容は、児童が主体的に学習できるように、教師が一方向的に与えるのではなく一緒に決めていく。単元の始めから宮西達也さんの本を学級に置き、自分の好きな本を選んで読ませておく。ブックスタンドにまとめやすいように、場面ごとの読み取りの後に、本時の場面の好きな理由をカードにまとめさせていく。

物語の内容を捉えさせるために、ねこと子ねずみの行動や会話の叙述や挿絵を手掛かりに、場面の様子を想像して読ませていく。特に、ねこが言った三回の「ニャーゴ」は、動作・表情・声の大きさに着目させ、児童に動作化させて、「ニャーゴ」でねこが何と言っているのか想像させる。

2 単元でめざす児童の姿

- 自分の好きな本を紹介することに興味を持ち、意欲を持って読もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 登場人物の行動や会話の叙述、挿絵などから、想像を広げながら読んでいる。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	物語を読んでお気に入りの場面を見付け、お話の楽しさをブックスタンドに表現している。	登場人物の行動や会話から、登場人物の言動の変化に気付いたり、場面の様子を想像しながら読んだりしている。	アクセントの違いに気を付けて音読したり、拗音・促音・撥音や助詞を正しく使って文章を書いたりしている。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、児童と単元計画を立て、ブックスタンドにどのような内容を取り入れるかを考えることを通して、主体性・積極性(意欲・態度)を育成できる。また、挿絵や登場人物の行動や会話を手掛かりに場面の様子を読み取り、紹介文を書くことを通して、自分の思いを伝える表現力(スキル)を育成することができる。と考える。

6 指導計画(全11時間)

次	学習活動	評価規準(評価方法)	資質・能力の評価(評価方法)
一	課題の設定 教師の読み聞かせを聞き、ブックスタンドに書きたい内容を話し合う。(1)	好きなお話を紹介するために、ブックスタンドにどのような内容を取り入れたいか考えている。 【関・意・態】(ノート・発表)	好きなお話を紹介するために、必要な内容を自分から考えている。(ノート)
二	情報の収集 挿絵を並び替え、お話の内容を大体つかむ。(1) ねずみの学校での3匹の子ねずみの様子、子ねずみたちとねこが出会った時の様子を読み、好きな理由をまとめる。(2) 子ねずみたちとねこと一緒に桃を取りに行き、ねこがねずみを食べようとした時の様子を読み、好きな理由をまとめる。(2) ねこが子ねずみたちを食べずに帰って行った時の様子を読み、好きな理由をまとめる。(1)(本時7/11)	挿絵と本文の叙述をつなげて考え、挿絵を正しく並べ替えている。【読む】(ノート) 子ねずみたちがねこの怖さを全く知らず、子ねずみたちの無邪気さに対してねこが戸惑っている様子を読み取っている。【読む】(ノート) 子ねずみとねこと一緒に桃を食べている時の様子や、子ねずみたちを食べようとしたが子ねずみの優しさ触れた時のねこの様子を読み取っている。【読む】(ノート) 子ねずみたちを食べずに、桃を大事そうに抱えて帰って行ったねこの様子を読み取っている。【読む】(ノート)	
	整理・分析 好きな場面とその理由等を書き、ブックスタンドを作成する。(1)	自分の好きな場面とその理由を選び、ブックスタンドにまとめている。【読む・言語】(ブックスタンド)	自分が好きな場面を選び、その理由を自分の言葉で表現している。(ブックスタンド)
三	まとめ・創造・表現 ふりかえり 自分のお気に入りの本のブックスタンドを作り、紹介し合う。(2) 友だちのブックスタンドとお気に入りの本を読み、感想を伝え合う。(1)	お気に入りの本のあらすじや好きな場面とその理由をブックスタンドに書いてまとめている。【読む・言語】(ブックスタンド・発表) お気に入りの本を紹介することの良さを考え、読書への意欲を高めている。【関・意・態】(ワークシート)	自分が選んだ本を積極的に紹介しようとしている。(ブックスタンド)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

子ねずみたちを食べずに桃を大事そうに抱えたまま小さな声で「ニャーゴ」と答えたねこの気持ちを想像して読むことができる。

(2) 観点別評価規準

叙述や挿絵をもとに、子ねずみからもらった桃を大事そうに抱えたまま小さな声で「ニャーゴ」と答えたねこの気持ちを想像して読んでいる。 【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）
1 前時までの学習を想起する。 2 本時のめあてを確認し、学習場面を音読する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前時までのねこは、子ねずみ達を食べようとしていたが、子ねずみ達の優しさに触れ、大きなため息をついたことを想起させる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px auto; width: fit-content;"> 桃をかかえて帰った時のたまの気持ちを想像しよう。 </div>	
3 前時までの場面と比べながら、ねこと子ねずみの様子について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ねこはねずみを食べるのが普通だが、なぜ食べるのをやめて帰ったのかを考えさせる。 ・ 三回の「ニャーゴ」が同じか問うことで、今までの「ニャーゴ」は子ねずみを食べようとしていたが、三回目は違うことに気付かせる。 ・ 子ねずみ達が手を振りながら叫んだ後、桃を「かかえて」から「だいじそうにかかえたまま」に変わっていることに着目させ、ねこの気持ちがどのように変化したのか考えさせる。 ・ 最後の場面の挿絵で、ねこの目から涙が出ていることに着目させ、なぜねこの目から涙が出たのかを考えさせる。 ◆ 前時までのノートや既習事項の掲示を見て、たまの様子の変化を見つけさせる。 	○ 桃を大事そうに抱えたまま「ニャーゴ」と小さな声で答えたねこの気持ちを想像している。 【読む】（ノート）
4 本時の場面について、好きな理由をまとめる。 5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本時の場面の好きな理由をまとめ、ブックスタンドを仕上げる時の資料とする。 ・ 子ねずみ達の言動からねこの気持ちが変わったことを読み取り、ブックスタンドにまとめるために、好きな理由をまとめさせる。 ・ 友達の意見を取り入れながら、自分の考えをまとめる。 ・ 自分の考えと友達の考えを比較し、自分の学びが深まったこと、友達の考えの良さについて書かせる。 ・ 単元計画を確認し、次時への思いを書かせる。 	★ 「ニャーゴ」のブックスタンドに書くために、この場面の好きな理由をまとめている。 （カード）

第3学年1組 (26名) 国語科「モチモチの木」
「チェンジカード」で紹介しよう

指導者 森口 結香

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(1) ウ 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて叙述を基に想像して読むこと。

(1) 単元観

本単元では、登場人物の気持ちの変化を説明するために「チェンジカード」で紹介する活動を通して、叙述を基に場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化を読み取る力を育てることをねらいとしている。

本教材は、小見出しのついた5つの場面で構成されている。各場面は、小見出しと美しい挿絵が入っていたり、擬人化を用いた情景描写が用いられたりしている。夜のモチモチの木や、一人で外に出ることを怖がっていた豆太が、「じさま」を思うやさしさから勇気のある豆太に変わっていく姿を通して豆太の人物像を考えさせたい。じさまと豆太の心の結び付きの深さや、豆太と自分を重ね「自分ならどうするか」と豆太の心情を考えたり、豆太の勇気ある行動とは対照的に、再び「臆病な豆太」に戻ってしまうという作品の構成やじさまの「人間、やさしささえあれば」と言った言葉等から、作者が伝えたいと思っている「誰かのために行動すること、いざというときに必要な人間のやさしさと勇気」についても考えて意見交流をしていく。本教材で学んだ叙述を基にした登場人物の心情の変容から自分が感じたことや伝わってきたことを表現し、一人ひとり感じ方に違いがあるという気付きを、他教材の読み取りでも生かしていきたいと思い本単元を設定した。

(2) 児童観

3年生になり読書の幅も広がり、推薦指定図書を中心に意欲的に読書をする姿が見られる。「本を読むことは好きですか。」との質問に対して、26名の児童が好きと答えている。

これまでに児童は、6月教材「ゆうすげ村の小さな旅館」を通して、起きた出来事を確かめ、人物像について想像しながら読むことを学習してきた。自分が見付けていなかった叙述から性格を読み取った友達の意見を聞いて、意欲的に自分の意見に取り入れようとする児童が23名いた。しかし、登場人物の気持ちの変化を想像して読み取るところまでには、至っていない。

思考力・表現力の実態

「友達の話を受けて、質問したり、話を続けて言ったりすることができる」と答えた児童が11名であった。グループや全体で話し合う際に、自分の書いた内容を述べることは意欲的に行うが、同じ意見の友達に付け加えたり、友達の考えを聞いて自分の考えに生かしたりすることが難しい。友達の考えと比較して自分の考えを振り返り、さらに自分の思考を深めるような学習活動を仕組み必要がある。

表現力については、自分で読み取った内容と自分の経験や友達の考えを関連付けてまとめたり、表現したりすることに課題がある。

(3) 指導観

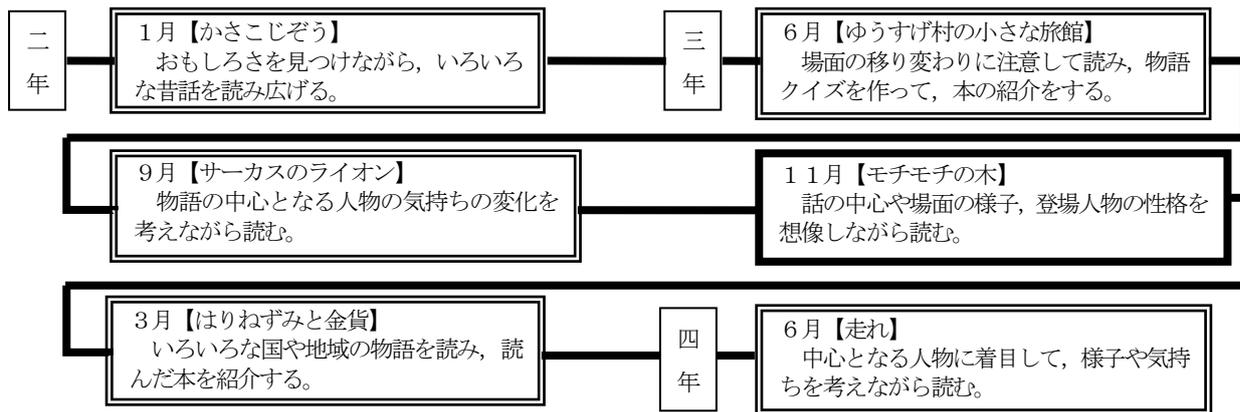
「チェンジカードで紹介しよう」という言語活動を設定する。自分が選んだ物語について主人公の気持ちの変化を「チェンジカード」で説明する活動を通して、登場人物の気持ちの変化等の叙述について、想像して読む能力を育成できると考える。教材文で学習したことを、即座に自分の読みに適用できるように、自分で選んだ物語を読むことを単位時間に部分的に取り入れる。

「チェンジカード」は、「題名・作者名・あらすじ」「気持ちの変化(変化する前の気持ち・変化のきっかけ・変化した後の気持ち)」「変化した人物を見て、自分が感じたこと」といったパーツで構成する。これらのパーツを作っていくことで、登場人物の気持ちの変化やそのきっかけを主体的にとらえ、作者が伝えたいことを読むことができる。登場人物の人物像をとらえるために、「勇気(赤)・臆病(青)シール」を使って、場面ごとの登場人物の性格を表現させる。場面ごとに、シールの状況を記録することで、自分の読み取った豆太の気持ちの変化を感じるとともに、友達の考えを視覚的に確認することで、違う意見の友達へ質問する状況も設定していく。本時の授業では、前時までに読み取ったことと第五場面の内容を踏まえて、もう一度豆太の人物像を考えさせる。そのことによって、登場人物の変化から伝わってくる作者の想いについても触れさせる。全体での交流では、グループでの意見交流を通して、思考を深めていく。

2 単元でめざす児童の姿

- 自分が選んだ物語を、チェンジカードで友達に紹介しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格を会話や行動に着目して、叙述を基に想像して読んでいる。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	登場人物に注目しながら、繰り返し読んだり、「チェンジカード」を作ったりして、登場人物の気持ちの変化やきっかけを紹介しようとしている。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格を会話や行動に着目して、叙述を基に想像して読んでいる。	言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づき、紹介している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、登場人物の気持ちの変化を読み取るために「チェンジカード」を作る活動を通して、登場人物の性格や行動、心情の変化を、叙述に基づいた自分の読み方や読みの根拠となる考えを交流して、課題発見・解決力（スキル）を育成することができる。と考える。

6 指導計画（全10時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定 物語を「チェンジカード」で紹介するという学習の見通しをもつ。(1)	本の紹介をするために、「チェンジカード」にどのような内容を取り入れたいか考えている。 【関・意・態】(行動観察)	「チェンジカード」を作るための学習問題を考えて適切に表現している。 (行動観察)
二	情報の収集 整理・分析 教材文を読んで感想を話し合い、場面分けをする。(1) 教材文の構造分析をして、あらすじを書く。(1) 自分の選んだ物語の構造分析をし、あらすじを書く。(1) 豆太の行動や会話に着目して読み、モチモチの木に対する気持ち、山の神様に対する気持ちを想像し、豆太の人物像を考える。(4)(本時8/10)	初発の感想を話し合い、時間や場所を表す言葉に着目して、5つの場面に分けている。 【読む】(ノート) 5つの場面を、「設定・展開・山場・結末」の構成に分けて、あらすじを一文でまとめている。 【読む】(ノート) おおまかなできごとを整理し、「設定・展開・山場・結末」の構成に分けて、あらすじを一文でまとめている。 【読む】(チェンジカード) 登場人物の性格や気持ちの変化を説明できる叙述を探しながら読んでいる。 【読む】(ノート・発言)	
三	まとめ・創造・表現 選んだ物語の「チェンジカード」をまとめ、自分が選んだ物語の人物像をとらえる。(1)	叙述から読み取った登場人物の性格や心情の変化をもとに「チェンジカード」を作っている。 【読む・言語】(チェンジカード)	登場人物の性格や気持ちの変化を読み取るために行った情報収集の方法や場面と場面とを関連付けて読んだ思考方法について振り返っている。 (ノート・行動観察)
四	ふりかえり 「チェンジカード」を使って、選んだ物語を友達に紹介し、感想を伝え合う。(1)	友だちの紹介を聞いて、興味を持った本を互いに読んでいる。 【関・意・態】(行動観察)	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

自分が想像した豆太の気持ちや性格を、会話や行動などの叙述に着目して複数の叙述から説明することを通して、登場人物の気持ちの変化を読み取ることができる。

(2) 観点別評価規準

想像した豆太の気持ちや性格について、場面と場面を関係付けながら、行動や会話などの叙述を選び、工夫して読んでいる。 【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★)
1 これまでの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 単元のゴールである、「チェンジカードで紹介しよう」のための単元計画を掲示で確認し、目的意識を明確にする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> じさまの言葉から豆太はどんな子か考えよう。 </div>	
2 前時までに取り出した豆太の気持ちの変化と5場面の「じさま」の言葉から、豆太の人物像を考え、自分の考えを班で話し合う。 3 班で話し合ったことを全体で交流する。	<ul style="list-style-type: none"> 5場面のじさまの言葉をうけて、1～4場面の豆太の性格をもう一度考えさせる。その際、「勇気 (赤)・臆病 (青) シール」を使って表現させる。 ◆ 自分が考えた性格を説明するために、3つの叙述 (会話・行動・その他) に着目して書かせる。 じさまの言う「やさしさ」と「やらなきゃならねえこと」を豆太の具体的な行動と結び付けて考えるようにさせる。 豆太が4場面で「勇気がある」という性格に変わったという人物の変化に着目させ、本当に初めから弱虫だったのか等考えさせる。 豆太の性格を表したシールを貼った図を見て、自分と違う意見の友達へ質問をする。自分の考えを発言する際、想像した性格を説明するための3つの叙述 (会話・行動・その他) を根拠に説明させる。 	○ 場面と場面を関連付けて、文章中の語や表現について着目して読み取ることができる。 【読む】 (ノート)
4 豆太の変化から感じたことを話し合う。 5 振り返りと次時の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> 登場人物について一人一人の感じ方の違いに気付かせる。 振り返りでは、豆太と自分が選んだ本の登場人物を比較して気付いたことを書かせる。 次時では、自分が選んだ物語の登場人物の気持ちが変わった叙述から感じたことを「チェンジカード」にまとめるということを伝える。 	★ 自分の考えを他者と交流することを通して、考えの多様性に気付く。 (ノート)

初めて知る「戦争」、考える「平和」を伝えよう

指導者 島本 佳代子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第5学年及び第6学年の「C読むこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- (1) エ 登場人物の相互関係や心情、場面についての描写をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。
- カ 目的に応じて、複数の本や文章などを選んで比べて読むこと。

(1) 単元観

本単元は、戦争や平和について書かれた複数の本を比べて読み、それぞれの本で描かれている「戦争」「平和」について考えたことを話し合い、「推薦リーフレット」にまとめ、読み聞かせに来ていただいている方に読んでいただく活動を通して、「戦争」や「平和」について自分の考えを深めることをねらいとしている。

本教材は、戦争という悲惨な状況において、それを乗り越えて成長していくヒロ子の生き方が、「わたし」の視線を通して語られている。ヒロ子の決して恵まれているとは言えない環境の中で強くたくましく生きる人間の姿を戦争の悲惨さに対比して読むことで、人間の生き方について深く考えることができる作品である。戦争について書かれた作品は、児童の生活体験からは遠いものであるため、複数の本を読み比べたり、読んだ内容に関連付けたりして理解を深める価値が高く、同じテーマの本を複数読み比べることに適した教材である。さらに、児童はこれまで他教科で学習した戦争の悲惨さや非人間性等も振り返りながら、ヒロ子や「わたし」に自分を重ね、本教材のテーマについて深く読み取ることも期待できると考える。

そして、戦後70年目を迎えた今年、この作品をきっかけに戦争や平和を描いた本へと読み広げ、そこで考えたことを交流することにより、友達との感じ方の違いや共感する部分があることに気付き、再度物語を読み返した時、さらに自分の考えを広げたり深めたりすることができると思った。これが、中学校第1学年の「C読むこと」目標(3)にある、「読書を通してものの見方や考え方を広げようとする態度を育てる」ことにつながるよう、本単元を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、20人の児童が読書を好み、進んで様々な本を読むことができる。しかし、1学期中に戦争や平和に関する本を2冊以上読んだ児童は8人と少ない。また、読書後の感想を交流したことはあるが、共通点や相違点について話し合ったり、観点を決めて読み比べたりして、読書の幅を広げる学習活動は十分行っていない。

思考力・表現力の実態

単元末テストの結果から、物語に書かれている内容を正しく読み取ることは18人の児童ができていた。「風切るつばさ」の学習で、叙述を基に物語の主題を正しく読み取り、自分の言葉で考えをまとめた児童は19人だった。

しかし、表現の仕方が分からず自信がないという理由で、自分の考えを表現することが苦手だと感じている児童が9人いる。また、語彙が少ないという課題から1学期から語彙表を掲示している。書く活動の際は意識して使うようになっているが、定着は不十分である。

(3) 指導観

単元の冒頭では、「戦争や平和に関する図書に触れる機会が少ない5年生に、自分が心に残った本を推薦する」という単元全体の課題となる相手と目的を明確にする。これにより、5年生に分かりやすく本の内容を推薦するために、戦争や平和に関する本を複数読む必要感をもたせる。推薦リーフレットに書く内容を考えるために、平成25年度全国学力実態状況調査国語B問題³を用いる。問題にある2つの推薦文を比較することで、推薦する対象や理由を捉えなければならないことや、推薦の6つの観点(①文章の形態②登場人物③叙述・表現④展開・構成⑤テーマ⑥作者)を理解し、自分のリーフレット作りに役立てられるようにする。

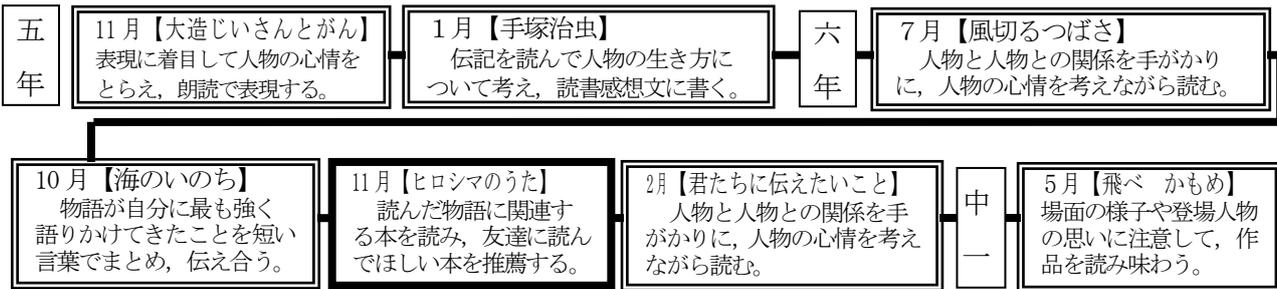
リーフレットには、題名、人物関係図、作者についての解説、この本で描かれている「戦争」についての意見文を載せる。意見文の内容は、同じ戦争を題材にして描きながら、それぞれの物語ではどのような意味付けがされているのか、そこから読み手である児童自身がどのような思いをもったのかを学習後まとめることで、本の内容についてだけでなく、戦争がもたらす悲しみや憎しみがどれほど大きなものであるか感じることができると考えた。

リーフレットを使って自分の選んだ本を推薦した後、5年生からの感想や自己評価を踏まえて成果と課題を明らかにして、次の学習へつなげられるようにする。また、複数の本を関連付けて読むことで作品をより味わいやすくなったことを振り返らせ、観点を決めて比べて読む読み方、読書の新たな楽しみ方に気付かせ、日常的な読書にも生かしていく。

2 単元でめざす児童の姿

- 関連する複数の本を比べて読むことに興味をもち、読み聞かせの方に推薦するためのリーフレットづくりに取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- 中心人物の心情の変化や、終末の書かれ方について、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。(読むこと)
- それぞれの本で描かれている「戦争」や「平和」がどんなものであるか、複数の本を比べながら読んでいる。(読むこと)

3 領域「読解」の系統



4 単元の評価規準

	国語への関心・意欲・態度	読む能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	関連する複数の本を比べて読むことに関心を持ち、進んで取り組もうとしている。	複数の本の「戦争」や「平和」の描かれ方を比べ、それらがどのように異なるのかについて、読み取ろうとしている。	文章における語句と語句との関係を理解している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、相手意識・目的意識を明確にして複数の本を関連付けながら読み、読み聞かせの方に推薦するためのリーフレットをつくる活動を通して、課題発見・解決力（スキル）を育むことができると考える。また、複数の本の共通点・相違点を考えながら読み、自分なりの「戦争」や「平和」に対する思いを小集団で話し合い、協働して自分の意見を再構築することを通して、建設的批判能力（スキル）やグローバル社会を生き抜く高い志・使命感（価値観・倫理観）を育成できると考える。

6 指導計画（全9時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定① 教材文の初読の感想を持ち、読み聞かせの方にリーフレットで推薦するという活動の相手・目的意識を明確にする。 (1) 戦争や平和について書かれた本のブックトークを聞き、推薦する本を決める。 (1)	課題意識をもって物語を読もうとしている。 【関・意・態】 （ノート，行動観察） 推薦する本を決め、その理由として叙述を根拠にまとめている。 【読む】 （ノート，発言）	学習活動のゴールである相手と目的を明確にもち、単元の課題を設定している。 (ノート)
二	情報の収集 教材文・自分で選んだ本の物語の設定，構造分析をする。 (2)	物語の構造や設定を読み取っている。 【読む】 （ノート，発言）	
	整理・分析 戦争中と戦後での変化，終末の書かれ方の2つの観点に沿って，教材文と自分で選んだ本の戦争や平和の描かれ方について読み取り，リーフレットにまとめる。 (2) (本時6/9)	2つの観点に沿って，複数の作品を比べながら読んでいる。 【読む】 （リーフレット，発言）	自分と異なる意見が出た際，まずは相手の意見を受け入れ，自分の意見との違いを具体的に説明したり，根拠を挙げて説得しようとしていたりしている。 (行動観察)
三	まとめ・創造・表現 ふりかえり① リハーサルとしてクラスの友達に推薦し合い，助言を受けて修正・加筆する。 (1) リーフレット使って，自分で選んだ本を5年生に推薦する。 (1)	5年生に分かりやすく推薦できるよう，リーフレットの内容を吟味している。 【読む】 （リーフレット，行動観察） 5年生に分かりやすく推薦しようとしている。 【関・意・態】 （行動観察）	初めて知る戦争の影響や悲惨さ，求めていかなければならない平和について考え，これから大人になる自分たちが何をどのように行動したり伝えたりするのか考えている。(リーフレット)
	ふりかえり② 課題の設定② 自己評価と5年生の感想から，成果と課題を見付けたり，この単元に身に付いた力を振り返ったりして，次単元へつなげる。 (1)	複数の本を比べて読み，5年生に推薦するという活動で，何ができるようになったか，何が不十分であったかを振り返っている。 【関・意・態】 （行動観察）	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

教材文「ヒロシマのうた」と、自分が心に残った1冊について、終末の書かれ方の共通点や相違点について話し合うことを通して、それぞれの本の「戦争」や「平和」についての描かれ方の違いに気づき、自分の考えを深める。

(2) 観点別評価規準

「終末の書かれ方」の観点で複数の作品の共通点や相違点を比べながら読み、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。 【読むこと】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）
1 本時のめあてを確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 前時までの「ヒロシマのうた」における戦争の描かれ方を振り返り、板書のピラミッド・チャートの一番上の層に書く。 	
<p>終末の書かれ方から、どんな「戦争」や「平和」が描かれているのか考えよう。</p>		
2 「私の1冊」についてどんな「戦争」や「平和」が描かれているのか読み取り、付箋に書く。	<ul style="list-style-type: none"> 「石うすの歌」「てっぽうをもったキジムナー」「いわたくんちのおばあちゃん」「おりづるの旅」「東京大空襲」の5つの作品のグループに分かれ、終末の書かれ方から、どんな戦争を作者は描いたのかを付箋に書く。 付箋は、作品ごとに色分けして配布し、後のグループ活動でどの作品の意見なのか分かりやすくする。 ◆ 登場人物の年齢や環境、家族の状況、場所等、誰が、どこで、どうなったのかを確認させたり、戦争によってそれらがどうなったのかを考えさせたりすることで、作品による「戦争」の描かれ方を読み取らせやすくする。 ◆ 同じ作品を選んだ児童を近くに集めた座席にすることで、自分の疑問を話したり友達の意見を聞いたりして解決しやすくする。 	
3 「ヒロシマのうた」や児童が選んだ5つの作品の共通点・相違点について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> それぞれのグループから1名ずつ集まってグループとなり、自分の選んだ作品について意見を言いながら付箋を貼り付けていく。 ベン図を拡大した模造紙に、自分の選んだ本について書いた付箋を張り付けていくことで、「ヒロシマのうた」や、他の作品との共通点や相違点を視覚的に分かりやすくする。 ピラミッドチャートで意見を整理していくことで、同じ「戦争」を題材にして描きながら、それぞれの物語で様々な形で意味付けされていることに気付かせる。 	<p>★ 自分と異なる意見が出た際、まずは相手の意見を受け入れ、自分の意見との違いを具体的に説明したり、根拠を挙げて説得しようとしていたりしている。（行動観察）</p>
4 「私の1冊」で描かれた「戦争」「平和」についてまとめる。 5 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 同じ作品を選んだ友達との話し合い、違う作品を選んだ友達との話し合いを通して、自分の戦争に対する思い、作者が伝えたかった思いをリーフレットにまとめる。 振り返りの視点（学習課題・学習方法・学習内容・次時に向けて）を意識させることで、本時の学びを自覚できるようにする。 	<p>○ 「終末の書かれ方」の観点で複数の作品の共通点や相違点を比べながら読み、「戦争」や「平和」について自分の考えをまとめている。 【読む】（ノート）</p>

たんぼぼ学級（3名） 国語科3年 「まちについて調べてしょうかいしよう」

4年 「報告します，みんなの生活」

くらしの中で調べたことを発表しよう

指導者 石倉 さゆり

1 児童観

本学級は，5年男子2名，3年女子1名の計3名の知的障害特別支援学級である。

- A児は，発表したい気持ちがあり，分かることは積極的に発表する。また，丁寧な言葉遣いはある程度できる。自分の思いや考えを自分の言葉で上手く表現することは難しい。
- B児は，話型があればそれにあてはめて文を話すことができる。日常会話はある程度話すことができるが，自分で文章を考えたり，自分なりの考えをもったり，筋道を立てて物事を理解したりするのは難しい。
- C児は，人に思いを伝えようとする思いはあるが，会話は2語文程度で，言語によるコミュニケーションはかなり困難である。
- A児，B児，C児とも些細なことでも動揺しやすい傾向にある。

2 単元について

- 本単元は，小学校学習指導要領は第3学年及び第4学年の「A話すこと・聞くこと」の内容に基づき設定した。学習指導要領には，以下のように示されている。

- (1) イ 相手や目的に応じて，理由や事例などを挙げながら筋道を立て，丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり，言葉の抑揚や強弱，間の取り方などに注意したりして話すこと。

(1) 単元観

- A児
本単元は，町について調べたことを発表する活動を通して，聞き手によく分かるような話し方や資料の示し方などを工夫して説明する力を付けることをねらいとしている。調べた資料を厳選したり，資料を使って聞き手に分かりやすく説明したりする力の定着を図る。
- B児
本単元は，調べたことを整理して，ポスターを使いながら順序良く報告する活動を通して，資料を使いながら分かりやすく伝える力を付けることをねらいとしている。ポスター発表特性を生かして，相手の反応を見ながら分かりやすい話し方を学んだり，調査に基づいた図，表やグラフを活用することで課題を客観的にとらえたりする力を育てる。
- C児
本単元は，調べたことを整理して，ポスターを使いながら順序良く報告する活動を通して，資料を使いながら分かりやすく伝える力をつけることをねらいとしている。相手の反応を見ながら分かりやすい話し方を学ぶ。

(2) 指導観

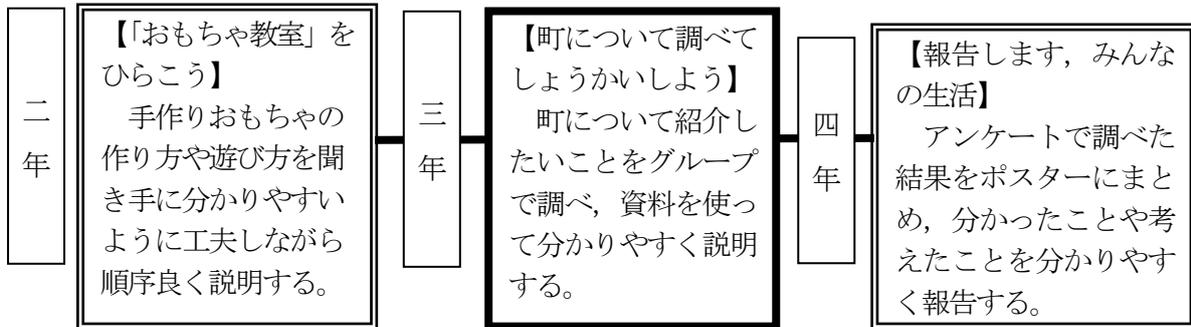
- A児
学習の見通しをもつことで意欲的に取り組めるようにしたい。調べた資料を厳選したり，資料を使って聞き手に分かりやすく説明したりする経験を積ませたい。また，話がよく伝わるよう，相手を見たり，声の抑揚や間を意識したりして発表ができるよう指導したい。
- B児
相手に分かりやすい資料作りや話型を使った話し方を学ぶことで報告する力を身に付けさせたい。
- C児
相手に資料の見えやすい位置に立ち，相手を見ながら話型を使って話したり質問に答えたりする経験を通して，コミュニケーションの力を育てたい。

(3) 単元でめざす児童の姿

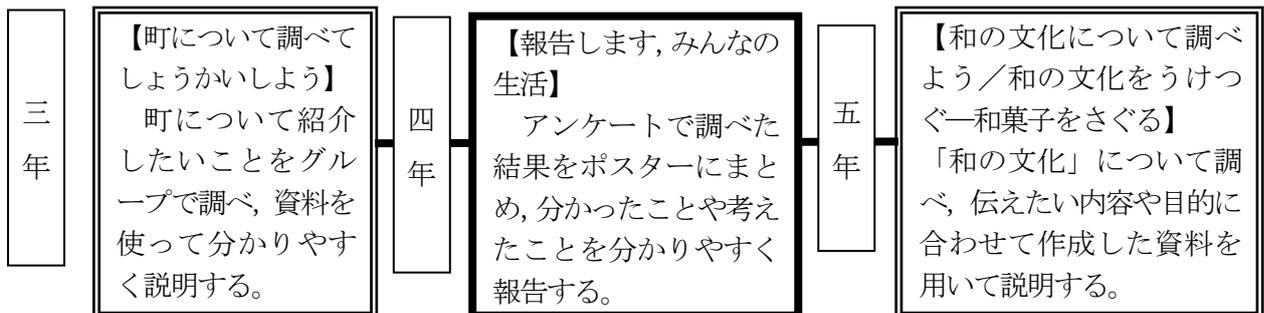
- A児
- ・町について調べたことを発表することに意欲的に取り組もうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
 - ・調べたことを整理し、事例を挙げたり資料を使ったりして話している。聞き手に分かりやすいように、話す速さや間、言葉の強弱、言葉遣い、資料を見せるタイミングなどを考えて話している。
(話すこと・聞くこと)
 - ・聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。(言語についての知識・理解・技能)
- B児
- ・ポスター発表を行うことに興味をもち、調べて分かったことがよりよく伝わるよう、発表の仕方や話し方を工夫しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
 - ・ポスターの図表等を用いて理由や事例を挙げながら、筋道を立てて話している。聞き手に分かりやすいように、話す速さや間の取り方、立つ位置、ポスターの示し方などに注意して、適切な言葉遣いで話している。
(話すこと・聞くこと)
 - ・聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。(言語についての知識・理解・技能)
- C児
- ・ポスター発表を行うことに興味をもち、調べて分かったことがよりよく伝わるよう、発表の仕方や話し方を工夫しようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
 - ・ポスターの図表等を用いて理由や事例を挙げながら、筋道を立てて話している。聞き手に分かりやすいように、立つ位置、ポスターの示し方などに注意して、適切な言葉遣いで話している。
(話すこと・聞くこと)
 - ・聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。(言語についての知識・理解・技能)

3 領域「話すこと・聞くこと」の系統

○A児



○B児・C児



4 単元の評価規準

○A児

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	町について調べたことを発表することに意欲的に取り組もうとしている。	調べたことを整理し、事例を挙げた資料を使ったりして話している。聞き手に分かりやすいように、話す速さや間、言葉の強弱、言葉遣い、資料を見せるタイミングなどを考えて話している。	相手意識をもち、聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。

○B児

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	ポスター発表を行うことに興味をもち、調べて分かったことがよりよく伝わるよう、発表の仕方や話し方を工夫しようとしている。	ポスターの図表等を用いて理由や事例を挙げながら、筋道を立てて話している。聞き手に分かりやすいように、話す速さや間の取り方、立つ位置、ポスターの示し方などに注意して、適切な言葉遣いで話している。	相手意識をもち、聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。

○C児

	国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
単元の評価規準	ポスター発表を行うことに興味をもち、調べて分かったことがよりよく伝わるよう、発表の仕方や話し方を工夫しようとしている。	ポスターの図表等を用いて理由や事例を挙げながら、筋道を立てて話している。聞き手に分かりやすいように、立つ位置、ポスターの示し方などに注意して、適切な言葉遣いで話している。	相手意識をもち、聞く人にとって分かりやすい話し方を理解している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

○A児

本単元において、調べたことを聞き手に分かりやすく話す言語活動を通して、人と関わることへの主体性、積極性(意欲・態度)を育成することができる考える。

○B児

本単元において、資料を作るために友達と協力したり、ポスターを使いながら聞き手に分かりやすく報告したりする活動を通して、人と関わることへの主体性、積極性(意欲・態度)を育成することができる考える。

○C児

本単元において、聞き手を意識して話す言語活動を通して、人と関わることへの主体性、積極性(意欲・態度)を育成することができる考える。

6 指導計画

○A児 (全8時間)

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>学習に見通しをもち、町の中で不思議に思ったり、気になったりしているものを集める。(1)</p>	<p>町の中で不思議に思ったり、気になったりしているものを集めようとする。</p> <p>【関・意・態】(行動観察)</p>	<p>人に伝えたいことを集めようとしている。(行動観察)</p>
二	<p>情報の収集</p> <p>発表する事柄を選び取材する。(3)</p>	<p>発表する事柄を選び、いろいろな方法で取材しようとする。</p> <p>【関・意・態】(行動観察)</p>	<p>伝えたいことを決め、取材することを通して積極的に人と関わろうとしている。(行動観察)</p>
三	<p>整理・分析</p> <p>発表の準備や話す練習をする。(3)</p>	<p>調べたことを整理し、聞き手を意識した話し方の工夫をしている。</p> <p>【関・意・態】(行動観察, ワークシート)</p>	<p>調べたことを人に分かりやすく説明することに意欲をもって取り組もうとしている。(行動観察, ワークシート)</p>
四	<p>まとめ・創造・表現 ふりかえり</p> <p>発表会を開き、質問したり感想を伝え合ったりする。 発表会を振り返る。(1) (本時8/8)</p>	<p>聞き手に分かりやすいように、話す速さや間、言葉の強調、言葉遣い、資料を見せるタイミングを考えて話している。 自分の発表の仕方を振り返っている。</p> <p>【話す・聞く】(行動観察)</p>	<p>聞き手を意識した分かりやすい話し方を工夫して話そうとしている。 聞き手に分かりやすい発表になっていたか振り返ろうとしている。(行動観察)</p>

○B児 (全8時間)

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	<p>課題の設定</p> <p>ポスター発表に興味をもち、学習の見通しを立てる。(1)</p>	<p>ポスター発表の良さを知り、アンケート調査に関心をもとうとしている。</p> <p>【関・意・態】(行動観察)</p>	<p>友達と協力しながらポスターを作っていくことを意識しようとしている。(行動観察)</p>
二	<p>情報の収集</p> <p>アンケートの調査項目を決め、実施する。調査結果を整理する。(3)</p>	<p>アンケートの質問を考えたり、回答しやすく、集計しやすいアンケート用紙を作ろうとしている。</p> <p>【関・意・態】(ワークシート)</p>	<p>協力してくれる友達のことを考えた回答しやすいアンケート用紙を作ろうとしている。(ワークシート)</p>
三	<p>整理・分析</p> <p>調査結果を数値化し、図や表にまとめる。 発表の練習をする。(3)</p>	<p>目的に合うポスターを作ろうとしている。【書く】(行動観察) 話し方やポスターの見せ方などを考えながら話そうとしている。 【話す・聞く】 (行動観察, ワークシート)</p>	<p>見たり聞いたりする人にとって分かりやすいポスターにしようしたり、話し方・見せ方にしようとしている。(行動観察, ワークシート)</p>

四	まとめ・創造・表現 ふりかえり ポスター発表を行い、質問をしたり感想を伝え合ったりする。 発表の仕方を振り返る。 (1) (本時8/8)	立つ位置、話す速さや間、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して話している。 自分の発表の仕方を振り返ろうとしている。 【話す・聞く】 (ワークシート、行動観察)	聞き手の様子を確認しながら、話そうとしている。 聞き手に分かりやすい発表になっていたか、振り返ろうとしている。 (ワークシート、行動観察)
---	--	--	---

〇〇児（全8時間）

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)
一	課題の設定 ポスター発表に興味をもち、学習の見通しをたてる。 (1)	アンケート調査に関心をもとうとしている。 【関・意・態】(行動観察)	友達と協力しながらポスターを作っていくことを意識しようとしている。 (行動観察)
二	情報の収集 アンケートの調査項目を決め、実施する。調査結果を整理する。 (3)	回答しやすく、集計しやすいアンケート用紙を作ろうとしている。 【関・意・態】(ワークシート)	協力してくれる友達のことを考えた回答しやすいアンケート用紙を作ろうとしている。 (ワークシート)
三	整理・分析 調査結果を数値化し、図や表にまとめる。 発表の練習をする。 (3)	目的に合うポスターを作ろうとしている。【書く】(行動観察) 話し方やポスターの見せ方などを知り、話そうとしている。 【関・意・態】 (行動観察、ワークシート)	見たり聞いたりする人にとって分かりやすいポスターにしようしたり、話し方・見せ方にしようとしている。 (行動観察、ワークシート)
四	まとめ・創造・表現 ふりかえり ポスター発表を行い、質問をしたり感想を伝え合ったりする。 発表の仕方を振り返る。 (1) (本時8/8)	立つ位置、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して話している。 自分の発表の仕方を振り返ろうとしている。 【話す・聞く】 (ワークシート、行動観察)	聞き手の様子を確認しながら、話そうとしている。 聞き手に分かりやすい発表になっていたか、振り返ろうとしている。 (ワークシート、行動観察)

7 本時の展開

(1) 本時の目標

- A児 聞き手を意識しながら、調べたことを分かりやすく発表する。
- B児 聞き手に分かりやすい発表の仕方を考えてポスター発表を行う。
- C児 聞き手に分かりやすい発表の仕方を知り、ポスター発表を行う。

(2) 観点別評価規準

- A児 聞き手に分かりやすいように、話す速さや間、言葉の強調、言葉遣い、資料を見せるタイミングに注意して話している。 【話すこと・聞くこと】
- B児 立つ位置、話す速さや間、言葉遣い、ポスターの示し方を考えながら話している。 【話すこと・聞くこと】
- C児 立つ位置、言葉遣い、ポスターの見せ方などに注意しながら発表をしている。 【話すこと・聞くこと】

(3) 学習の展開

学習内容	指導上の留意点（・）と支援（◆）			評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）
	A児	B児	C児	
<p>1 挨拶をする。</p> <p>2 本時の流れと課題の確認をする。</p>	<p>◆ 全体の流れの表を活用して、本時の流れを確認し、自分のめあてを発表する。</p>	<p>立つ位置、話す速さや間、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して発表する。</p>	<p>立つ位置、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して発表する。</p>	
<p>3 調べたことを発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝えたいことを中心にして、話す順序を考えた発表になるよう意識させておく。 ・ 準備の手順はあらかじめ決めておき、協力して行う。 ・ 準備が整ったことを確認して始める。 ◆ 発表するときの話型を決めておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 提示する順や発表を交代するところをあらかじめ決めておく。 		<p>A児</p> <p>○ 聞き手に分かりやすいように、話す速さや間、言葉の協調、言葉遣い、資料を見せるタイミングを考えて話している。（行動観察）</p> <p>B児</p> <p>○ 立つ位置、話す速さや間、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して話している。（行動観察）</p> <p>C児</p> <p>○ 立つ位置、言葉遣い、ポスターの示し方に注意して話している。</p> <p>A児・B児・C児</p> <p>★ 相手意識をもち、聞く人に分かりやすい話し方を考えることを通して、人と主体的、積極的に関わろうとしている。（行動観察）</p>
<p>4 振り返りをする。</p> <p>5 挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 目標が達成できたか分かるようにそれぞれ確認する。 ・ 質問をしたり感想を述べ合ったりする。 			

第3学年2組 (27名) 社会科「学校のまわりの店ではたらく人」

もし商店街に「土堂っ子スーパー」を出店するなら？

指導者 谷川 友弥

1 単元について

○ 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(2) 地域の人々の生産や販売について、次のことを見学したり調査したりして調べ、それらの仕事に携わっている人々の工夫を考えるようにする。

ア 地域には生産や販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていること。

(1) 単元観

本単元は、大単元「はたらく人とわたしたちの暮らし」の中の小単元の一つであり、地域のお店を調べることで、販売に関する様々な仕事をしている人々が、尾道市や他地域とのかかわりをもちながら、消費者のニーズに合った工夫を行い、自分たちの生活を支えていることを理解することをねらいとしている。

学校の近くには商店街があったり行商が行われていたりするため、様々な販売形態にふれることができる。また、商店街以外にも尾道市には「イオン」「エブリイ」「ハローズ」「MATE」「万惣」「鶴屋」などの小売店も存在する。さらに、コンビニエンスストアも多数存在し、店の種類や数が豊富である。商店街周辺の地域では過疎化や高齢化が進み、移動手段の無い高齢者にとって商店街や行商は欠かせない存在になっており、信頼も厚い。また、スーパーマーケット、コンビニエンスストアなどでもそのお店ならではの販売方法の工夫があり、消費者は目的や必要に応じて利用するお店を選択している。

本単元において、商店街のスーパーマーケットや大型スーパーマーケットの販売方法の工夫を比較し、消費者が目的や必要に応じて利用するお店を選択していることと関連付けて考えることを通して、社会的事象の特色や相互の関連などについて考える力を育成できると考え、本単元を設定した。

(2) 児童観

本学級の児童は、これまで、「学校のまわり」「市の様子」について学習した。学校周辺や尾道市の地形や土地利用の様子について理解することができた児童は23名である。

思考力・表現力の実態

写真や地図などの資料を根拠に自分の考えを書いたり、発表したりすることのできる児童は25名である。しかし、2つの資料を比較したり、関連付けて考えたりし、どんなことが読み取れるか表現することに課題が見られる。その原因として、これまでに、複数の資料を比較・関連させ、そこから何が読み取れるかを考える経験が不足していることが考えられる。

(3) 指導観

単元の導入では、家族がどこのお店で買い物をするかアンケートを行い、生活経験との結び付きを図る。また、商店街では閉まっているお店が多いことを振り返る。それらを基に学習問題をつかませる。

お店の見学や働く人々へのインタビューを通して、働く人々の工夫や努力を理解できるようにする。また、消費者にもインタビューを行い、消費者の願いにも気付くことができるようにする。授業の中では、複数の資料を比較・関連させ、そこからどんなことが考えられるか表現する場を設定する。

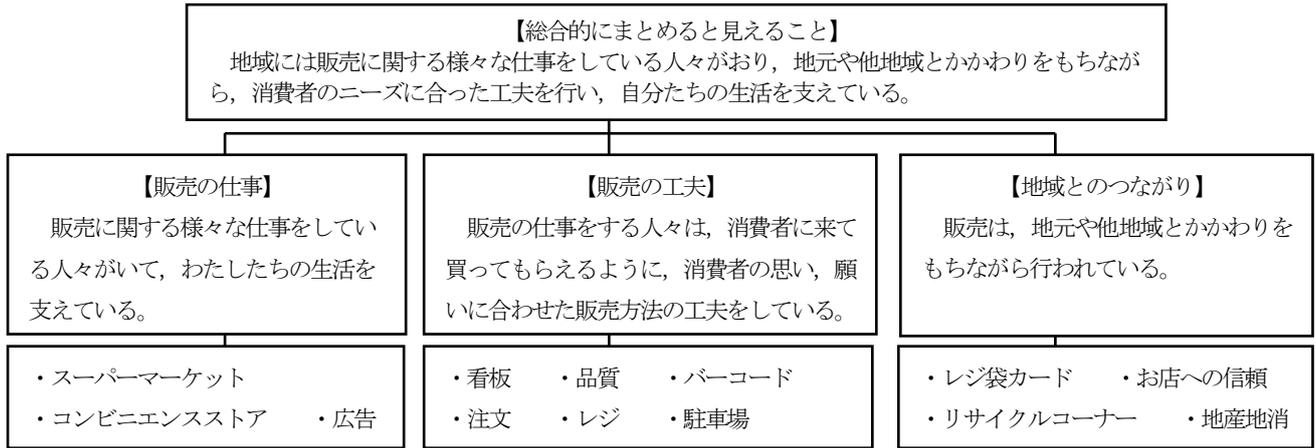
学習のまとめでは、自分がどんなスーパーマーケットを商店街に出店したいか、学習したことを基に企画書を作成する。

2 単元でめざす児童の姿

○ 地域には販売に携わる仕事があり、自分たちの生活を支えていることや、これらの仕事に見られる特色、他地域とのかかわりを理解するとともに、販売の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとする。

○ 地域の販売の仕事の様子から学習問題を見だし、見学・調査したり、資料を活用したりして具体的に調べたことをまとめるとともに、これらの仕事と自分たちの生活とのつながりについて考えたことを適切に表現する。

3 知識の構造図



4 単元の評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用 of 技能	社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	地域の人々の販売の仕事に関心を持ち、意欲的に調べるとともに、地域の人々の販売の仕事と自分たちの生活とのかかわりを考えようとしている。	地域の人々の販売の仕事の様子について、学習問題や予想、学習計画を考え表現している。 地域の人々の販売の仕事の様子を自分たちの生活と関連付けて考え、適切に表現している。	観点に基づいて見学したり資料を活用したりして、地域の人々の販売の仕事の様子について必要な情報を集め、読み取っている。	地域には販売に関する仕事があり、それらは自分たちの生活を支えていることを理解している。 地域の人々の販売に見られる仕事の特色や他地域などのかかわりを理解している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、家族などの身近な人にどこで買い物をしているかアンケートを行い、なぜそのような結果になったのか自分なりの予想をもって問題解決に取り組んだり、2つの資料を比較・関連したりすることを通して、課題発見・解決力（スキル）を育成することができると思える。

6 指導計画（全11時間）

次	学習活動	評価規準（評価方法）	資質・能力の評価（評価方法）
一	家族の買い物アンケートを基に、どこで買い物をしているか、なぜそのお店で買い物しているのかを振り返り、白地図にまとめる。(1)	家族の買い物アンケートを基に、家族の買い物に関心をもって調べようとしている。 【関・意・態】 （ノート、行動観察）	
	課題の設定 商店街では閉まっているお店が多いという現状を基に、学習問題を考え、学習計画を立てる。(1) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 5px;">商店街に土堂っ子スーパーを作るために必要なことは何だろう。</div>	商店街の現状を基に学習問題を考え、学習計画を立てている。 【思・判・表】 （ノート、行動観察）	アンケート結果や商店街の現状から、お店で働く人々について調べるための学習課題を考えている。(ノート)
二	「エブリイ」の見学の計画を立てる。(1)	学習問題に対する予想を立て、見学で調べたいことや聞きたいことを考えている。 【思・判・表】 （ノート、行動観察）	
	情報の収集 「エブリイ」に見学へ行き、人々がスーパーマーケットへ行く理由を調べる。(2)	「エブリイ」で働く人にインタビューしたり、店内や働く様子を観察したりして、働く人々の工夫について調べている。 【技能】 （ノート、行動観察）	
	整理・分析 見学からわかった「エブリイ」で働く人々の工夫についてまとめる。(1)	見学のまとめをするを通して、働く人々は、消費者が買い物をしやすいよう工夫していることを理解している。 【知・理】 （ノート、行動観察）	
	「鶴屋」に見学へ行き、働く人と消費者にもインタビューをする。(2)	「鶴屋」で働く人や消費者にインタビューをし、消費者の願いに合わせた販売を行っていることを調べている。 【技能】 （ノート、行動観察）	

	商店街にあるスーパーマーケット「鶴屋」の工夫について考える。(1) (本時9/11)	商店街のスーパーマーケット「鶴屋」は、消費者のニーズに合った販売を行うことで、消費者の信頼を得ていることを考えている。 【思・判・表】(ノート, 行動観察)	資料を比較・関連させ、考えを表現している。(ノート)
三	<p>まとめ・創造・表現 ふりかえり</p> <p>学習したことを基に、商店街の実態に合ったスーパーマーケット出店の企画書を作成する。(2)</p>	<p>お店で働く人々の様子をまとめることを通して、販売の仕事が自分の生活を支えていることを考えようとしている。</p> <p>【関・意・態】(作品, 行動観察)</p>	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

商店街のスーパーマーケット「鶴屋」は、消費者のニーズに合った販売を行うことで、消費者の信頼を得ていることを考えることができる。

(2) 観点別評価規準

商店街のスーパーマーケット「鶴屋」は、高齢者のニーズに合った販売を行うことで、地域に住む人々から信頼を得ていることを考えている。【思・判・表】

(3) 準備物

「鶴屋」店内の写真、「エブリイ」や「鶴屋」への来店者の年代別グラフ、「エブリイ」の店内の写真、消費者の話

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★)
1 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 「エブリイ」が行っている工夫や努力について振り返る。 「鶴屋」の写真や来店者の年代別グラフやどこから来たか資料を提示し、高齢者が多く来店していることに気付かせる。 「エブリイ」への来店者の年代別グラフやどこから来たか資料を提示し、「鶴屋」の来店者と比較させる。 	
なぜ「鶴屋」にはお年寄りの方が多く来ているのだろうか。		
2 資料から「鶴屋」の工夫や努力について考える。	<ul style="list-style-type: none"> 「鶴屋」と「エブリイ」のパックの大きさを比べることで、「鶴屋」は一人用の商品を販売していることに気付かせる。 値段は高くても体に良い健康商品を販売していることに気付かせる。 商品を自宅まで宅配していることから、そのサービスが高齢者にとって役立つものであることに気付かせる。 コンビニでも宅配を行っていることに気付かせ、それでもなぜ「鶴屋」に行くのか考えさせる。 「鶴屋」で行っているサービスを「エブリイ」でなぜ取り入れないのか考えさせる。 	<p>★ 写真などの資料を比較・関連させながら自分の考えを適切に表現している。</p> <p>(ノート)</p>
3 まとめをする。	<p>◆ 2つの資料を比べて違いを見つけるように机間指導する。</p> <p>・ キーワードを基に、児童に自分の言葉でまとめをさせる。</p>	○ 商店街のスーパーマーケット「鶴屋」は、消費者のニーズに合った販売を行うことで、消費者の信頼を得ていることを考えている。【思・判・表】
「鶴屋」では、地域に住む人の願いに合った販売を行い、地域の人からの信頼があり、無くてはならないお店となっている。		
4 振り返りをする。	<ul style="list-style-type: none"> 自分がどんな資料を活用できたかという視点で振り返りをさせる。 	

ごみが資源であるために

指導者 渡邊 翠大

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第3学年及び第4学年の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

(3) 地域の人々の生活にとって必要な飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理について、次のことを見学、調査したり資料を活用したりして調べ、これらの対策や事業は地域の人々の健康な生活や良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを考えるようにする。

ア 飲料水、電気、ガスの確保や廃棄物の処理と自分たちの生活や産業とのかかわり

イ これらの対策や事業は計画的、協力的に進められていること。

(1) 単元観

本単元は、大単元「住みよいくらしをつくる」の中の小単元の一つである。本単元では廃棄物の処理、それに関わる人の姿、ごみの利用を主たる教材として扱い、ごみ処理に対するこれからの自分たちの態度を考えさせる。システムとしての廃棄物処理だけではなく、それらの事業が計画的、協力的に進められ、自分たちの健康で良好な生活環境の維持と向上に役立っていることや生活に必要な不可欠であることを理解することをねらいとしている。

尾道市では循環型社会の形成推進計画が示されている。児童の住む地域では尾道市クリーンセンターで中間処理をして尾道市原田最終処分場で埋立される。平成23年には事業系と家庭系の廃棄物は合わせて56607tに及んだ。しかし平成19年から23年にかけてごみ排出量の実績は緩やかな減少傾向にある。また、広島県の最終処分場の残余年数は、平成18年の段階では15年と言われていたが平成22年にはあと22年もつと言われた。この事実から人々の意識や努力により課題を克服できるということを児童に捉えさせるとともに、3R (Reduce, Reuse, Recycle) に加え、廃棄物の燃料利用である RDF (ごみ固形燃料) の取組を扱い、これからの社会の形成者としての態度を育む。

(2) 児童観

アンケートからごみを減らしたいと考えている児童は9割以上いる。主な理由は地球環境を守りたいというものである。具体的な方法(3R)まで考えられたのは1名であった。

思考力・表現力の実態

ほぼ全員が自分の生活体験や既習知識から考えることができる。学習した内容から自分の考えや思いを表現することはできるが、考えの根拠として資料から情報を読み取ったり、解釈したりすることのできる児童は少ない。

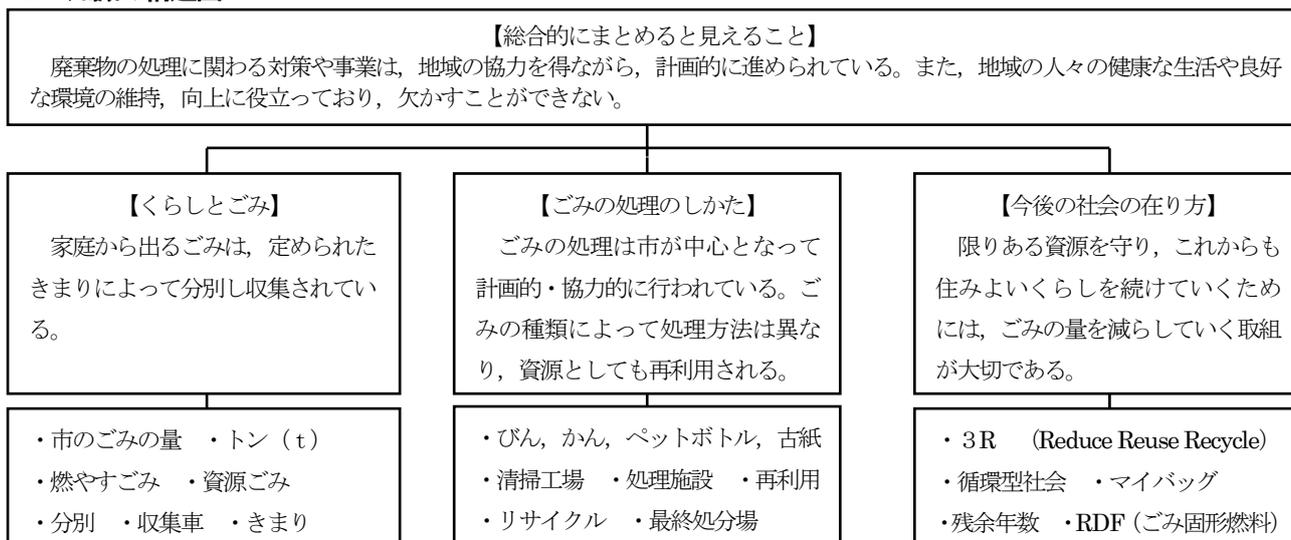
(3) 指導観

単元の導入でごみ調べを行いごみの量や種類に対して実感をもてるようにし、課題意識をもたせる。児童が見通しをもって課題解決ができるように学習問題を細分化し、何を調べるか明確にする。調べる段階では清掃工場や最終処分場を見学し、体験的な学習を行うとともに、情報を整理する活動を行い、自分の意見に根拠をもって考えられるよう、社会的事象の意味について考えさせる。振り返りの段階では、今後の在り方を考える時間を設定する。そうすることで、ごみ問題の今後について、地域の一員としてよりよい社会の形成のために行動することができると考えた。

2 単元でめざす児童の姿

- 廃棄物の処理に関わる人々の工夫や努力について考えることを通して、「ごみの処理」や「有効利用」の意味を理解し、地域社会の一員としてよりよい地域社会の形成のために行動しようとする。
- 実体験や調査活動から学習問題を見出し、資料を活用し、見学を通して調査するとともに廃棄物処理にかかわる人々の工夫や努力について考え、適切に表現する。

3 知識の構造図



4 単元の評価規準

	社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解
単元の評価規準	ごみの処理や有効利用にかかわる対策や事業に関心を持ち調べ、学習したことをごみの減量やリサイクルなど生活の中での取組に活かそうとしている。	ごみの処理や有効利用にかかわる対策や事業について学習問題や予想、学習計画を立てている。これらの事業は地域の人々の健康で良好な生活の維持向上に役立っていることを考え判断し、適切に表現している。	ごみの処理にかかわる施設を調査見学したり、統計資料を活用したりして必要な情報を集め、ごみの処理にかかわる事業が計画的、協力的に進められていることを読み取っている。	ごみ処理や有効利用は自分たちの生活や産業を支える大切な取組であることを理解し、地域の人々の健康で良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。

5 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、家庭で出るごみの量の調査や清掃工場の見学などの体験的な活動や自分たちにもできる取組を考えさせる活動により、課題を把握し追究する力、将来社会を支える地域の一員として健康で良好な社会の維持発展に協力する主体性・積極性（意欲・態度）を育成することができると思う。

6 指導計画（全13時間）

次	学習活動	評価規準（評価方法）	資質・能力の評価（評価方法）
一	<p style="text-align: center;">課題の設定</p> <p>調査活動、写真資料から、分かったことを発表し、学習問題を設定し、学習計画を立てる。(2)</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">私たちが出したごみは、どのように処分されているのだろう。</p>	<p>ごみ処理にかかわる事業に関心をもっている。 【関・意・態】（ノート，行動観察） 学習問題や自分なりの予想，学習計画を立てている。 【思・判・表】（ノート，行動観察）</p>	<p>調査結果や生活体験から、ごみ処理事業について学習問題や予想，学習計画を考えている。 （ノート）</p>
二	<p style="text-align: center;">情報の収集</p> <p>ごみのゆくえを調べる。(関係施設，収集方法) ごみ分別のきまりを調べる。(種類，処理方法) ごみの有効利用を調べる。(熱利用，3Rの取組)(3) 清掃工場，最終処分場を見学し，処理の工夫や今後の課題について調べる。(3)</p>	<p>ごみの処理の仕方や有効利用について理解するとともに，それらの取組が自分たちの生活を支えており，地域の健康で良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 【知・理】（ノート，行動観察） ごみ処理にかかわる施設や設備を見学し，必要な情報を集め，これらの事業が計画的，協力的に行われていることを読み取っている。 【技能】（ノート，行動観察）</p>	
	<p style="text-align: center;">整理・分析</p> <p>ごみ処理の工夫について得た情報を整理する(2)</p>	<p>調べてわかった情報を整理し，ごみ処理や有効利用が自分たちの生活や産業を支える大切な取組であることを理解し，地域の人々の健康で良好な生活環境の維持と向上に役立っていることを理解している。 【知・理】（ノート，行動観察）</p>	

三	まとめ・創造・表現 ごみの処理にかかわる取組について、分かったこと、考えたことをまとめる。(2)	ごみ処理事業は計画的、協力的に進められ、地域の人々の健康な生活の維持向上に役立っていることを思考・判断し、適切に表現している。 【思・判・表】 (ノート)	ごみ処理事業の課題に気付き、そのために何ができるかを考え、主体的、積極的に取り組もうとしている。 (ノート、行動観察)
四	ふりかえり これまでの学習を振り返り、ごみ問題とどのように関わっていくのか話し合う。(1 本時 13/13)	これからのごみ処理と自分との関わりを考え、日々の生活での取組に活かそうとしている。 【関・意・態】 (ノート、行動観察)	

7 本時の展開

(1) 本時の目標

これからのごみ処理と利用について、自分たちがどのように関わるのか考えることができる。

(2) 観点別評価規準

学習したことをごみの減量やリサイクルなど生活の中での取組に活かそうとしている。 **【関・意・態】**

(3) 準備物

最終処分場の分布と開始年度、残余年数の推移、RDF（廃棄物固形燃料）、ごみ固形燃料工場の人のお話

(4) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）
1 本時の課題を確認する。	<ul style="list-style-type: none"> 広島県の最終処分場の場所と残余年数を知る。 身近な問題として考えさせるため、最終処分場がなくなったらどうなるか考えさせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: 80%;"> 残余年数をさらにのばすために、わたしたちにできることを考えよう。 </div>		
2 最終処分場の残余年数が延びた理由を考える。	<ul style="list-style-type: none"> 最終処分場の残余年数が延びた理由について話し合わせる。 最終処分場が建設された年数やごみの排出量の変遷やリサイクル率の変遷に注目させ理由を考えさせる。 資料から児童に思考させることで、今後児童が取り組める活動を具体的に想起させる。 	○ 学習したことをごみの減量やリサイクルなど生活の中での取組に活かそうとしている。 【関・意・態】 (ノート・行動観察)
3 これからのごみ問題について自分たちがどう関わるのか考える。	<ul style="list-style-type: none"> RDF（ごみ固形燃料）の取組について調べる。 児童の思考を広げるため3R以外のエネルギー利用という視点を提示する。 児童の思考を深めるために、RDFのコストや品質面での課題を提示し、様々な立場からの努力が必要なことを捉えさせ、今後ごみの問題に対して自分たちにできることを考えさせる。 	
4 学習をまとめ、振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ◆ RDF（ごみ固形燃料）の課題から、自分たちの協力や取組が欠かさないことに気付かせ、まとめを書かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 最終処分場がなくなったら、町がごみであふれてしまいます。そうならないために3RやごみのRDF化などごみを減らすための取組が行われています。今日の学習から自分にできることを続けることが大切だと知りました。私はものを最後まで使い切り、ごみをなるべく出さないようにしようと思います。また分別のきまりをきちんと守り、最終処分場が長く使えるように協力したいです。 </div>	★ ごみ処理事業の課題に気付き、地域社会の一員として自分に何ができるのか考えている。 (ノート・行動観察)

忍法「ひきざんの術」発見!

指導者 中村 恵

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第1学年の「A数と計算」「D数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には、以下のように示されている。

- A (2) 加法及び減法の意味について理解し、それらを用いることができるようにする。
 イ 1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考え、それらの計算が確実にできること。
 D (1) 加法及び減法が用いられる場面を式に表したり、式を読み取ったりすることができる。

(1) 単元観

児童は、これまでに「ひきざん (1)」で求残・求差などの場面を通して減法の意味や計算の仕方を、「10より大きいかず」では(十何)と1位数の加法・減法の計算の仕方を、「たしざん (2)」では1位数と1位数の繰り上がりのある加法の計算の仕方を学習してきた。

本単元では、これらの既習の学習をもとに、(十何)と1位数の繰り下がりのある減法の計算の意味を理解し、計算の仕方を考え、いろいろな方法を用いて正しく計算できるようになることをねらっている。様々な計算の仕方が考えられるが、主なものとして被減数分解による減加法と減数分解による減々法がある。つまり、10のまとまりから一度に引く方法と端数から順々に引いていく方法である。どちらの方法も、被減数を分解して「10といくつ」というとらえ方をしていくことが大切である。児童が考えた様々な方法をしっかり認めながらも、筆算につながる減加法の考え方と計算の手順の理解とその習熟を確実にする。

(2) 児童観

本学級の児童は、学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多く、「算数の学習が好き」と答えた児童は17名いる。数を数えたり、計算練習をしたりすることが好きだと答えた児童は17名、ブロックを操作して考えることが好きだと答えた児童は19名であった。

また、繰り下がりのない減法の問題では、求残や求差の場面を理解し正しく立式し計算できた児童は19名であった。しかし、式と具体的な場面を結びつけて作問できる児童は、12名であった。

思考力・表現力の実態

ブロックを操作したことを矢印や短い言葉で図に表すことに意欲的な児童は17名である。しかし、自分の考えを図と式を結びつけて説明したり、吹き出しや文章を付けたしたりしてより分かりやすく表現できる児童は10名である。「～だから、引き算になる。」というように、根拠を明らかにして説明したり、自分の考えを筋道を立てて話したりすることには課題がある。また、友達のと比べながら聞く力も十分とは言えない。

(3) 指導観

本単元では、まずこれまでの減法との相違点を見付けさせ、「どうしたら計算できるかな」「これまでに習ったことを使えばできそうだ」という解決意欲をもたせる。

次に、自力解決の時間をしっかり保障し、ブロックなどの半具体物を用いた活動を通して、児童自ら計算の仕方を多様に見付けさせる。その際、既習の加法や減法、20までの数の学習を使って考えられるよう教室に学びの足跡を残しておく。そして、自分が見付けた計算の仕方を、言葉や数、式、図で表現させ、友達に説明する算数的活動を取り入れる。図で表現できたら、「はじめに」「つぎに」と順序を表す言葉を使って自分の考えを短い文でまとめさせる。

集団解決の場面では、様々な考えや表現方法を発表させ、自分の考えと友達のとを比較し、共通点や相違点、お互いの考えの良さに気付かせたい。その中で「10のまとまり」から引くことの良さや、数を分解して考えることの良さ、減法にはいろいろな考え方があふることを感じ取らせ、問題に応じて児童自らが柔軟に方法を選び、確実に計算する力を付けたい。

また、友達の図を他の児童が説明したり、友達の式を読み取り図を使って説明したりする活動を取り入れることで、より計算の仕方の理解を深めたい。さらに、相手意識をもち、筋道を立てて分かりやすく話す力を育てたい。

2 単元でめざす児童の姿

- 繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えることができる。
(数学的な考え方)
- (十何) - (1位数) の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。
(知識・理解)

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	(十何) — (1位数)の減法で、繰り下がりのある計算に進んで取り組み、その計算の仕方を考えようとしている。	繰り下がりのある減法の計算の仕方を、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えている。	(十何) — (1位数)の減法で、繰り下がりのある計算が正しくできる。	(十何) — (1位数)の減法で、10のまとまりに着目することで、繰り下がりのある計算の意味やその方法を理解している。

4 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、既習事項の何を使って考えると解決できそうかを見付けたり、いろいろな考えの共通点や相違点を見付けたりすることを通して、課題発見・解決力(スキル)を育成することができると考える。また、具体物を操作して解決方法を多様に考える活動を通して、主体性・積極性(意欲・態度)も育成できると考える。

5 指導計画(全11時間)

次	学習活動	評価規準(評価方法)	資質・能力の評価(評価方法)
一 くりさがりのあるひきざん	課題の設定 減法の用いられる場面(求残場面)であることに気づき、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える。(1)(本時1/11) いろいろな「ひきざんの術」を使って、計算できるようになろう。	問題場面が減法(求残場面)であることを理解している。【知・理】(行動観察) 既習事項を生かし、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えている。 【考え方】(ノート)	既習事項を生かして、問題を解決しようとしている。 (操作・ノート)
	情報の収集 整理・分析 減加法による計算の仕方を、具体物を操作しながら説明する。 減加法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)	10のまとまりから先に引けばよいことを具体物を操作しながら見だし、減加法の計算の仕方を言葉、式、図を用いて表現し考えている。 【考え方】(ノート) 減加法の計算ができる。 【技能】(ノート)	
	減々法の計算の仕方を考える。 減々法を使って繰り下がりのある減法の計算をする。(1)	減々法の計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて表現し考えている。 【考え方】(ノート) 減々法の計算ができる。 【技能】(ノート)	
	繰り下がりのある減法の計算の仕方をいろいろ考える。(1)	減法のいろいろな計算方法を工夫している。 【考え方】(ノート)	進んで多様な解決方法を見付けようとしている。 (操作・ノート)
	減法の用いられる場面(求差場面)であることに気づき、立式して答えを求める。(1)	式と具体的な場面を結び付け、減法が適用される場面であることを判断している。 【考え方】(ノート)	
	問題作りの活動を通して、減法の意味を確かめ、式と具体的な場面を結び付ける。(1)	いろいろな減法の具体的な場面を考えて、進んで問題作りに取り組もうとしている。 【関・意・態】(ノート)	
二 ひきざんのカード	繰り下がりのある減法のカードを作って練習する。(1)	繰り下がりのある減法の計算が正しくできる。 【技能】(ノート)	
	カードを使って、ゲームをする。(1)	意欲的にゲームに取り組もうとしている。 【関・意・態】(ノート, 行動観察)	
	答えが同じになるカードを集め、被減数と減数の関係に気付く。(1)	1つの数をいろいろな数の差としてとらえている。 【考え方】(ノート)	
三 チャレンジ	まとめ・創造・表現 文を見て、文章題の意味を正しくとらえ、立式する。(1)	文から、どんな場面の絵なのかを判断している。 【考え方】(ノート)	
四 おさらい	既習事項の確かめをする。(1)	求差の場面を読み取り、式に表すことができる。 【技能】(ノート)	

6 本時の展開

(1) 本時の目標

問題場面が減法の用いられる場面であることが分かり、 $12-9$ について具体物を操作して答えの求め方を考える。

(2) 観点別評価規準

- 問題場面が、減法(求残場面)であることを理解している。 【知識・理解】
- ◎ 既習事項を生かし、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考え、具体物や言葉、式、図を用いて表現して考えている。 【数学的な考え方】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点(・) 配慮を要する児童への支援(◆)	評価規準(評価方法) 教科の指導事項(○) 資質・能力(★)
<p>1 問題に出会う。</p> <p>2 解決の見通しをもち、本時のめあてをつかむ。</p> <p>3 自力解決する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ $12-2$、$12-1$の計算の仕方を振り返る。 ・ 本時の問題と、場面絵を提示する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>どんぐりが12こあります。こまをつくるのに、9こつかいました。のこりのどんぐりは、なんこでしょうか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「のこり」を求めるから減法の場面であることを確かめ、$12-9$と立式する。 ・ これまでの減法との違いを見付ける。 ・ ばらばらに置いたブロックから9個のブロックを取る「かぞえ引き」のやり方を、黒板でやって見せ、もっと早く答えを見付ける方法がありそうだと気付かせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>もっと早いブロックの取り方を見付けよう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 操作したことを、図や矢印、吹き出しで表現させる。 ◆ 図に表すことが難しい児童には、○図が描いてあるヒントカードを渡す。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 問題場面が、減法の場面であることを理解している。 【知識・理解】(行動観察) ★ 既習事項を生かして、問題を解決しようとしている。(操作・ノート)
<p>4 全体で話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の考えを、ブロックを操作したり図を指し示したりしながら「はじめに」「つぎに」と順序を表す言葉を使ってペアで話す。 ・ 黒板のブロックを操作したり、図を指し示したりしながら発表させる。 ・ 自分の考えと同じ所や違う所を見付けながら聞く。 ・ 9をどこから取っているかを、吹き出しを使って黒板にまとめる。 ・ 見付けた方法の特徴を押さえて、ネーミングする。 	
<p>5 まとめをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「減加法」と「減々法」の違いに気付かせる。 ・ 「かぞえ引き」と「減加法・減々法」を比べて、10のまとまりを作るとよいことを押さえる。 	
<p>6 適用題を解く。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブロックを動かして$13-9$の答えを見付け、どこから9を取ったか図や言葉で表させる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 減加法や減々法などの計算の仕方を具体物や言葉、式、図を用いて考えている。 【考え方】(ノート)
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>いろいろな「ひきざんの術」を使って、計算できるようになろう。</p> </div>	

かけ算を つかって 考えよう

指導者 舩上 敏成

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第2学年の「A数と計算」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

A (3) 乗法の意味について理解し、それをを用いることができるようにする。

ア 乗法が用いられる場合について知ること。

イ 乗法に関して成り立つ簡単な性質について調べ、それを乗法九九を構成したり計算の確かめをしたりすることに生かすこと。

ウ 乗法九九について知り、1位数と1位数との乗法の計算が確実にできること。

エ 簡単な場合について、2位数と1位数との乗法の計算の仕方を考えること。

(1) 単元観

児童は、「かけ算(1)」と「かけ算(2)」の学習では、乗法が用いられる場合とその意味、1～9の段までの乗法九九と乗法九九について成り立つ性質を学習している。本単元では、乗法九九を一つの表に構成したりそれを観察したりして、「乗数が1増えれば積は被乗数分だけ増える」という性質を確かめたり、乗法についての交換法則に気付いたりすることをねらいとしている。また、被乗数が9より大きい数の場合の計算の仕方について考えたりいろいろな数のまとまりで被乗数をとらえて乗法の式に表したりすることで、乗法への理解を深め、身に付けた乗法九九を学習や生活に活用することができる。さらに、「いくつずつ」と「いくつ分」を明らかにして図や式、言葉で表して説明したり、式と図を対応させながら話し合ったりすることで、自分と違った見方や考え方に気づき、数の意味や表し方への理解を深めていくことができると考える。

(2) 児童観

本学級の児童は、「算数の学習が好き」と答えた児童が20名、「算数の学習が得意」と答えた児童が17名であった。算数の学習は好きだが、苦手意識をもつ児童が数名いる。その主な理由として、「考えを説明したり聞いたりすることが苦手だから」、「問題を読んで考えることが苦手だから」と答えていた。

思考力・表現力の実態

レディネステストでは、図を乗法の式に表すことができた児童が15名、乗法の式を図に表すことができた児童が14名だった。それぞれの誤答には、被乗数と乗数を反対にとらえているもの、乗数の数に誤りがあるものが複数あった。

また、乗法の問題を読んで正しく立式して答えることができた児童が14名であった。誤答には、答えを間違えているもの、被乗数と乗数を反対にとらえて立式しているものがあった。

これらのことから、「いくつずつ」と「いくつ分」が図や問題場面のどこのことを表しているかについて、理解が十分とはいえない。

(3) 指導観

学習を通して児童が自ら課題をつかんだり学習後に達成感をもったりできるようにして、苦手意識を克服できるようにしたい。そのために、授業では、児童が「調べてみたい」「考えてみたい」と思えるような日常生活に関連した問題を提示したり、「やってみよう」と思えるような活動を仕組んだりする。また、自力解決したことを友達と紹介し合う場を設定することで、自分や友達の考えのよさに気付くことができるようにする。その際には、多様な考えを認め、出し合わせることで、新しい気付きや考え方にふれさせ、学び合うよさや楽しさを感じさせたい。

本単元の学習までに、フラッシュ教材を使って図を乗法の式に表すことに繰り返し取り組みませ、図の表現への抵抗感をなくしていきたい。本単元では、「いくつずつ」と「いくつ分」が問題場面や図のどこになるのかを対応させながら学習を進めていく。そのために、考えを出し合う場では、式を先に提示して図に表させたり、図を提示して式を考えさせたりする。また、被乗数が九九をこえる計算の学習では、既習事項や半具体物の操作をもとに考えさせることで、乗法への理解を深めさせたい。

2 単元でめざす児童の姿

- 被乗数、乗数、積の関係に気付くとともに、乗法の交換法則を理解している。(知識・理解)
- 乗法九九の表をもとに乗法についての性質を見い出したり、日常生活やいろいろな問題場面で既習を活用して考えたりしている。(数学的な考え方)

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	乗法九九の性質を表から見い出そうとするとともに、学習したことを学習や生活に活用しようとしている。	九九表から乗法の性質を見い出したり、いろいろな問題場面で既習を活用して考えたりしている。	九九表を正しく作るとともに、いろいろな問題場面で乗法を正しく立式したり計算したりできる。	被乗数、乗数、積の関係に気付くとともに、乗法の交換法則を理解している。

4 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、見付けたきを友達と紹介し合ったり、図や式をもとに考えを説明したりする活動を通して、児童のコミュニケーション能力(スキル)を育てるとともに、学んだことと、これからの学びや生活とのつながりについて考えさせることで、主体性・積極性(意欲・態度)を培うことができると考える。

5 指導計画(全9時間)

次	学習活動	評価規準 (評価方法)	資質・能力の評価 (評価方法)	
一 九九の表	<p>課題の設定 情報の収集</p> <p>九九のひょうから きまりを見つけよう。</p> <p>九九の表を観察し、きまりや特徴を見つける。(3)</p>	<p>九九表を構成し、観察したことから課題をつかんでいる。 【関・意・態】(行動観察・ワークシート)</p> <p>九九表をもとに、九九や乗法の計算のきまりや特徴を見付けている。 【考え方】(行動観察・ワークシート)</p> <p>乗法の交換法則を理解している。 【知・理】(ノート)</p>	<p>学習課題をつかみ、見付けたきまりや考えを友達と交流している。(行動観察)</p>	
	九九表を使ったゲームをする。(2)	<p>乗法九九を正しく唱えて、ゲームを進めている。 【知・理】(行動観察)</p> <p>九九表で答えがたくさんある数をビンゴに書けばよいことに気付いている。 【考え方】(行動観察・ワークシート)</p>		<p>ルールを守り、友達と仲良くゲームを進めている。(行動観察)</p>
	九九をこえたかけ算の仕方を考える。(1)	<p>乗数が1増えれば被乗数分だけ増える性質や被乗数を分配する考え方、乗法の交換法則を使って解決している。 【考え方】(行動観察・ノート)</p>		<p>既習を活用して、いろいろな問題を解決しようとしたり、友達と進んで話し合い、多様な考え方やそのよさに気付いたりしている。 (行動観察・ノート・ワークシート)</p>
九九を活用したいろいろな数え方を考える。(1)(本時7/9)	<p>単位量をとらえ、かけ算を使った式に表すことができる。 【考え方】(行動観察・ワークシート)</p>			
列車の座席の取り方について、九九を活用して考える。(1)	<p>座席の取り方について、2つの九九を活用して調べている。 【技能】(行動観察・ワークシート)</p>			
三 まとめ・練習	<p>まとめ・創造・表現 ふりかえり</p> <p>練習問題をして、既習事項の定着を図る。(1)</p>	<p>学習したことをこれからの学習や生活でどのように生かしたいか、具体的に考えている。 【関・意・態】(行動観察・ノート)</p> <p>問題場を理解し、乗法九九を活用して解決している。 【技能】(ノート)</p>	<p>単元で学習したことを活用したりその有用性について振り返ったりしている。 (行動観察・ノート)</p>	

6 本時の展開

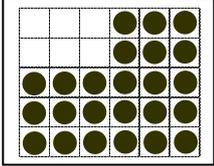
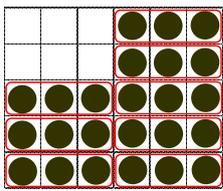
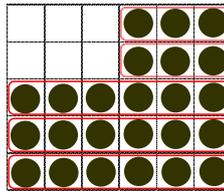
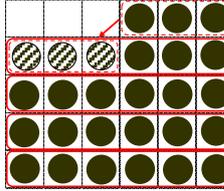
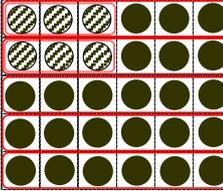
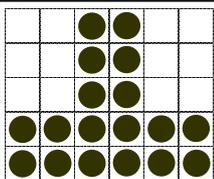
(1) 本時の目標

均等に並んでいない場面で、かけ算を使った数え方を考える。

(2) 観点別評価規準

単位量をとらえ、かけ算を使った式に表すことができる。【数学的な考え方】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点 (・) 配慮を要する児童への支援 (◆)	評価規準 (評価方法) 教科の指導事項 (○) 資質・能力 (★)
<p>1 問題に出会う。</p> <p>2 解決の見通しをもち、本時のめあてをつかむ。</p> <p>3 自力解決する。</p>	<p>はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。 いろいろなもとめ方を考えましょう。</p>  <ul style="list-style-type: none"> チョコレートの数を早く簡単に求める方法はないか問い、かけ算できそうだという見通しをもたせ、めあてを設定する。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">チョコレートの数を くふうして 数えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> チョコレートの数え方について、図と式に表現させる。 ◆ 自力解決が難しい児童には、3つずつのまとまりができることを確かめて式を考えさせる。 	
<p>4 考えを出し合い、共有する。</p> <p>5 意見を交流する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 考えを出し合う場面では、図をもとに式を考えたり式をもとに図を考えたりさせることで、一つ一つの考え方を全体で共有できるようにする。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> $3 \times 8 = 24$  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> $3 \times 2 = 6$ $6 \times 3 = 18$ $6 + 18 = 24$  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> $6 \times 4 = 24$  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 20%;"> $6 \times 5 = 30$ $3 \times 2 = 6$ $30 - 6 = 24$  </div> </div> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの考えにネーミングをさせることで、考え方の違いを明確にしてイメージしやすくする。 考え方の共通点についてペア、全体で話し合う場を設定する。 	<p>★ 友達の考えを聞き、その意味や考えのよさに気付いている。 (行動観察)</p>
<p>6 まとめをする。</p> <p>7 適用題を解く。</p> <p>8 振り返りをする。</p>	<p>いくつずつ、いくつ分を見つければ、かけ算で数えることができる。</p> <p>はこの中のチョコレートは、ぜんぶで何こありますか。 いろいろなもとめ方を考えましょう。</p> 	<p>○ 単位量をとらえ、かけ算を使った式に表すことができる。 【数学的な考え方】 (ワークシート)</p>

第6学年2組 (24名) 算数科「比例と反比例」

どんな関係かな？

指導者 川本 美紀子

1 単元について

- 本単元は、小学校学習指導要領第6学年の「D 数量関係」の内容に基づき設定した。学習指導要領には以下のように示されている。

D (2) 伴って変わる二つの数量関係を考察することができるようにする。

- ア 比例の関係について理解すること。また、式、表、グラフを用いてその特徴を調べること。
- イ 比例の関係を用いて、問題を解決すること。
- ウ 反比例の関係について知ること。

(1) 単元観

本単元では、これまでに学習してきた数量関係についての見方をまとめるために、伴って変わる2つの数量の中から、比例と反比例の関係にある物を取り上げて考察し、関数の考えを伸ばしていくことをねらいとしている。児童はこれまで、伴って変わる数量の対応や変化の仕方の特徴について、表から読み取ったり、表に書き表したりしながらその性質や特徴を調べ、考察してきた。

本単元で取り上げる「比例」は「2つの数量A, Bがあり、一方の数量が2倍、3倍、…と変化するのに伴って、他方の数量も2倍、3倍、…と変化する、一方が1/2倍、1/3倍、…と変化するのに伴って、他方も、1/2倍、1/3倍、…と変化する」数量関係としてとらえられるようにしていく。次に、比例関係に焦点をあて、式に表す活動を仕組む。このような活動を通して、比例の意味を確かにするとともに、関係を式に表したり、式で置き換えたりしながら、比例の性質について理解させていく。その後、比例関係を表現する方法として、グラフを扱い、問題解決場面を通して、それらを活用させ、比例関係を考察し判断する見方・考え方を広げていく。

次に、反比例を取り上げる。反比例を取り上げるねらいの一つは、比例ではない関係を考察することで、比例そのものの理解を深めることにある。そこで、比例の学習と比較しながら指導していく。比例の学習で取り扱った意味や式、グラフの性質や特徴と対比しながら指導することで、根拠をもって調べ方や判断の仕方などを説明できる力を育てていく。

比例・反比例の学習は、中学1年で負の数も含めて学習され、より一般化されたものとしてまとめられる。そして、その後、1次関数が学習される。従って、本単元は小学校としての比例関係のまとめであるとともに、中学校の関数指導につながるものとして、関数の見方や考え方を伸ばすところでもある。

(2) 児童観

本学級の児童は、「算数が好き」と答えた児童は、16名であった。その理由として、「問題を解くのが楽しい」、「難しい問題が解けたときにうれしい」という意見が多かった。

レディネステストの結果から、比例するものを選び、伴って変わる2つの量の関係を式に表すことができた児童は7名であった。比例の意味、文字を使って式に表すことがまだ十分定着しきれていない実態がある。

思考力・表現力の実態

算数の授業において、自分の考えを、図や表、言葉を使って書こうとする習慣は付いている。しかし、自分の考えを吟味し、さらによりよい解法はないかと再考することは十分でない。また、集団解決において考えと考えを比較したり、式と図を関連付けたりしながら説明する児童が少しずつ増えてきている。

レディネステストの結果から、比例の関係にあるか、表を使って解くことができる児童は22名であるが、何と何が比例しているのか、明確に説明できる児童は、17名であった。

(3) 指導観

単元を通して、比例・反比例の関係の意味を理解できるように、何と何が比例・反比例しているのかという2つの数量の関係を問う。

また、日常生活の中で、比例の関係を活用している場面を意識させ、児童自身が生活の中で活用できるようにさせていきたい。

比例・反比例の関係が正しく理解できるよう、表や図をもとに式を考えさせていく。また、式をグラフに表す、グラフから表を作成する、グラフから式を考えるというように双方向で考えられるようにしていく。そして、比例、反比例と言える理由、言えない理由を繰り返し説明させることで、比例・反比例の意味を正しく理解させる。

また、日常生活での問題場面を取り上げ、どの情報を使えば、解けるのか、さらによりよい解法はないかと再考できるように問題を工夫したい。

本時では、2量の変化を表したいくつかの表を読み取り、比例といえるのかどうかを考えさせる。比例の性質をとらえ直させると同時に、不規則に変化している表でも、比例していることを見付けさせていきたい。

2 単元でめざす児童の姿

- 2つの量の関係を比例や反比例の定義や性質を使ってとらえたり、表やグラフから2つの量の関係を考察したりしている。(数学的な考え方)
- 日常生活の中で、比例や反比例の関係を用いて、問題を解決しようとしている。(関心・意欲・態度)

3 単元の評価規準

	関心・意欲・態度	数学的な考え方	技能	知識・理解
単元の評価規準	日常生活の中で、比例や反比例の関係をを用いて、問題を解決しようとしている。	2つの量の関係を比例や反比例の定義や性質を使ってとらえたり、表やグラフから2つの量の関係を考察したりしている。	表やグラフから数量を読んだり、比例や反比例の関係を表やグラフに表したりすることができる。	比例や反比例の定義や性質を理解し、その関係を表やグラフに表す方法を理解している。

4 本単元において育成しようとする資質能力とのかかわり

本単元において、実際の生活場面の問題を提示することを通して、課題解決への意欲を高めるとともに、問題を解決するために、文章や必要な情報を読み取り、表に表したり、式に表したりする情報分析能力（スキル）を育成することができる。と考える。

5 単元計画（全19時間）

	学習活動	評価基準（評価方法）	資質・能力の評価（評価方法）
実験してみよう	紙の枚数と重さの関係を調べるために実際の紙の重さを量って表にまとめ、重さや厚さから枚数を求める方法を考える。(1) 課題の設定 2つの量が、どんな関係なのか考えよう。	実験に意図的に関わり、変化するいろいろな量について、その変わり方に着目しようとしている。 【関・意・態】(ノート) 表から2量の関係をとらえ、変化の様子を考察している。 【考え方】(ノート)	実験に意図的に関わり、変化する2量についてきまりを見付けようとしている。(ノート)
一 比例	情報の収集 整理・分析 紙の枚数と重さとの間にどのような関係があるのかを考える。紙の枚数から重さを求める方法を考える。(1)	紙の枚数と重さには決まった関係があることに気づき、それを利用して枚数の求め方を考えている。 【考え方】(ノート)	
	紙の枚数と厚さの間にも、枚数と重さとの関係が成り立つか考える。紙の厚さから枚数を求める方法を考え算数レポートを作成する。(1)	紙の枚数と厚さにも決まった関係があることに気づき、枚数の求め方を見出し出している。 【考え方】(ノート)	問題文を読み取り、表に整理してまとめている。(ノート)
	針金の長さや重さの表を見て、どのように変わっているかを話し合い、長さが2倍、3倍になっていること、1.5倍、2.5倍の場合や、1/2倍、1/3倍の場合に針金の重さがどのように変わるかを調べる。(1)	表から2量の関係をとらえ、比例の意味を理解している。 【知・理】(ノート)	
	いろいろな伴って変わる2つの数量の関係から、比例関係になっているものを見付け、何が何に比例しているか考える。(1)	伴って変わる2つの数量から比例関係にあるものを見付けることができる。 【技能】(ノート)	
	水槽に入れた水の量と水の深さが比例していることを知り、2量の関係を調べ、水の量と水の深さの関係をxとyを使った式に表す。(1) 針金の長さや重さの表から、決まった数を求め、関係を式に表す。比例関係はy=決まった数×xで表すことができることを知る。(1)	比例関係を式に表すことができる。 【技能】(ノート) 比例関係を表す式について理解している。 【知・理】(ノート)	
	正三角形や正方形の1辺の長さや周りの長さが比例していることが分かり、比例の式に表す。(1)		
	2量の変化を表した表から、比例関係かどうかを確かめる方法を考える。(1) (本時9/19)	比例関係にある2量を確認する方法を考えている。 【数学的考え方】(ノート)	比例の定義や性質に照らし合わせながら表を読み取っている。(ノート)
二 比例のグラフ	水槽に入れた水の量と深さの関係を調べ、表に表す。グラフに表し、どんなグラフになるか調べ、比例関係を表すグラフの特徴を知る。(1) グラフから対応する数量など様々な情報を読み取る。(1)	比例関係を表すグラフの特徴を理解している。 【知・理】(ノート) グラフから対応する数量を読み取ることができる。 【技能】(ノート)	グラフから必要な情報を読み取っている。(ノート)
三 比例の性質を使って	コーラの量とコーラの中に含まれる砂糖の量との関係を調べ、コーラ250mlの中に含まれる砂糖の量を比例の考え方をを用いて求める。(1) おもりの重さとゴムの伸びる長さの関係を表したグラフを読み取る。グラフから、2量の関係を式に表したり、グラフの範囲外の量について求めたりする。(1) 既習事項の理解を深める。(1)	比例関係を用いて問題を解決している。 【考え方】(ノート) 比例のグラフをもとにして、問題を解決している。 【考え方】(ノート)	グラフから読み取った情報を整理して表にまとめている。(ノート)
四 反比例	面積が一定の長方形の、縦と横の長さの関係を調べ、反比例の意味をまとめ、定義を知る。(1)	2量の関係を、表などを用いて考えている。 【考え方】(ノート) 反比例の意味を理解している。 【知・理】(ノート)	
	面積一定の長方形の横の長さをx、縦の長さをyとしたときに、xとyの対応する数のきまりを見つけ、式に表し、反比例の関係を表す式を知る。(1)	反比例の関係を式に表すことができる。 【技能】(ノート)	
	x+y=24のx、yに対応する値の組を表す点を取り、グラフに表す。反比例のグラフと比例のグラフを比べ、反比例の関係にある問題を解く。(1)	反比例のグラフの特徴を理解している。 【知・理】(ノート)	
	表から2量の関係が反比例していることに気づき、反比例の関係を式に表す。(1) 既習事項の理解を深める。(1)	反比例の関係に気づき、式に表すことができる。 【技能】(ノート)	グラフを正しく読み取っている。(ノート)
	まとめ・創造・表現 ふりかえり		

6 本時の展開

(1) 本時の目標

伴って変わる2つの数量の関係を考察し、比例の性質を活用して説明することができる。

(2) 観点別評価規準

2つの量の変化の仕方から、比例の関係にあるかどうか比例の定義や性質を使って説明している。

【数学的な考え方】

(3) 学習の展開

学習活動	指導上の留意点（・） 配慮を要する児童への支援（◆）	評価規準（評価方法） 教科の指導事項（○） 資質・能力（★）																																										
<p>1 問題に出合う。</p> <p>比例関係にあるのはどれだろう。</p> <p>2 解決の見通しをもち、本時のめあてをつかむ。</p> <p>3 自力解決する。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>えんぴつの本数x (本)</td> <td>1</td> <td>3</td> <td>10</td> <td>12</td> <td>36</td> </tr> <tr> <td>代金y (円)</td> <td>50</td> <td>150</td> <td>500</td> <td>600</td> <td>1800</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>正方形の一边の長さx (cm)</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>9</td> <td>11</td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>面積y (cm²)</td> <td>1</td> <td>16</td> <td>81</td> <td>121</td> <td>225</td> </tr> </table> <p>縦の長さが3cmの長方形</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>長方形の横の長さx (cm)</td> <td>2</td> <td>5</td> <td>7</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>長方形の面積y (cm²)</td> <td>6</td> <td>15</td> <td>21</td> <td>33</td> </tr> </table> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>時間x (分)</td> <td>7</td> <td>8</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>おふろの水の量y (L)</td> <td>84</td> <td>96</td> <td>108</td> </tr> </table> <p style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">どうすれば、比例しているかどうか、たしかめることができるかな。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 比例の定義や性質をたしかめる。 ・ 表に矢印を書いたり、数値を書き加えたり、説明の言葉を書いたりして、比例かどうかを確かめさせる。 ・ 式を書いている場合は、何を求めている式なのか、式の意味をきちんと書かせる。 ◆ x=1あたりのyの値を書き込める表や矢印がかいてあるヒントカードをわたす。 	えんぴつの本数x (本)	1	3	10	12	36	代金y (円)	50	150	500	600	1800	正方形の一边の長さx (cm)	1	4	9	11	15	面積y (cm ²)	1	16	81	121	225	長方形の横の長さx (cm)	2	5	7	11	長方形の面積y (cm ²)	6	15	21	33	時間x (分)	7	8	9	おふろの水の量y (L)	84	96	108	
えんぴつの本数x (本)	1	3	10	12	36																																							
代金y (円)	50	150	500	600	1800																																							
正方形の一边の長さx (cm)	1	4	9	11	15																																							
面積y (cm ²)	1	16	81	121	225																																							
長方形の横の長さx (cm)	2	5	7	11																																								
長方形の面積y (cm ²)	6	15	21	33																																								
時間x (分)	7	8	9																																									
おふろの水の量y (L)	84	96	108																																									
<p>4 全体で話し合う。</p>	<p>(表を横で見る)</p> <p>一方が○倍、△倍になるともう一方も○倍、△倍になっているかどうかを確かめる。</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>x</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>y</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>(表を縦で見る)</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td>x</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>y</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>y ÷ x = 決まった数 どこでも同じことが言える y = 決まった数 × x で表される</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 共通点や相違点に着目して整理させる。 ・ 比例かどうかだけでなく、どのようにして確かめているのか、方法に着目して分類させる。 	x				y				x			y			<p>★ 表を縦に見たり横に見たりといろいろな方法で情報を読み取るうとしている。(ノート)</p>																												
x																																												
y																																												
x																																												
y																																												
<p>5 まとめをする。</p> <p>6 適用題を解く。</p> <p>7 振り返りをする。</p>	<p>比例かどうか、確かめるためには、表を横に見て、一方が○倍、△倍になっていたら、もう一方も、○倍、△倍になっているかたしかめる方法と、表を縦に見て、きまった数を見付け、式に表したりする方法がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 3つの表から、比例かどうかを判断する問題を解かせる。 	<p>○ 比例の定義や性質を使って、比例関係にあるかどうかを説明している。 【考え方】(ノート)</p>																																										

平成27年度 ご指導いただいた先生方

広島大学大学院	教育学研究科	教授	林 武広 先生
関西大学	総合情報学部	教授	黒上 晴夫 先生
広島大学大学院	教育学研究科	教授	木村 博一 先生
福岡教育大学	国語教育講座	教授	河野 智文 先生
福岡教育大学	数学教育講座	准教授	岩田 耕司 先生
東部教育事務所		指導主事	村上 正子 先生
東部教育事務所		指導主事	升谷 英子 先生
尾道特別支援学校		教育相談主任	村上 大樹 先生

平成27年度研究同人

佐々木智彦	加登谷州章	榎田 有香	中村 恵
石津 誠	隆杉 佳代	舛上 敏成	森口 結香
谷川 友弥	渡邊 翠大	才谷 瑛一	島本佳代子
川本美紀子	石倉さゆり	保森 智彦	田中 美雪
前田真由美	寺岡 葉子	福本 英司	高橋 洋子
藤本 陽子	石田 博子	貝川 充洋	柏原ひとみ
Katie Metcalfe	Philip Kempthorne	牟田小百合	

日本遺産 「尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市」

尾道三山と対岸の島に囲まれた尾道は、町の中心を通る「海の川」とも言うべき尾道水道の恵みによって、中世の開港以来、瀬戸内随一の良港として繁栄し、人・もの・財が集積した。

その結果、尾道三山と尾道水道の間の限られた生活空間に多くの寺社や庭園、住宅が造られ、それらを結ぶ入り組んだ路地・坂道とともに中世から近代の趣を今に残す箱庭的都市が生み出された。

迷路に迷い込んだかのような路地や、坂道を抜けた先に突如として広がる風景は、限られた空間ながら実に様々な顔を見せ、今も昔も多くの人を惹きつけてやまない。

文化庁ホームページより

